

金沢工業大学 御中

平成17年度 授業調査 報告書

2006.07.24

INDEX

<1> 本調査の全体像	2
<2> 基本的な集計	8
<3> 属性別のクロス集計	15
<4> 科目区分別のクロス集計	31
<5> 成績、満足度別のクロス集計	42
<6> 重回帰分析、その他の集計による分析	53
<7> 全体のまとめ	57

< 1 > 本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。

2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容				
有効回答数	1年次生 2年次生 Cクラス Sクラス 合計有効回答数	45,911件 31,522件 21,330件 2,017件 100,780件	留年して平成17年度もFクラスである学生の回答が25件、同様にJクラスである学生の回答が895件があったが、これらを集計に加えると新旧の学科が混在してしまうため、FクラスとJクラスは集計からは除外した。また、クラス未記入の9件も集計から除いた。		
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。				
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919
	平成17年度(今回)	36,766	33,361	30,653	100,780
対象科目	581科目				
集計上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成16年度の入学者より学科体制が変わっているため、集計に関しては1年次生と2年次生は新学科体制で集計、CクラスとSクラスは旧学科体制で集計を行った。 ● 上記の学科体制の変更に伴い、学系が「7学系」より「3学部15学科」になったため、変更前後の学系同士の比較は行っていない。また、新学科体制に関しては学部毎、学科毎の比較を行った。科目区分の考え方も変更になったため、変更前後の科目区分による比較も行っていない。 				
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施期間: 各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ● 実施方法: 記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、ならびに回収を行った。 ● 回答用紙はOCR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 				
調査主体	学校法人 金沢工業大学				
集計	有限会社 アイ・ポイント				

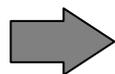
3) 設問見直しの考え方

平成17年度(今回)の設問見直しは下記のような観点で行った。

- 学生から見た各科目の受講の流れを整理し、「受講前」「受講当初」「受講中」「受講後」という場面に分けて聞くことで、授業改善に役立てやすいデータを収集することとした。
- また、各設問の内容も整理し、「授業内容」「授業支援」「学生の姿勢」「教員の姿勢」「総合満足度」に分けて聞くことで、課題が絞りやすくなるようにした。
- 今までは学生の取組姿勢だけを聞いていたが、上記にあるように「教員の姿勢」を聞くことで、学生と教員の両者の姿勢を比較できるようにした。
- また、以前の設問において、間違いなく関連しそうな項目は排除する(積極性と興味など)ことで、全体を整理した。
- ただし、ほとんどの設問が過去のもので変わったため、短期的には過年度との比較ができなくなっている。

4) 設問の内容変更

	旧アンケート内容
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスパワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスパワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

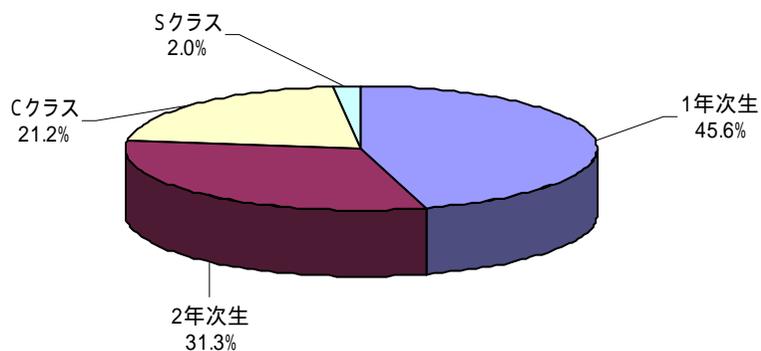


	新アンケート内容	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿って行っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスパワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

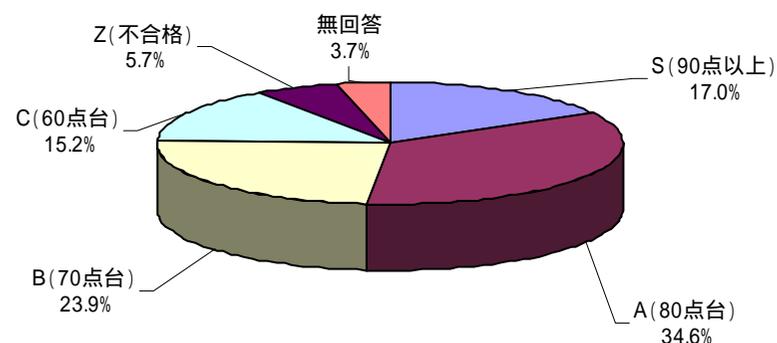
< 1-2 > 回答者の基本属性

- 回答者には留年した学生の回答がFクラスで25件、Jクラスで895件あったが、これらを集計に加えると学科別集計、科目区分別集計に新旧の学科が混在してしまうため、FクラスとJクラスは集計からは除外した。その結果、1年次生は45.6%、2年次生は31.3%、Cクラスは21.2%、Sクラスは2.0%という割合であった。
- 各科目が開講されている学期は春学期分が36.5%、秋学期分が33.1%、冬学期分が30.4%であった。なお、夏期特別は春学期に含めて集計している。
- 成績の割合では、S(90点以上)が17.0%、A(80点台)が34.6%、B(70点台)が23.9%、C(60点台)が15.2%であった。ここまでの合計が合格者であり、その合計は90.7%であった。そして、Z(不合格者)が5.7%というものであった。

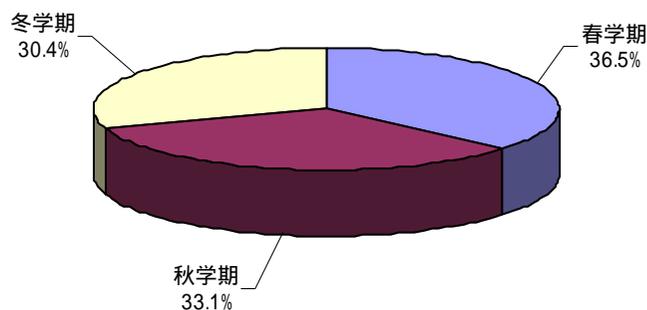
回答者のクラス分類



回答者の成績分類



回答の学期分類



- 平成16年度の入学生(現2年次生)から学科体制が変更になっているため、現在の在學生は基本的には1、2年次生の3学部・15学科体制と、C、Sクラスの7学系体制のいずれかに属している。
- 1、2年次生の属性別集計では3学部での比較を行ったが、割合で見ると「E:工学部」が最も多く、1年次生では46.6%、2年次生では48.1%と約半数を占めている。
- C、Sクラスの属性別集計では7学系での比較を行ったが、こちらでは「M:機械系」が最も多く、Cクラスでは20.2%、Sクラスでは30.3%であり、学年によって受講者割合に大きな差があった。

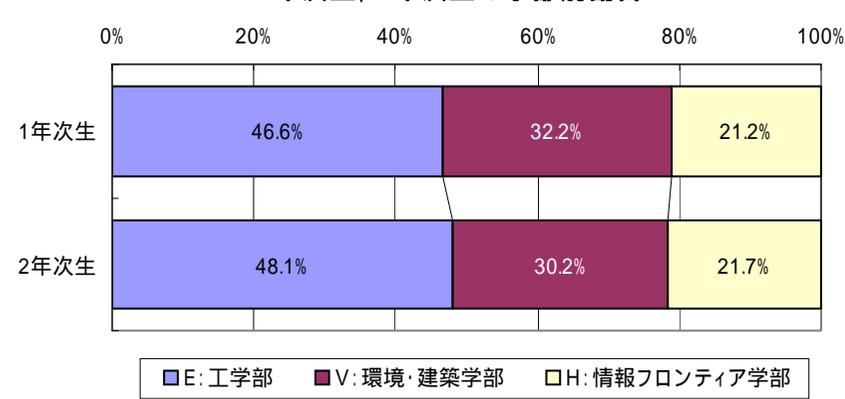
1年次生、2年次生の学部、学科別回答数

学部	学科	1年次生	2年次生
E:工学部	EM:機械工学科	4,458	3,086
	ER:ロボティクス学科	3,328	2,040
	EA:航空システム工学科	1,585	813
	EE:電気電子工学科	3,098	2,489
	EI:情報通信工学科	2,254	1,831
	EC:情報工学科	6,694	4,901
V:環境・建築学部	VB:バイオ化学科	2,865	1,687
	VC:環境化学科	1,795	1,108
	VE:環境土木工学科	3,189	2,558
	VA:建築学科	4,402	2,565
H:情報フロンティア学部	VD:建築都市デザイン学科	2,518	1,614
	HM:メディア情報学科	3,720	2,371
	HB:生命情報学科	2,269	1,749
	HP:心理情報学科	1,964	1,497
	HS:情報マネジメント学科	1,772	1,213
合計		45,911	31,522

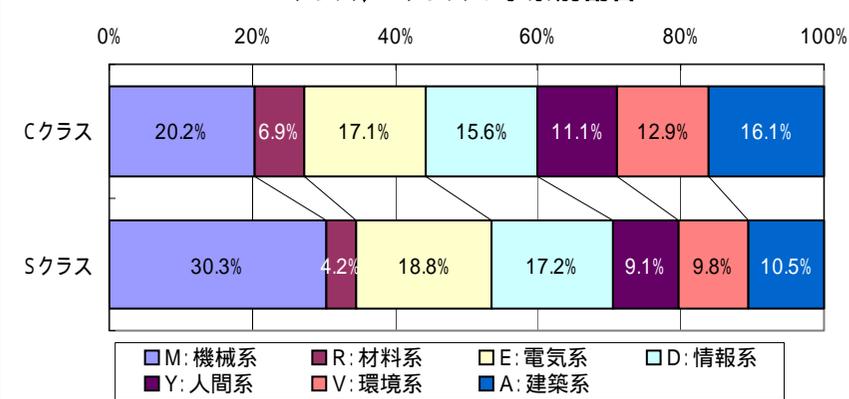
Cクラス、Sクラス学系別回答数

集計用学系	Cクラス	Sクラス
M:機械系	4,313	612
R:材料系	1,481	85
E:電気系	3,657	380
D:情報系	3,337	347
Y:人間系	2,360	183
V:環境系	2,757	198
A:建築系	3,425	212
合計	21,330	2,017

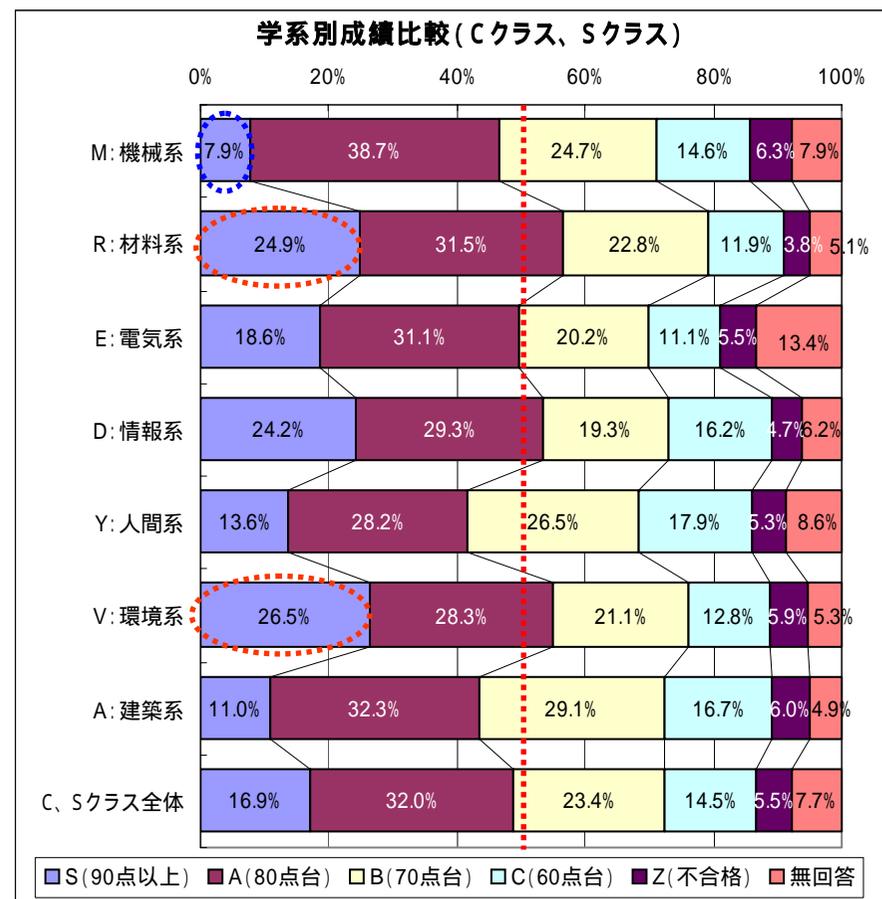
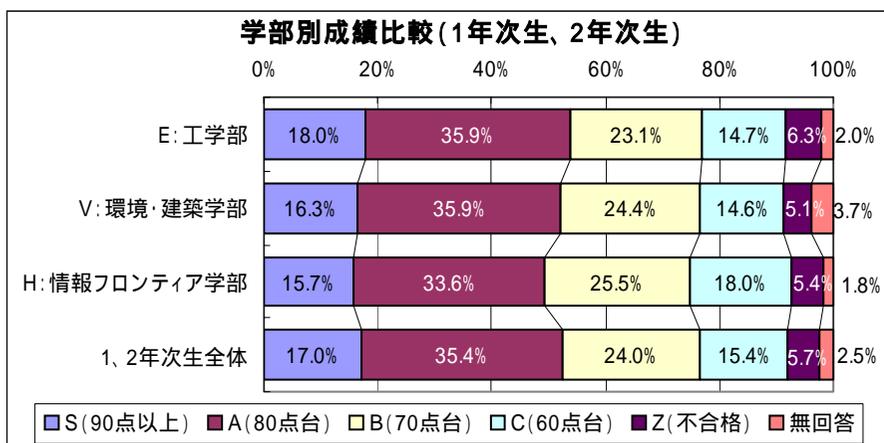
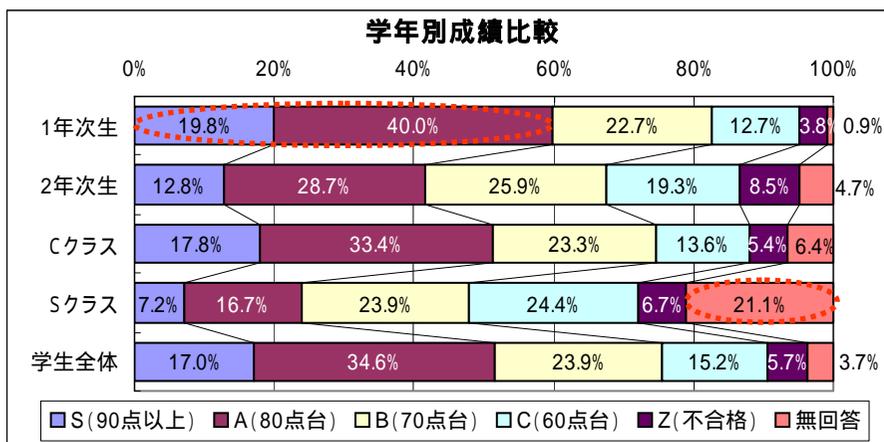
1年次生、2年次生の学部別割合



Cクラス、Sクラスの学系別割合



- 成績の割合を学年別に確認したところ比較的大きな差が見られた。まず、目立ったのは「Sクラス」で良い成績の割合が少ない点であったが、これは「無回答」の割合が多い影響である。「Sクラス」では何らかの理由で成績が確定しなかった科目が多かったものと思われる。その他の学年では「1年次生」で「S」や「A」の成績の良いものが多く、「2年次生」でそれらが減少し、「Cクラス」で増加している傾向が見られた。
- 1、2年次生の学部別比較を見ると、わずかに「E:工学部」で成績の良いものが多く、「H:情報フロンティア学部」で成績の良いものが少ない傾向が見られたが、ほとんど差がないと言える程度のものであった。
- C、Sクラスの学系別比較では「V:環境系」と「R:材料系」で「S」が多く、「M:機械系」で少ない点が目立っていた。そして、「S」と「A」を合わせた割合を比較すると、やはり先と同様に「V:環境系」と「R:材料系」で成績の良いものがやや多く、「Y:人間系」「A:建築系」がやや少なめであった。各学系のカリキュラムによるものと思われるが、学系によって成績の付けられ方にも少し差があるようであった。

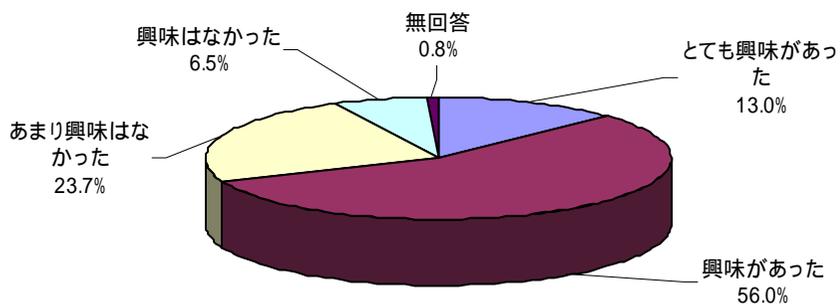


< 2 > 基本的な集計

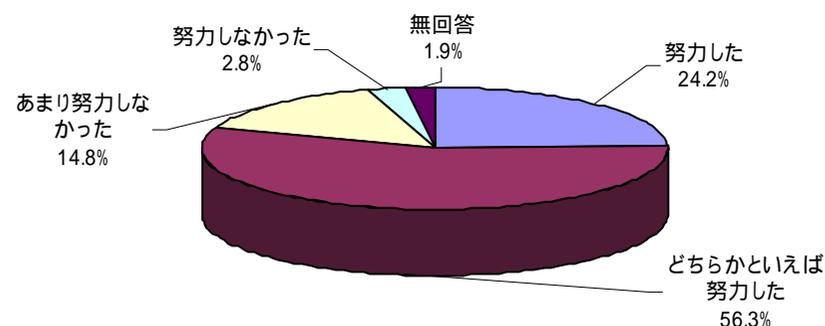
<2-1> 全項目の単純集計

- 受講前に限定することを明示して授業に対する「A:事前の興味」を聞いたところ、「とても興味があった」が13.0%、「興味があった」が56.0%であり、合計69.0%は興味を持っていたが、残りの3割は事前に興味を持てないまま授業に入っていたということが分かった。
- 受講当初の学習支援計画書による「B:事前の内容理解」に関して、まず「説明はなかった」を見ると0.6%にとどまっおり、ほとんどの科目で事前説明は行われていることが確認できた。そして、内容の理解であるが、「よく理解できた」が10.5%、「理解できた」が68.1%であり、合わせると約8割は授業の概要や進め方、身につく能力を理解できていたようであった。
- 授業を受けている中での「C:自分の熱意と努力」に関しては、24.2%と全体の1/4が「努力した」と答えていた。そして、56.3%が「どちらかといえば努力した」と答えており、合わせると約8割は熱心に受講し、理解するために努力していたようであった。
- 1回の授業に対する「D:予習・復習、課外学習活動」では、「2時間以上」が11.0%、「1～2時間」が20.9%、「1時間程度」が22.3%であり、合わせて54.2%は1時間以上の予習・復習、課外学習活動を行っていた。一方、「学習は特にしなかった」も22.3%いた。

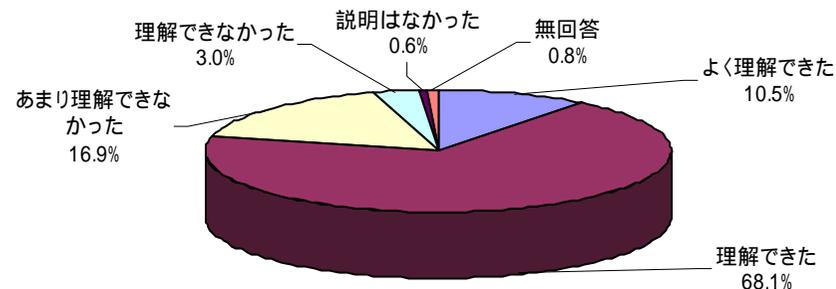
A: 受講前、この科目に興味はありましたか



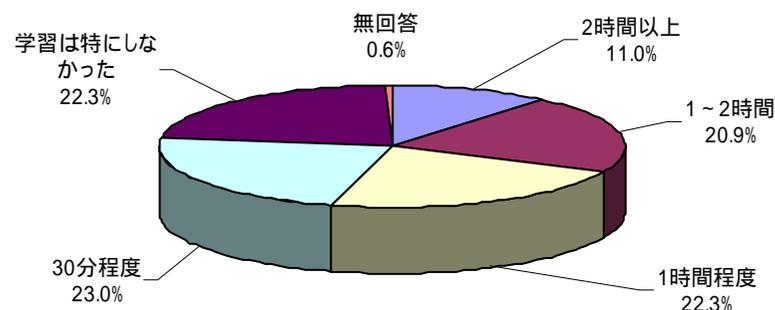
C: 授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか



B: 最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか

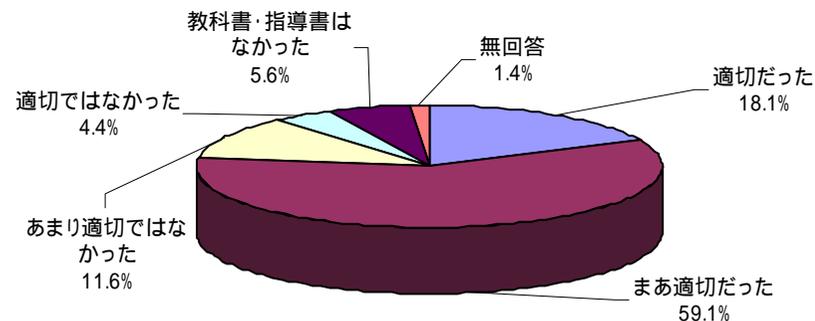


D: 1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか

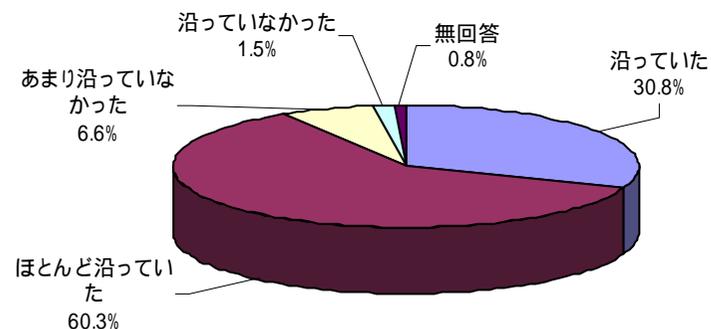


- 授業を理解する上での「E:教科書・指導書の適切さ」に関しては、「適切だった」が18.1%、「まあ適切だった」が59.1%と、8割弱は適切であったと感じていた。また、「教科書・指導書はなかった」は5.6%であった。
- 次に、授業の理解を深める上での「F:課題、レポート等の評価」を見ると、「十分役立った」が19.4%、「役立った」が60.6%であり、上記の「教科書・指導書の適切さ」と同様に80.0%が課題やレポートが役立っていたと感じていた。なお、この設問では過年度との比較のために選択肢を以前と共通にしているため、「十分役立った」「役立った」「あまり役立たなかった」と評価は非対称となっている。
- 授業の内容に対しての「G:学習支援計画書との一致」に関しては、30.8%が「沿っていた」、60.3%が「ほとんど沿っていた」と答えており、9割の学生は授業が学習支援計画書に沿っていたと感じており、学習支援計画書が有効に活用されていることが分かった。
- 「H:授業の進度」に関しては、「速かった」という意見は13.3%にとどまっており、「適切だった」が26.9%、「どちらかといえば適切であった」が56.6%であり、8割以上は授業の進度に関してそれほど大きな問題を感じていないようであった。

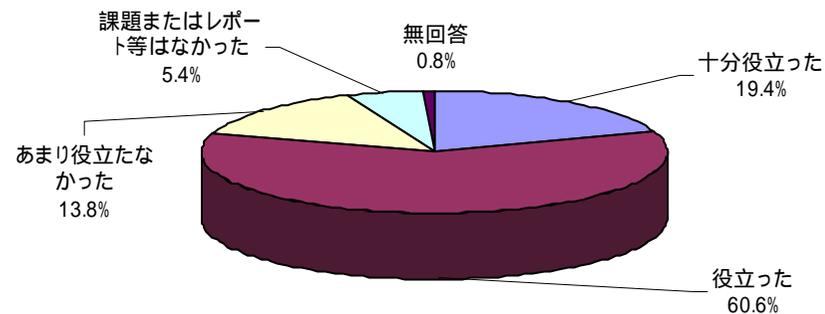
E:教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか



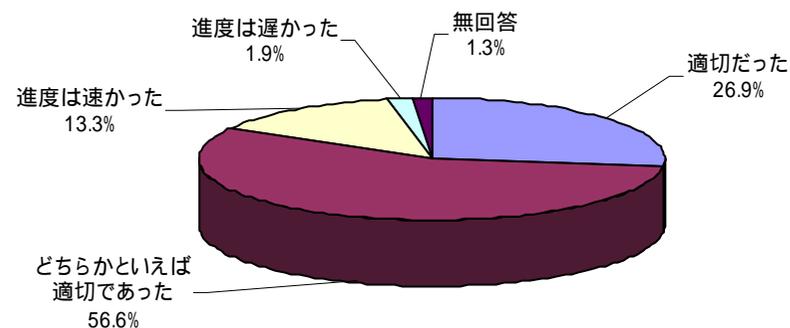
G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



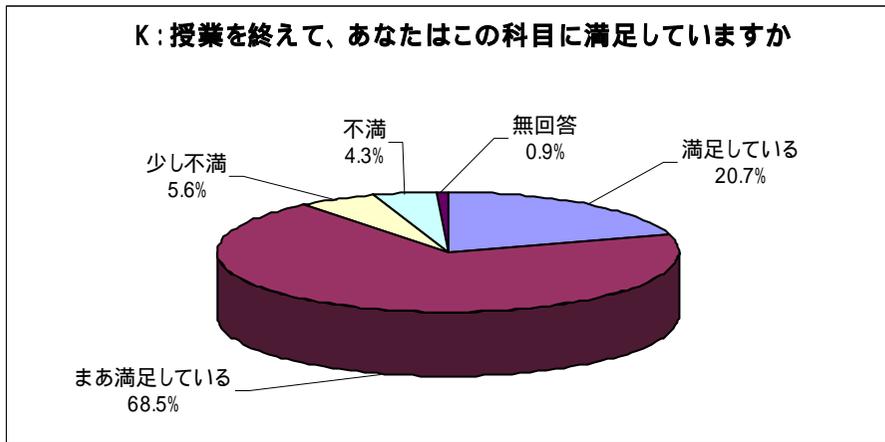
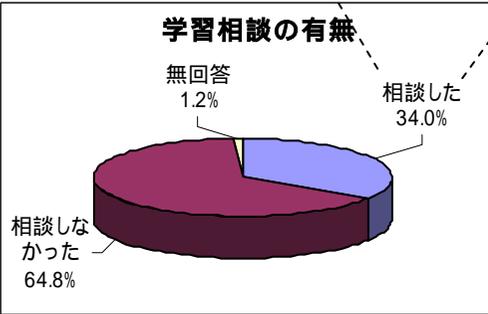
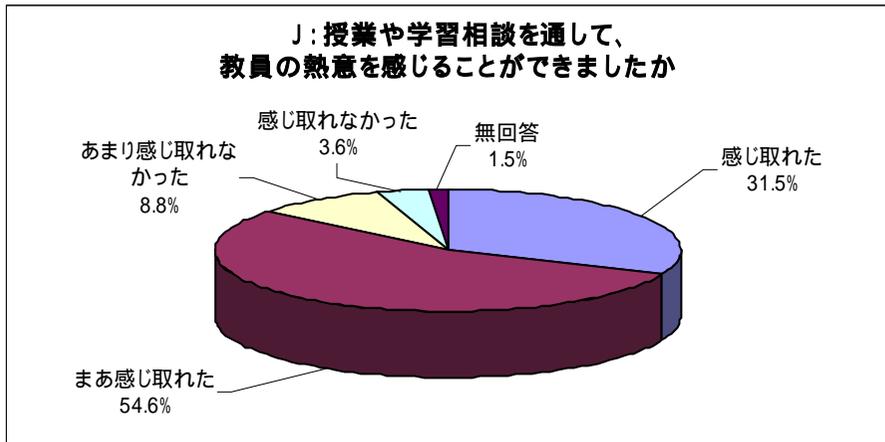
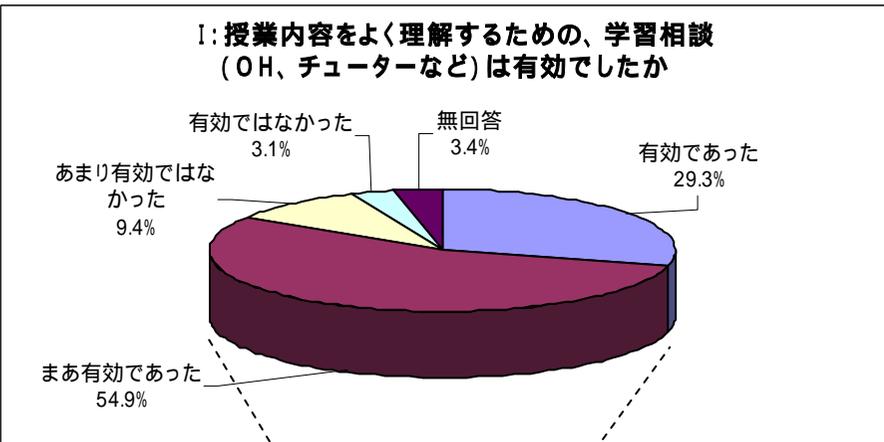
F:課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか

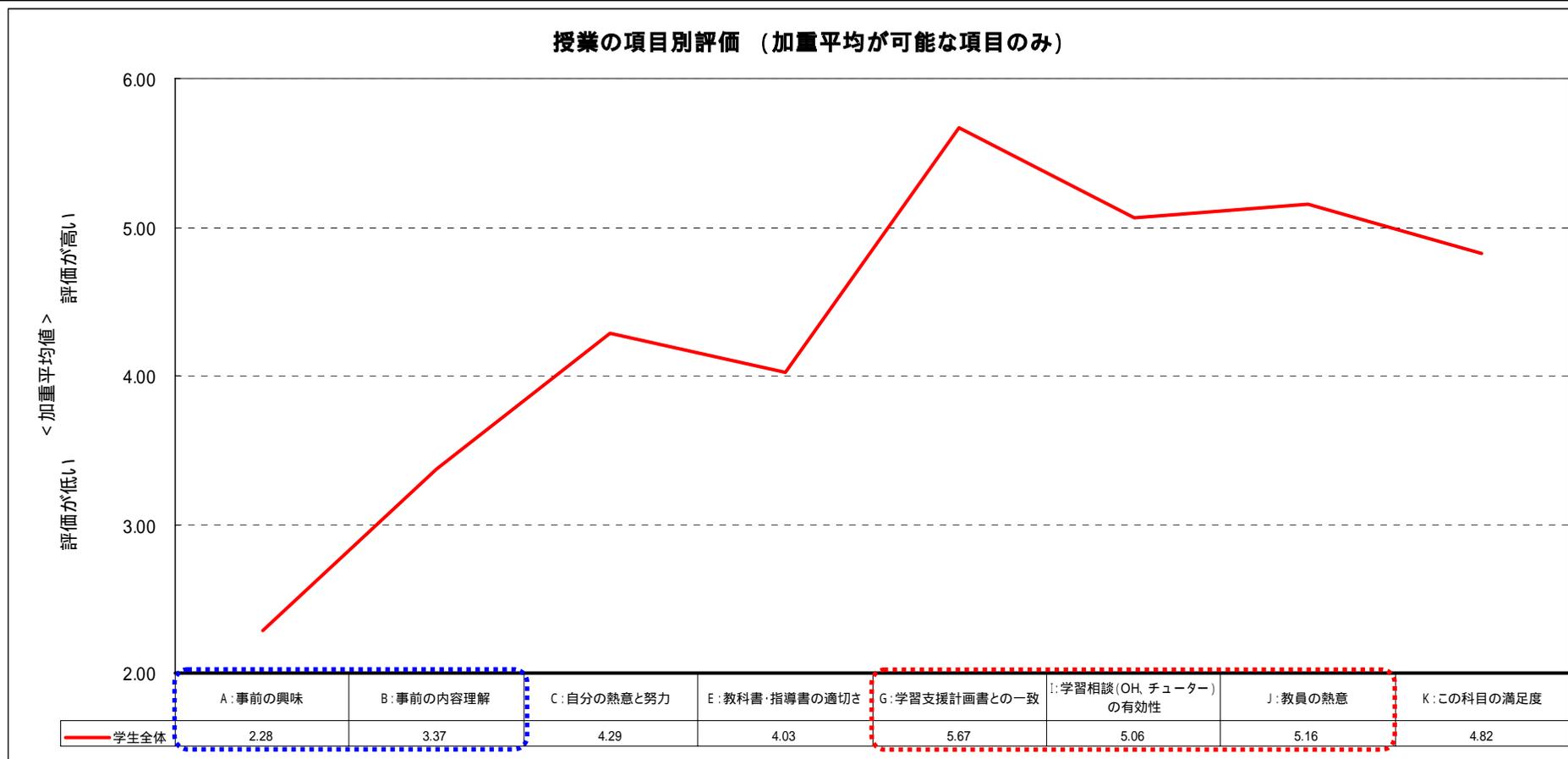


- 授業内容を理解するための「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」に関しては、「相談しなかった」という選択肢も用意したため、それを「学習相談の有無」として別グラフで確認したところ、64.8%は学習相談は行わなかったということであった。
- そして、「相談した」という回答だけを抽出して有効性を見たところ、「有効であった」は29.3%、「まあ有効であった」は54.9%であり、学習相談を利用している学生の約8割は有効だと感じているようであった。
- 授業や学習相談を通しての「J: 教員の熱意」に関しては、「感じ取れた」が31.5%と全体の1/3ほどを占め、「まあ感じ取れた」の54.6%と合わせると86.1%と、多くの学生が教員の熱意を感じているようであり、教員の熱意が学生に届いていることが確認できた。
- 受講後の「K: この科目の満足度」に関しては、20.7%が「満足している」、68.5%が「まあ満足している」と回答しており、約9割が満足しており、授業全体で見ると非常に高い満足度であることが分かる。



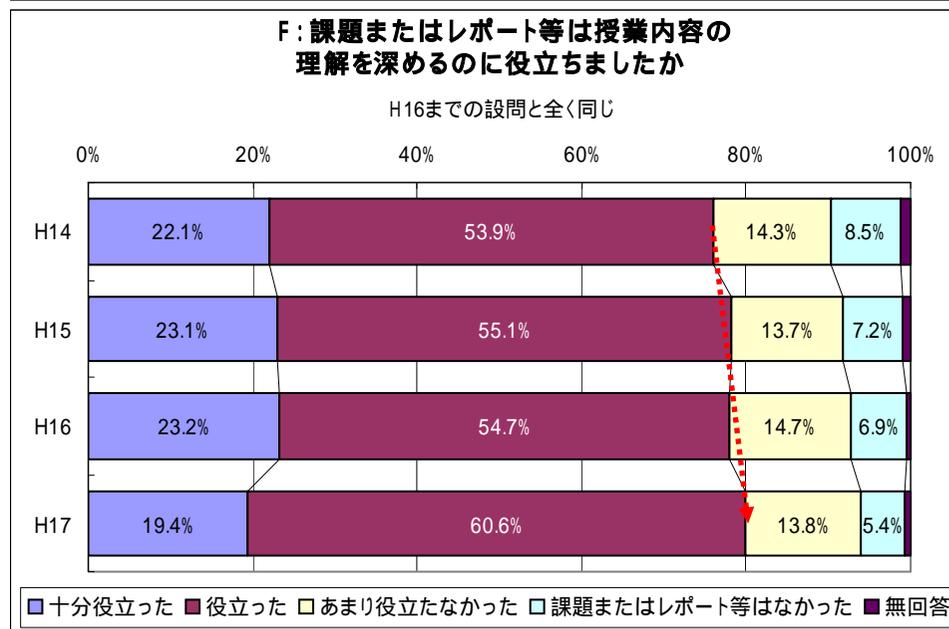
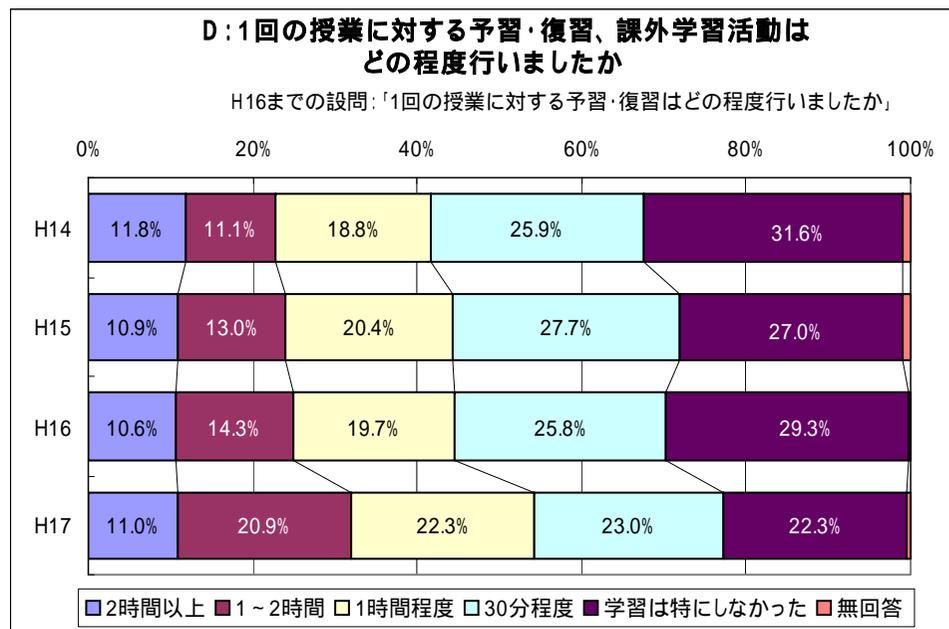
< 2-2 > 加重平均が可能な項目の集計

- 今回から選択肢が「そう思う～ややそう思う～あまりそう思わない～そう思わない」などのように、正負で左右対称の意味合いを持つものに関して加重平均による比較を行った。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。なお、「～を使っていない」「無回答」のような、評価に関係しないものは集計に加えていない。全体の単純集計の加重平均を見たものが下記グラフになるが、今回の調査で加重平均で評価できるものは8項目になる。
- まず、最もスコアが高いのは「G:学習支援計画書との一致」であった。次いで「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」のスコアが高く、授業全体で見ると「授業の内容は学習支援計画書とよく一致しており、教員の熱意も感じられる。そして分からない点の理解には学習相談が役立っている」と感じているとまとめることができる。
- 最もスコアが低くて今後の改善が求められるのは「A:事前の興味」であり、次いで「B:事前の内容理解」のスコアが低めであった。低いといってもマイナススコアではないためそれほど緊急性が高くはないが、授業が始まる前にどのようにして学生に期待感を抱かせるかという導入部分が大きなテーマであると言える。



< 2-3 > 過年度との比較

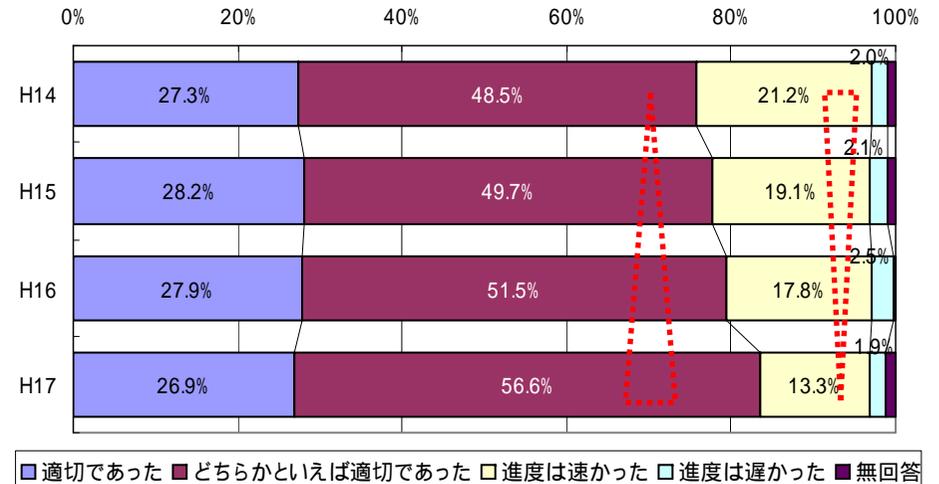
- 今回から設問を大きく変えているため、過年度との比較ができるものは少ないが、4つの設問に関して経年変化を確認した。
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」では、H14からH16まではあまり大きな変化がなかったが、H17には「1～2時間」「1時間程度」が増加し、全体として予習・復習、課外学習活動の時間が長くなっていた。
- この時間の伸びは、H17より「課外学習活動」を加えたため適用範囲が大きく解釈されている可能性も考えられる。
- 「F: 課題、レポート等の評価」はそれほど大きな変化ではないが、H17に「十分役立った」が減少して「役立った」が増加していた。
- H17に「十分役立った」が減少しているものの、H14から見ると全体としては課題、レポート等の評価は良くなっていると言える。



- 「H:授業の進度」に関しては「適切であった」と「進度は遅かった」はH14からほとんど変わっていないが、「進度は速かった」が減少して「どちらかといえば適切であった」が増加し、授業の進度に関しては継続的に改善されていることが確認できた。
- 「K:この科目の満足度」はH15からの比較になるが、それほど大きな変化はないものの「まあ満足」は増加しており、「満足」と合わせるとH15より継続的に満足度が上がってきていることが確認できた。
- 「満足」と「まあ満足」を合わせたもので比較すると、H15に86.2%であったものが、H16には1.7ポイント増加して87.9%となり、今回のH17には1.3ポイント増加して89.2%となっていた。

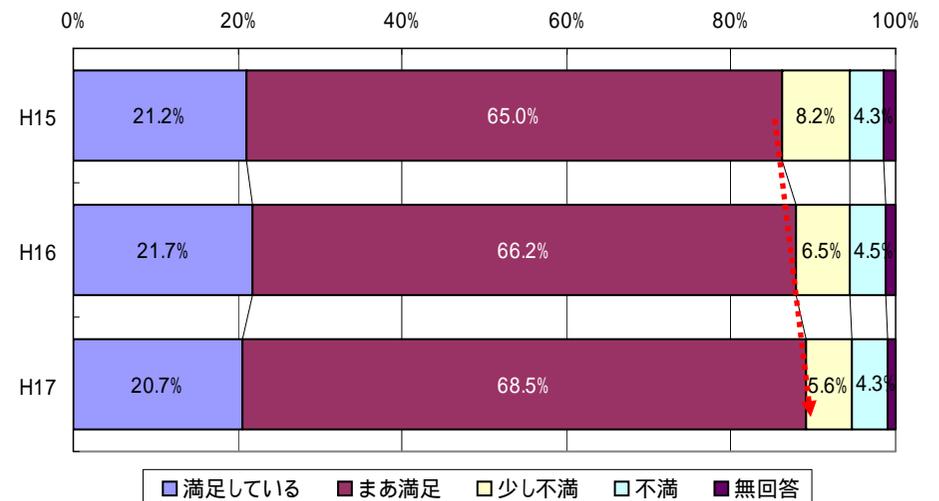
H: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか

H16までの設問と全く同じ



K: 授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか

H16までの設問:「あなたはこの科目に満足していますか」

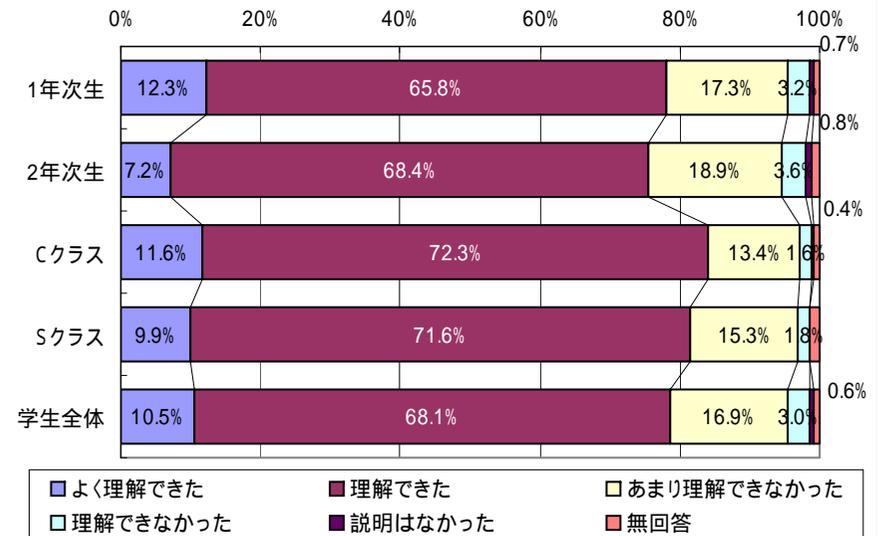


<3> 属性別のクロス集計

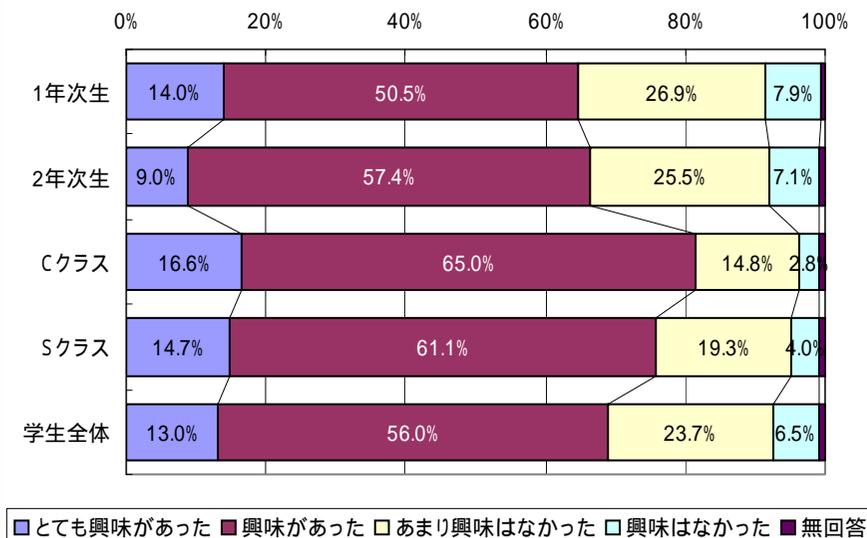
<3-1> 学年(クラス)別の比較

- 「A:事前の興味」を学年別に見ると、「とても興味があった」だけでは「2年次生」の少なさが目立ち、「興味があった」までを加えると「Cクラス」が授業への興味が最も強く、「1年次生」が最も弱かった。
- 授業の履修方法との関係も強いと思われるが、「1年次生」では一部のフレッシュな学生は受講前から強い興味を持っているが、全体としては「やらされ感」があり興味は低い。「Cクラス」になると内容が専門化するためか興味が非常に強くなり、「Sクラス」では単位取得の漏れをカバーするためか興味が下がるという状況が考えられる。
- 「B:事前の内容理解」は、差は小さいが「2年次生」の理解度が最も低く、次いで「1年次生」「Sクラス」「Cクラス」の順であった。この設問では「学習支援計画書や説明の不備で理解できなかった」とも捉えられるが、次の設問での結果から考えると「2年次生は積極性がなくて事前の理解度も低かった」と考えるのが妥当と思われる。
- 「C:自分の熱意と努力」では「Cクラス」が最も努力しており、次いで「Sクラス」「1年次生」となり、「2年次生」が最も努力していなかった。しかし、「2年次生」でも76.9%は熱意を持って努力していると回答しており、決して低いものではなかった

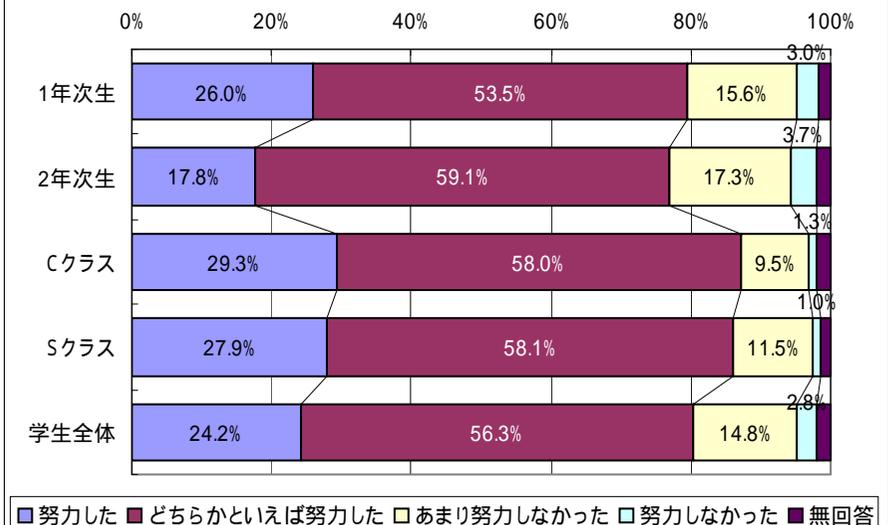
B:最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか



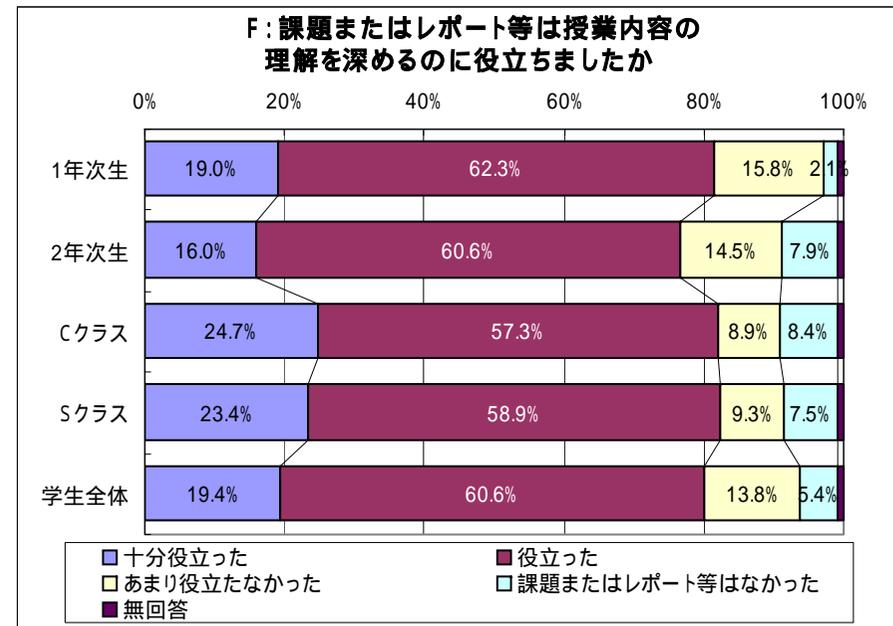
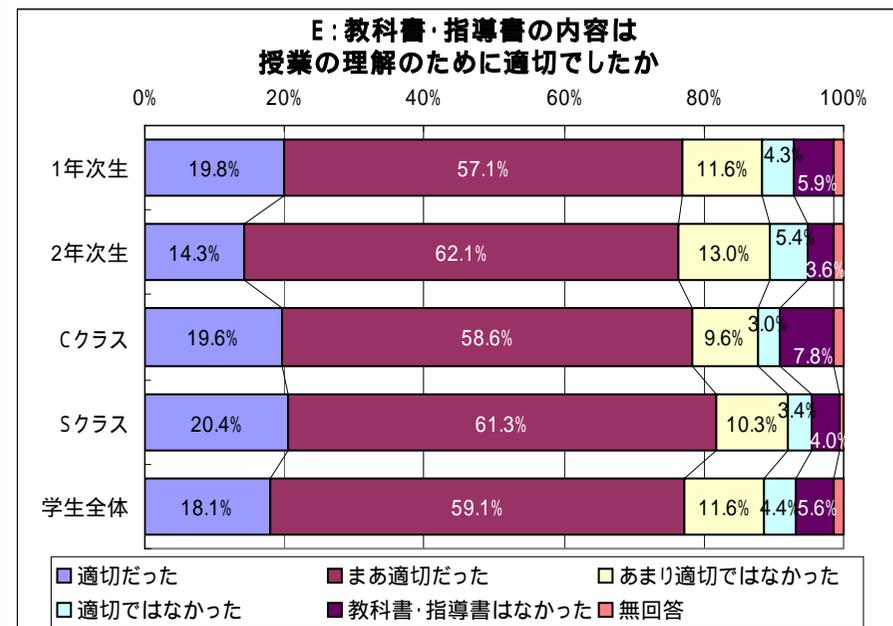
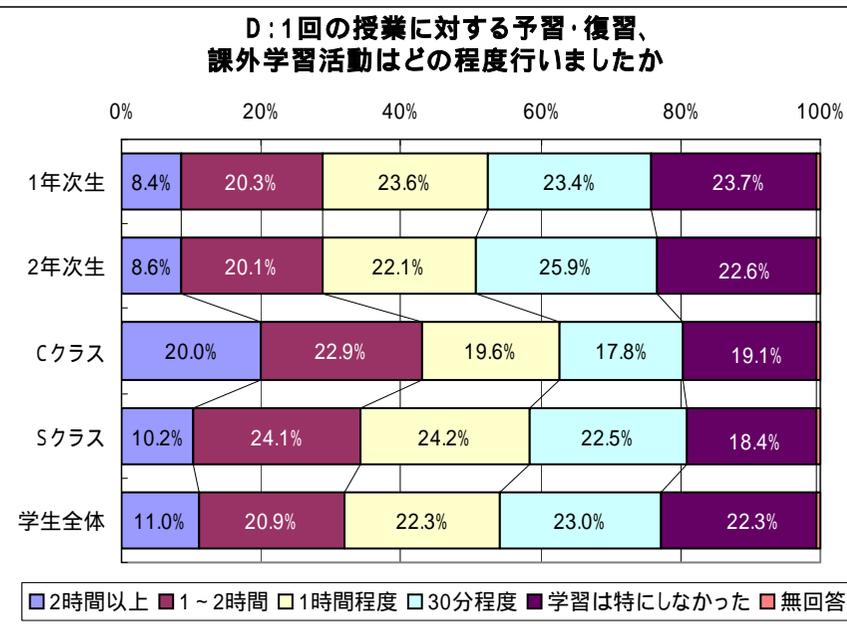
A:受講前、この科目に興味はありましたか



C:授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか

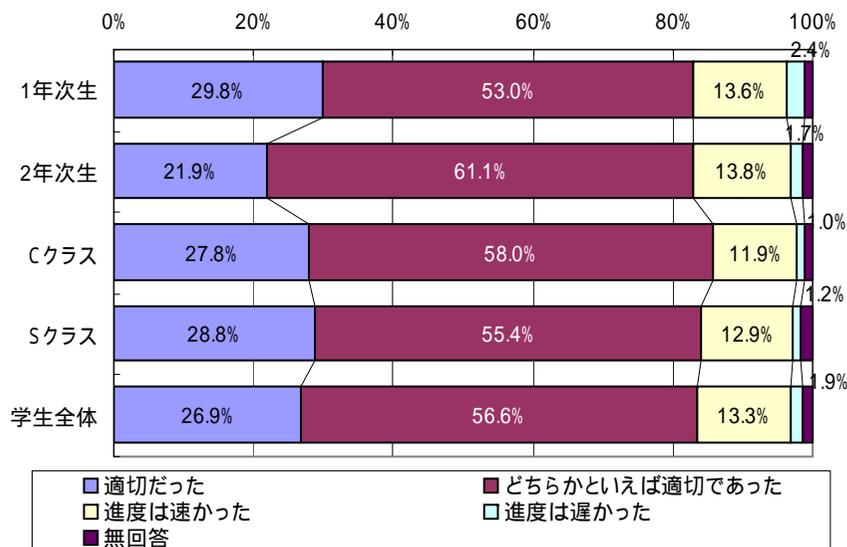


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」に関しては「Cクラス」がだけが非常に長い時間を充てており、その他の学年では「Sクラス」がやや長いもののほぼ同じであった。「Cクラス」の授業が高度化しているか、授業への興味が高まって積極的に時間を充てているといった状況が考えられる。
- 「E: 教科書・指導書の適切さ」では、「適切だった」が「2年次生」で低かったがその他の学年ではあまり差はなく、「まあ適切だった」までを合わせると差は非常に小さいものの「Sクラス」の評価が高く、「Cクラス」がそれに次いでいた。
- 「F: 課題、レポート等の評価」に関して、まず「課題またはレポート等はなかった」を見ると「1年次生」が低く、「1年次生」の授業では課題やレポートが多く出されているようであった。
- 「十分役立った」は「Cクラス」「Sクラス」で多かったが、高学年になるほど、課題やレポートの意味合いを理解して、自分に役立つものとして取り組んでいるのではないかと思われる。そして、前項からも分かるように「2年次生」は積極性に欠ける面が見られるため、課題やレポートにもやらされ感を感じているのではないかと思われる。

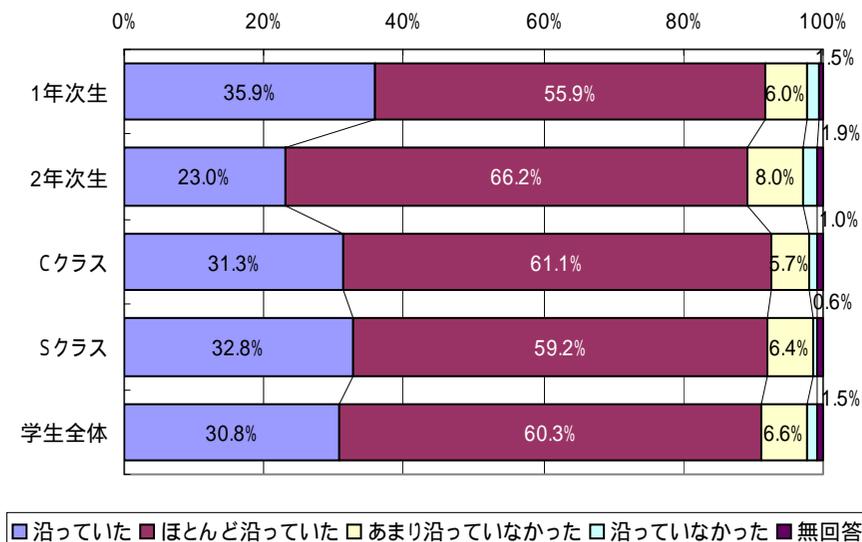


- 全体では「G:学習支援計画書との一致」に関して、「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」を合わせると9割は沿っていたという高い評価であったため学年毎の差はつきにくい、「沿っていた」だけを見ると、「1年次生」の評価がやや高く、それに「Sクラス」「Cクラス」が次いでおり、「2年次生」の評価が最も低かった。
- 「H:授業の進度」も「適切であった」「どちらかといえば適切であった」の合計は学年で差が少なく、どの学年でも8割は進度が適切だと感じていた。ただし、「適切だった」だけを見ると「2年次生」でやや少なめであった。「2年次生」は「速かった」「遅かった」とは感じていないものの、授業の進度の評価はやや低かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」では高学年(C、Sクラス)と低学年(1、2年次生)で傾向がハッキリと分かれており、「相談しなかった」は低学年では7割弱、高学年では6割弱であった。
- 利用率はハッキリと異なっており、その理由として「低学年では授業内容的に学習相談を受けるまでもない」「低学年には広報が行き届いていない」「低学年には抵抗がある」などが考えられるが、今後は利用率アップを目指すべきだと言える。

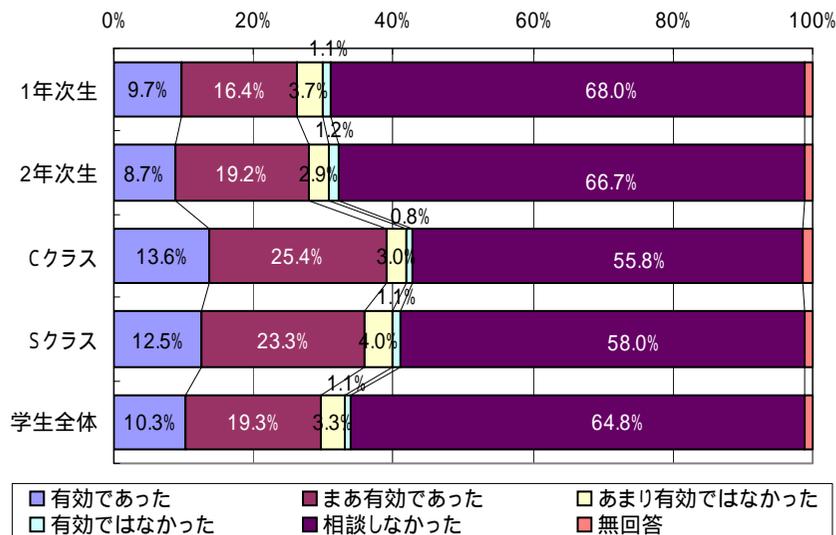
H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



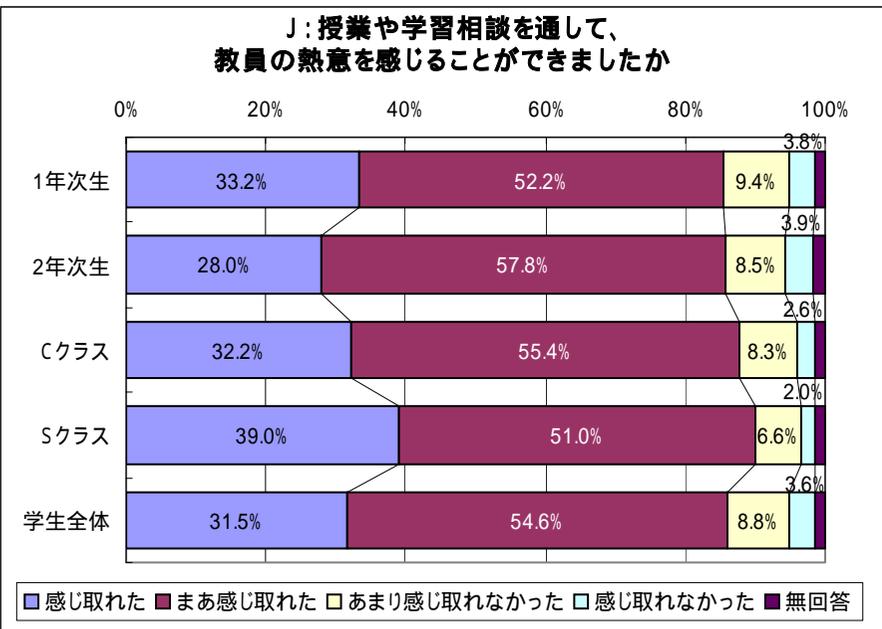
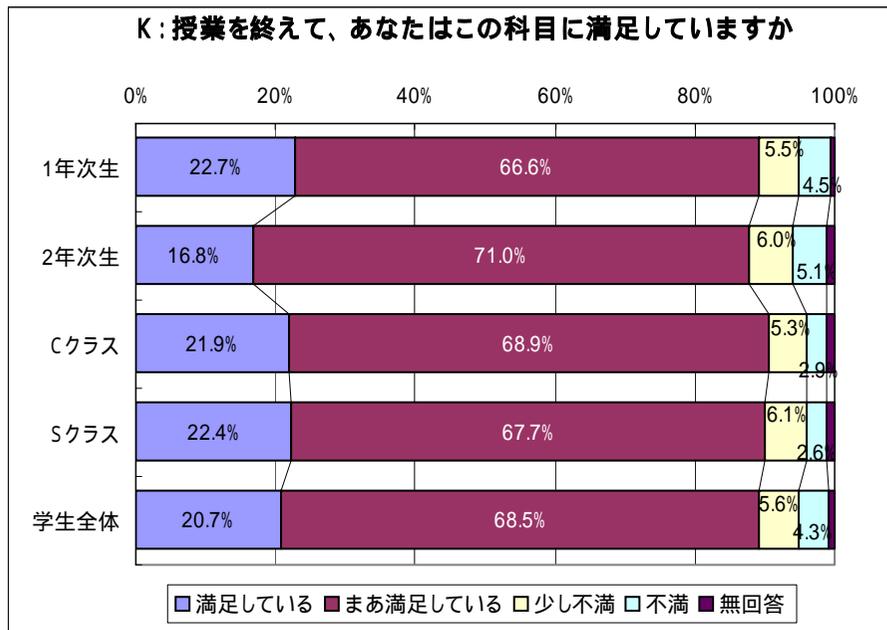
G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



I:授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

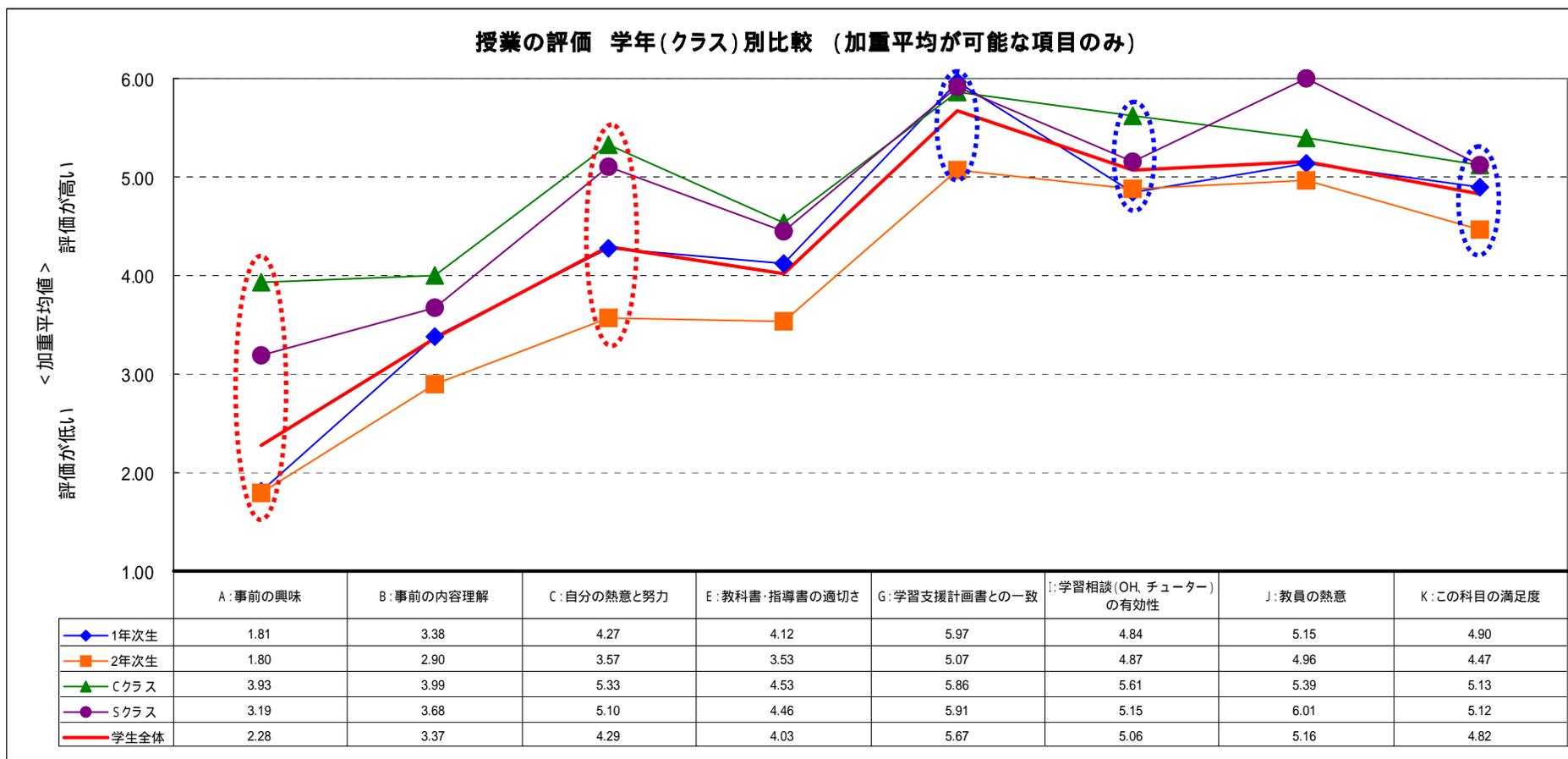


- 「J」: 教員の熱意も「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせるとどの学年でも8割以上が熱意を感じていた。そして、「感じ取れた」だけを比較すると「2年次生」がやや低く、「Sクラス」がやや高かった。
- 他の設問では「Cクラス」のスコアが高く、積極的に授業に取り組んでいるようであったが、教員に対する評価は「Sクラス」がやや高めであった。「Sクラス」で授業アンケートに回答している人数は少ないが、研究室などを通して教員の評価が高くなっているのではないかと思われる。
- 「K: この科目の満足度」に関しても「満足している」と「まあ満足している」の合計がどの学年でも9割に近く、満足度が非常に高いため、学年間で大きな差がつかなかった。
- しかしここでも「2年次生」がやや低く、興味や積極性、授業評価と連動していることが確認できた。といっても「2年次生」も87.8%が授業に満足していると回答していた。



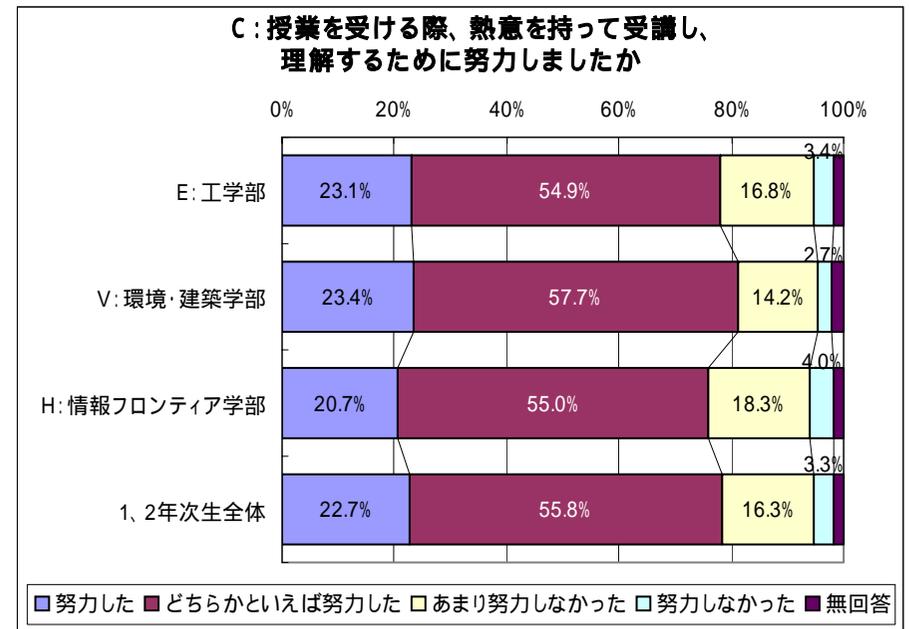
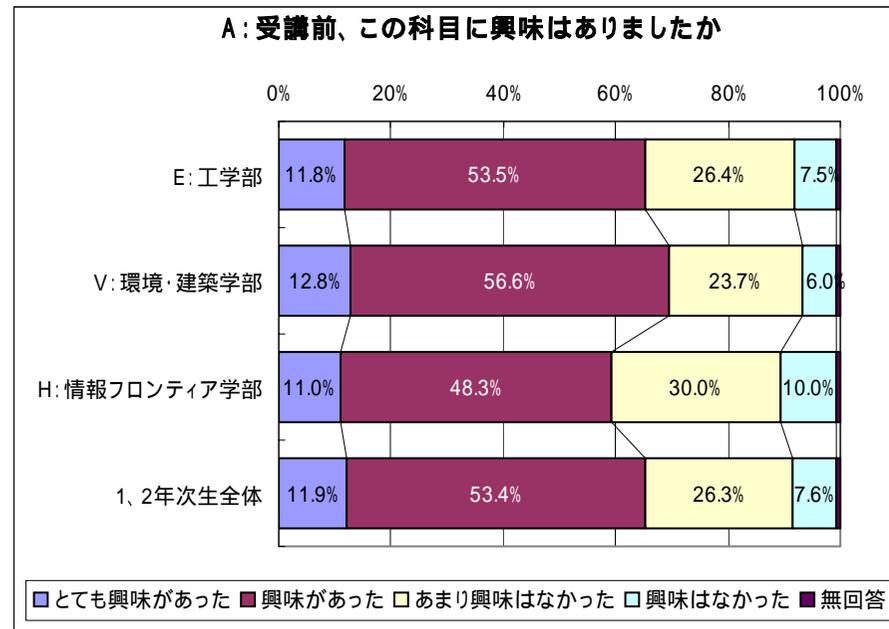
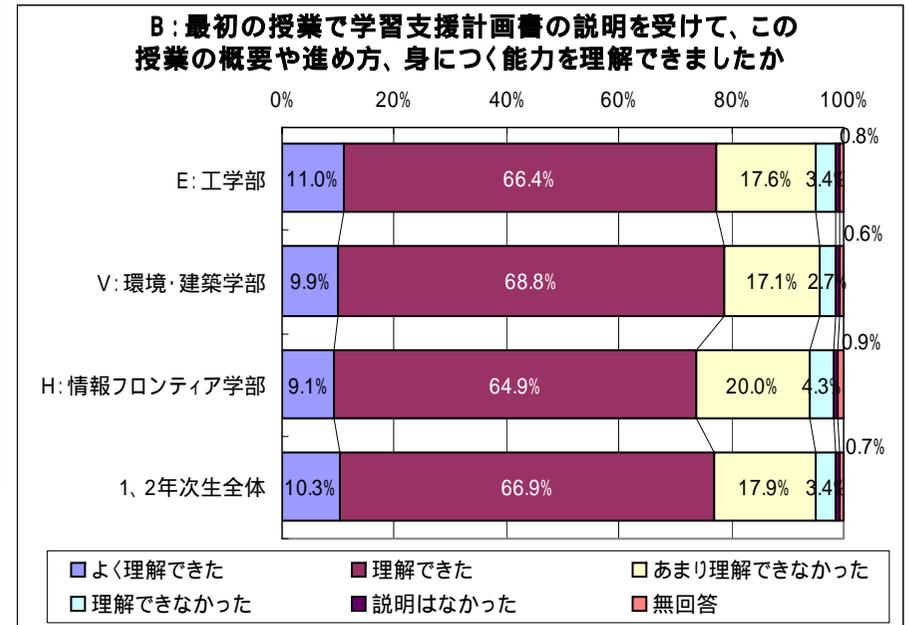
<3-2> 学年(クラス)別の加重平均比較

- 全体的な傾向を見ると、帯グラフでも確認したように「Cクラス」のスコアが高めで、「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」の2つ以外は最もスコアが高く、「Cクラス」の学生が最も授業に興味を持って積極的に取り組んでおり、満足度も高いことが分かった。
- 「Cクラス」に次ぐのが「Sクラス」であり、「J:教員の熱意」を非常に高く評価していた。「Sクラス」の教員評価は他の学年と比べると突出しており、前出のように研究室に属するなど、教員との接し方が変わっているためではないかと思われる。
- 一方、全体的に低かったのは「2年次生」であり、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」はわずかに「1年次生」の方が低かったものの、その他の項目は全て最もスコアが低く、積極性が最も低く満足度も低いのが「2年次生」であるということが分かった。
- 項目別に学年の差を見ると、「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」「K:この科目の満足度」は学年によるばらつきが小さく、「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」は学年によってばらつきが多いことが分かった。特に「A:事前の興味」の差は大きく、「Cクラス」のスコアの高さが目立っていたが、「低学年にどのようにして事前の興味を持たせるか」が大きな課題と言える。

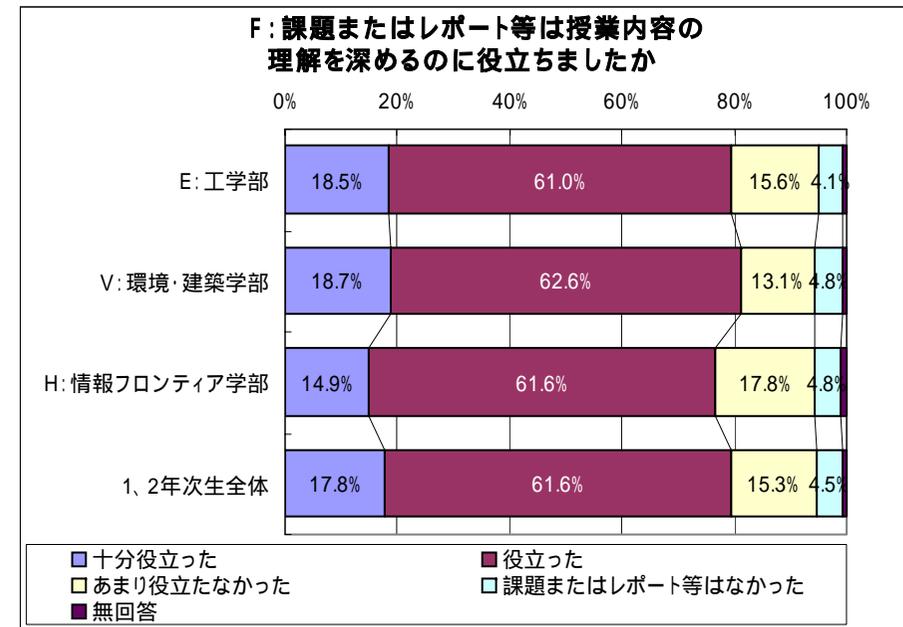
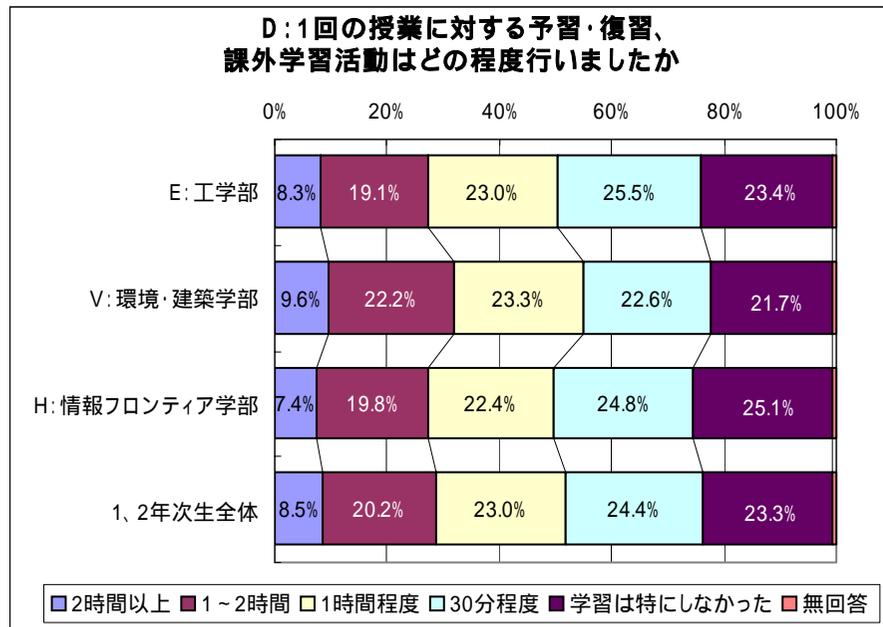
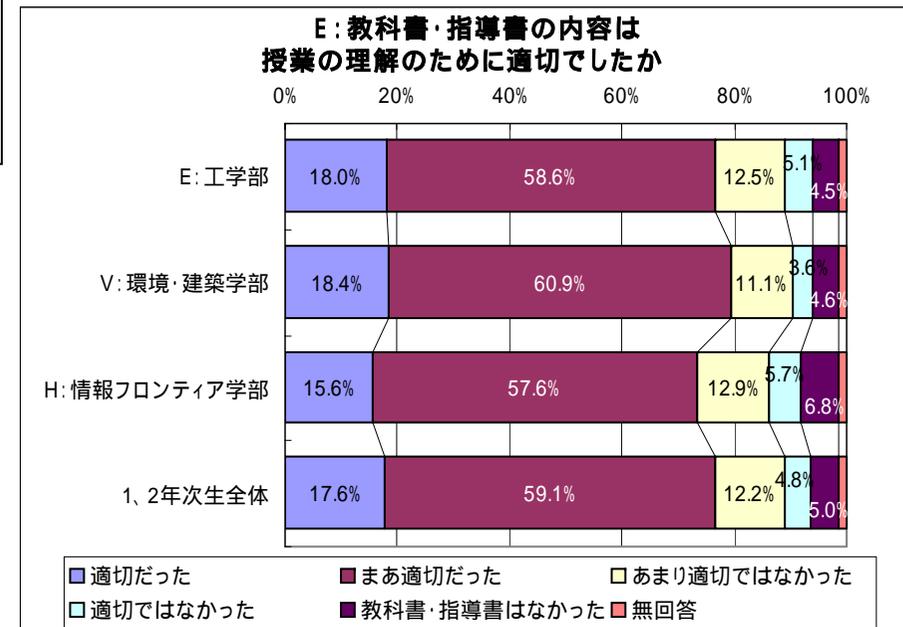


<3-3> 1、2年次生 学部別の比較

- 「A:事前の興味」に関して、「とても興味があった」は3学部でほとんど変わらなかったが、「興味があった」までを比較すると「V:環境・建築学部」が最も興味を持っており、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。
- 「B:事前の内容理解」でも学部による差はあまり大きくなかったが、「V:環境・建築学部」の理解度が高めで、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。
- 「C:自分の熱意と努力」も上記2つと同様の傾向で、「V:環境・建築学部」が最も熱意を持って努力をしており、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。
- 15学科を3学部でまとめており、授業内容に共通点も多い低学年であるため、学科の特徴が出にくいことも考えられ、各設問で同じような傾向になっている。

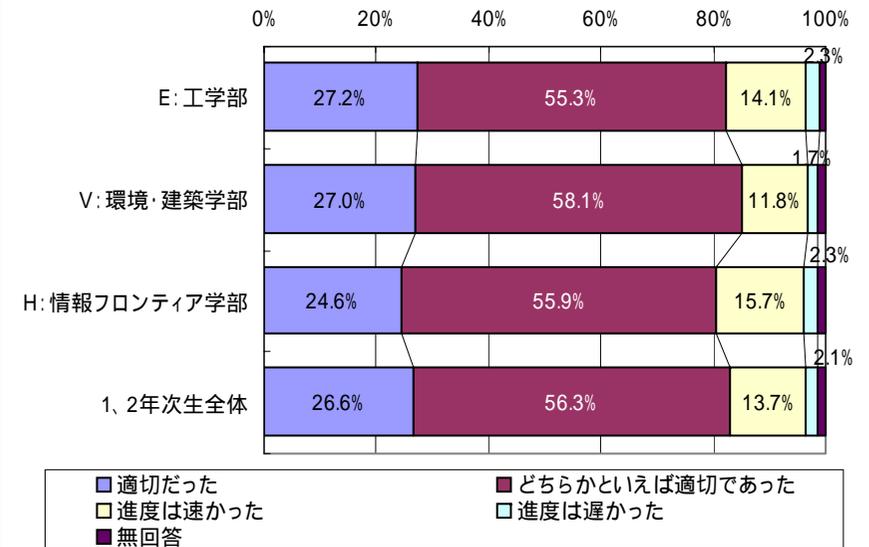


- 前項と同様にここに挙げた3つの設問においても全く同じ回答傾向が見られ、「V:環境・建築学部」が最も予習・復習をして、教科書・指導書、課題・レポート等の評価を高く評価しており、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」が続いているという傾向であった。
- また、これらの学部別の差は非常に小さいものであった。

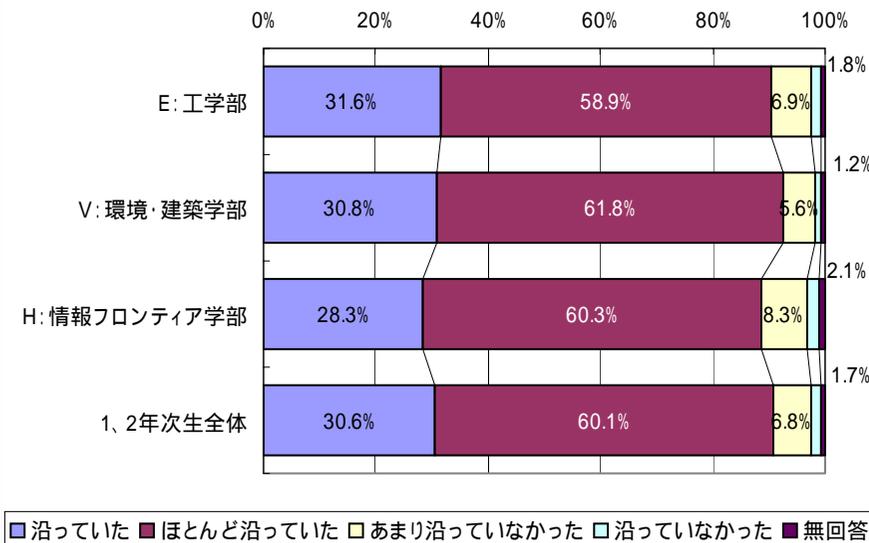


- 「G:学習支援計画書との一致」と「H:授業の進度」でもまた前項までと同様の傾向であり、「V:環境・建築学部」が授業と学習支援計画書との一致を高く評価し、授業の進度も適切だと評価しており、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。
- ただし、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」だけはわずかに傾向が異なり、「V:環境・建築学部」が最も学習相談の利用度が高い点は変わらなかったが、次いで利用度が高かったのは「H:情報フロンティア学部」であり、わずかな差ではあるが「E:工学部」の利用度が最も低かった。

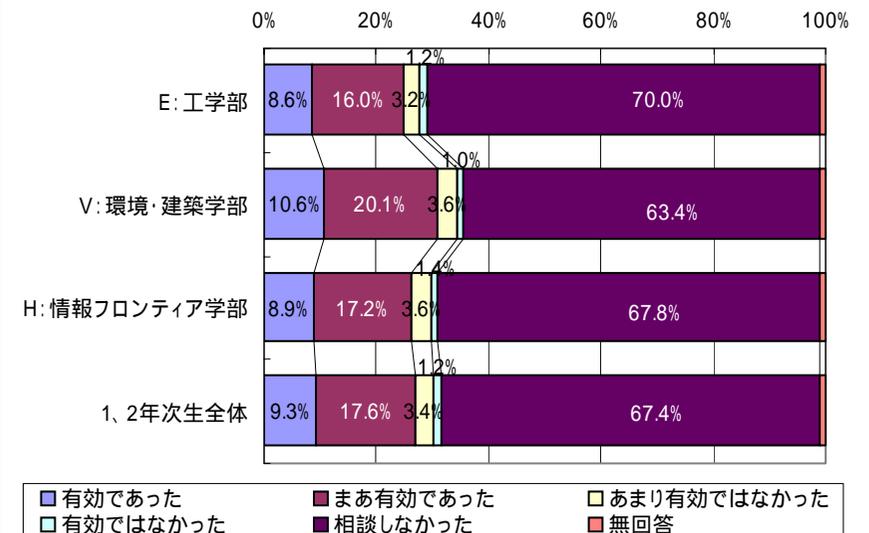
H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



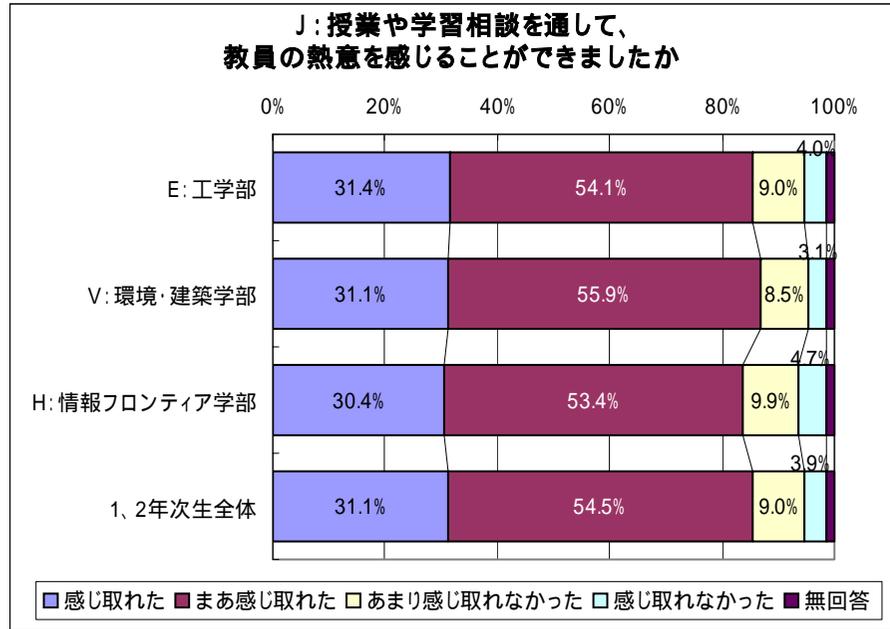
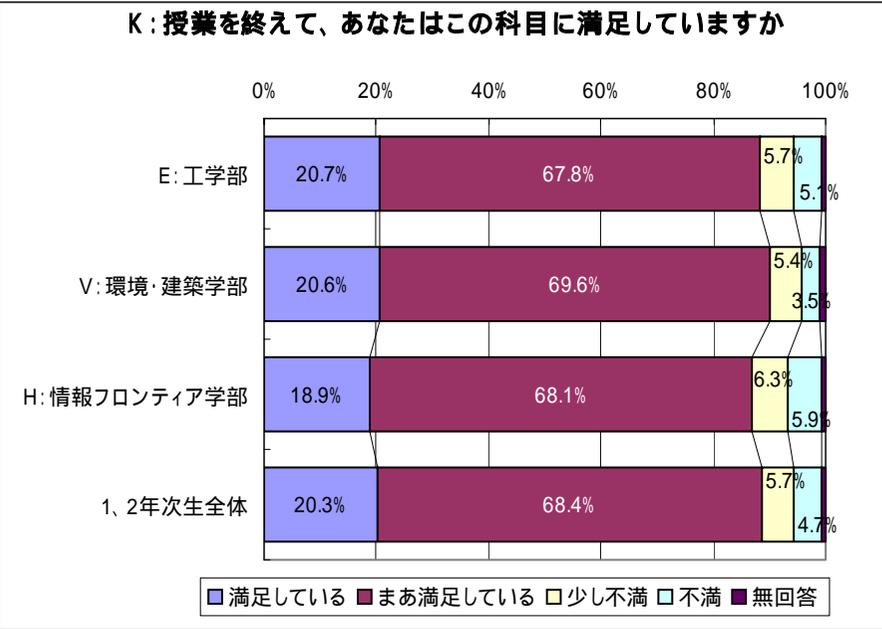
G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



I:授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

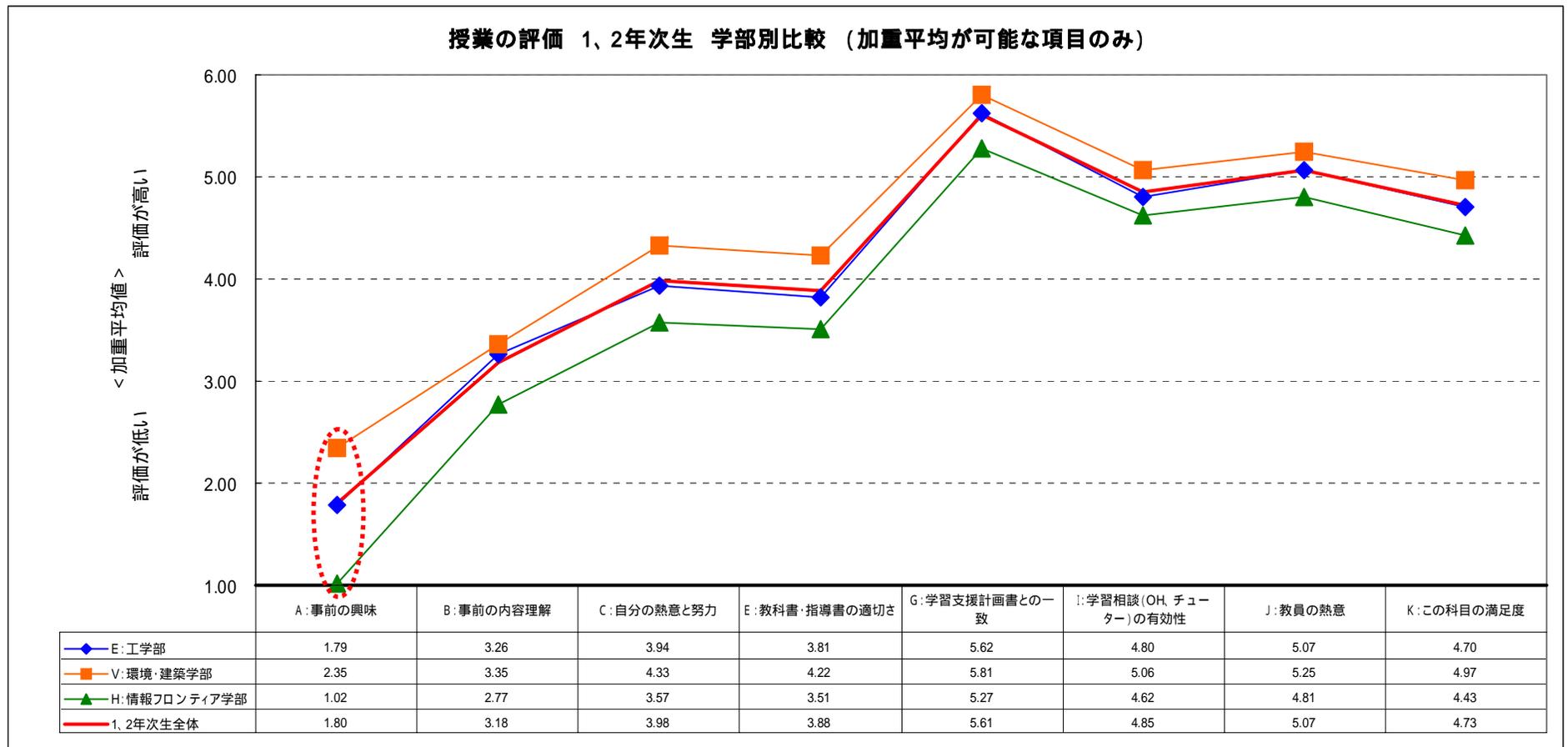


● 「J:教員の熱意」と「K:この科目の満足度」の傾向もこれまでの項目と変わらず、わずかな差ではあるが「V:環境・建築学部」が最も教員の熱意を感じて満足度も高かった。それに次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。



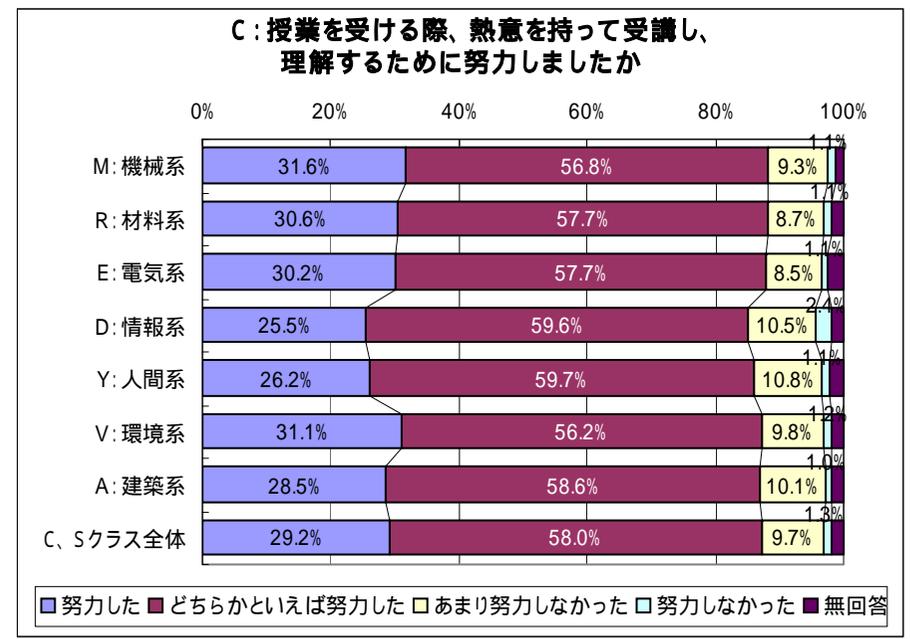
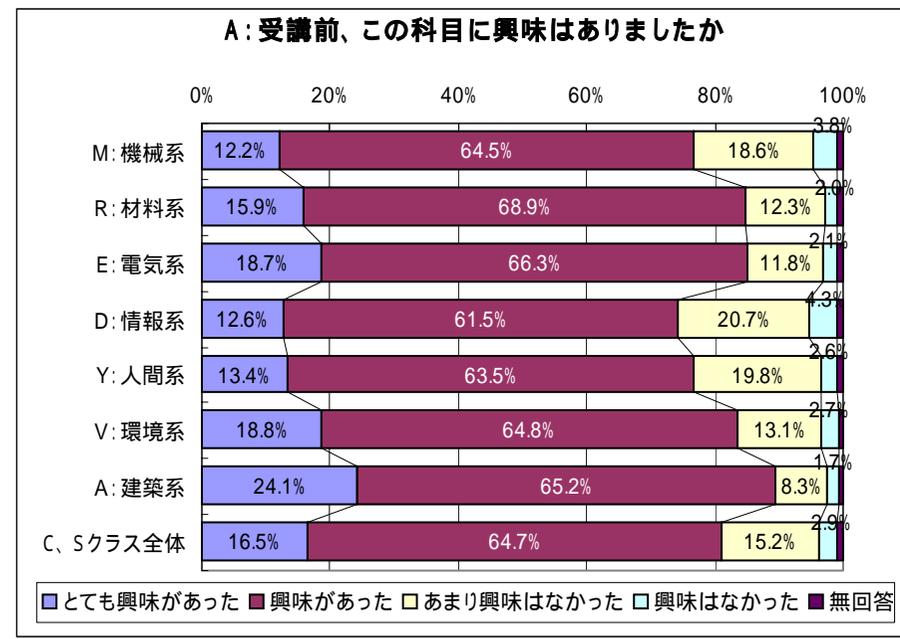
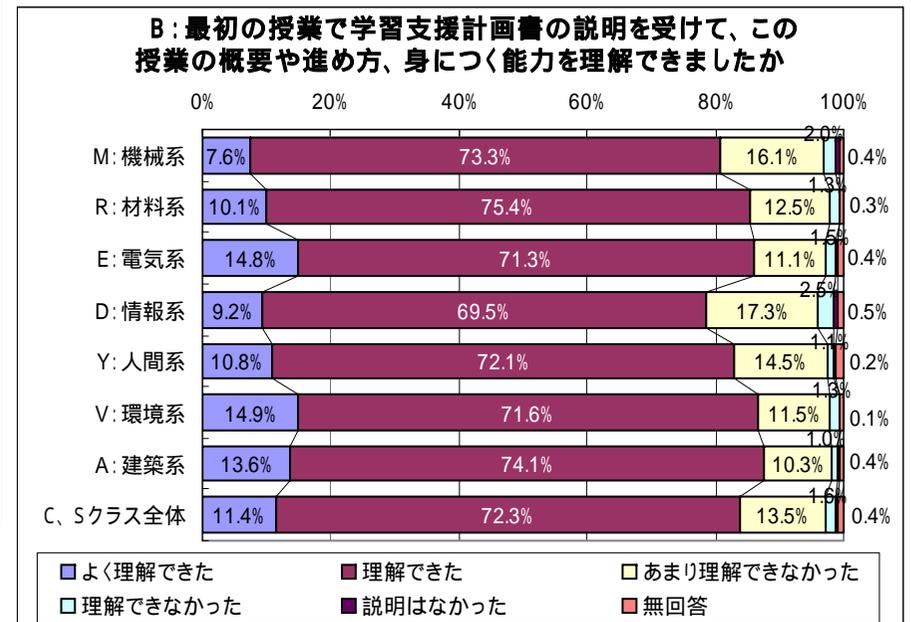
< 3-4 > 1、2年次生 学部別の加重平均比較

- 1、2年次生の学部別比較はここまでの帯グラフで見てきたように、3学部の差が非常に小さく、スコア的には「V:環境・建築学部」のスコアが全ての設問で最も高く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。
- 学部間の差を見ても「A:事前の興味」の差がやや大きいですが、他の項目での差は小さく、学部間の授業に対する評価は大きな差がないことが確認できた。

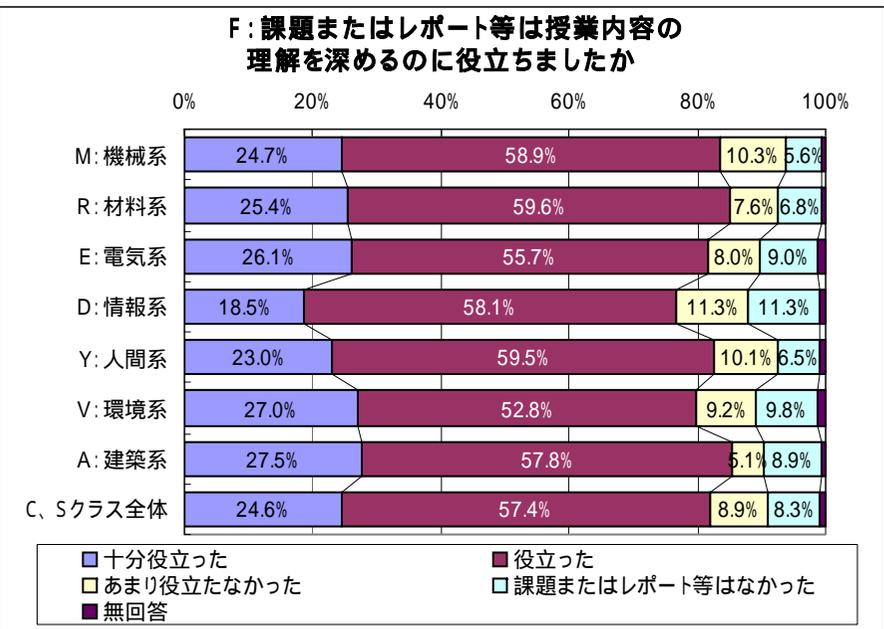
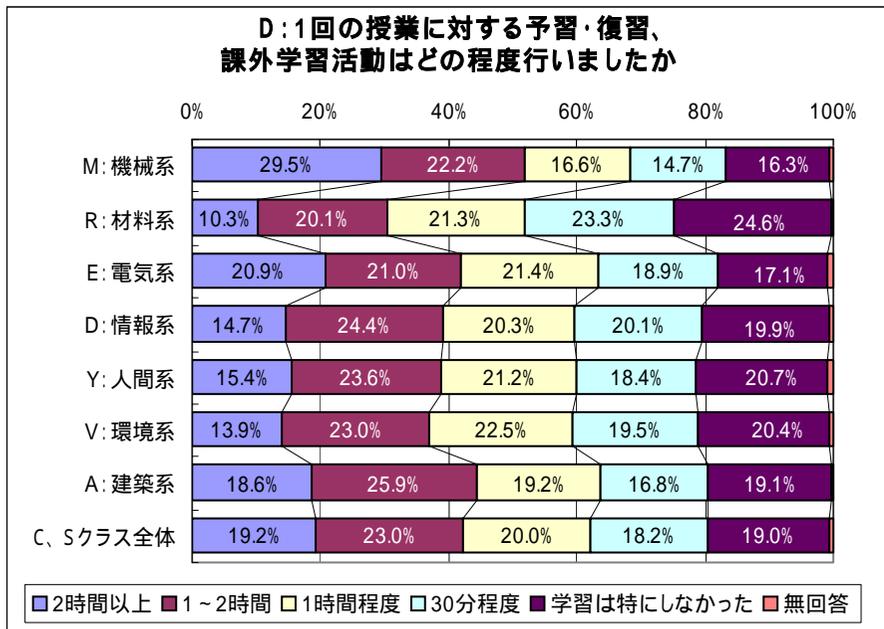
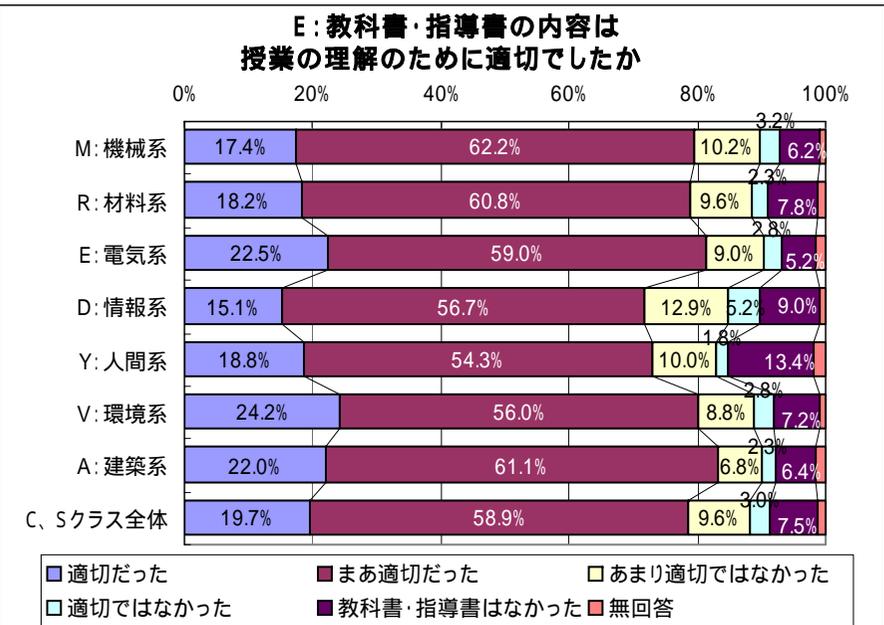


<3-5> Cクラス、Sクラス 学系別の比較

- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計で見ると「A:建築系」が最も興味が強く、次いで「E:電気系」「R:材料系」「V:環境系」の3学系が同じ程度で続いていた。そして、最も低かったのは「D:情報系」であった。
- 「B:事前の内容理解」でも「よく理解できた」「理解できた」の合計で見ると、差は小さいものの「A:建築系」が最も理解度が高く、やはり「V:環境系」「R:材料系」「E:電気系」の3学系が続いており、「D:情報系」の理解度が最も低かった。
- 「C:自分の熱意と努力」では、「努力した」と「どちらかといえば努力した」の合計が全体的に高いため、その合計を見ても「D:情報系」がやや低い程度で大きな差は見られなかった。
- 「努力した」だけを見ても「D:情報系」と「Y:人間系」がやや低いものの、その他の学系ではほとんど差は見られず、どの学系でも授業に熱意を持って努力をしていることが分かった。

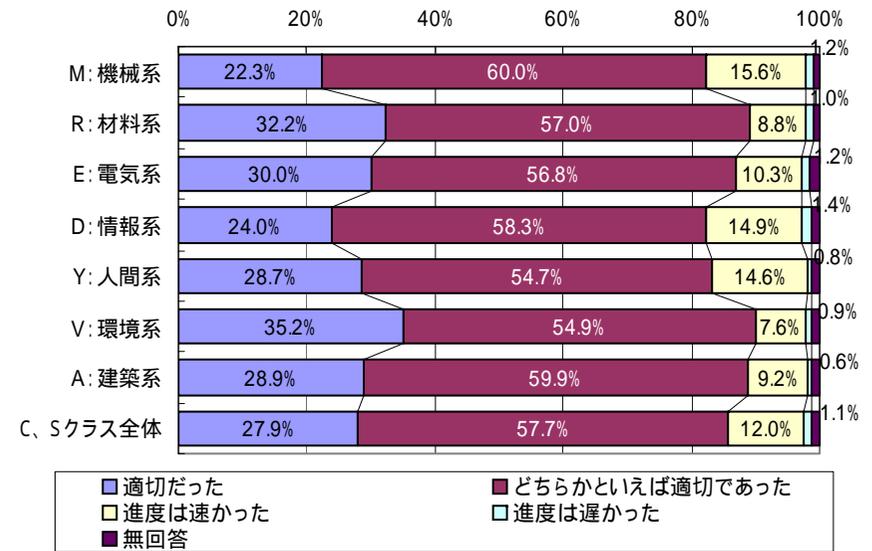


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」では、「M: 機械系」で「2時間以上」が29.5%も見られ、非常に予習・復習、課外学習に時間を充てていることが分かった。それに次ぐのは「E: 電気系」「A: 建築系」であり、最も時間が少ないのは「R: 材料系」であった。
- 予習・復習、課外学習に関しては他の項目とは異なる傾向にあったが、これは学生の特徴というよりもカリキュラムの性質の違いによるものであると思われる。
- 「E: 教科書・指導書の適切さ」では、「Y: 人間系」で「教科書・指導書はなかった」がやや多く、「適切だった」と「まあ適切だった」を合わせると「A: 建築系」が教科書・指導書をやや高く評価しており、「D: 情報系」の評価が低めであった。
- 「F: 課題、レポート等の評価」では、「A: 建築系」「R: 材料系」が課題、レポートを高く評価しており、「D: 情報系」が厳しい評価をしている傾向が見られた。

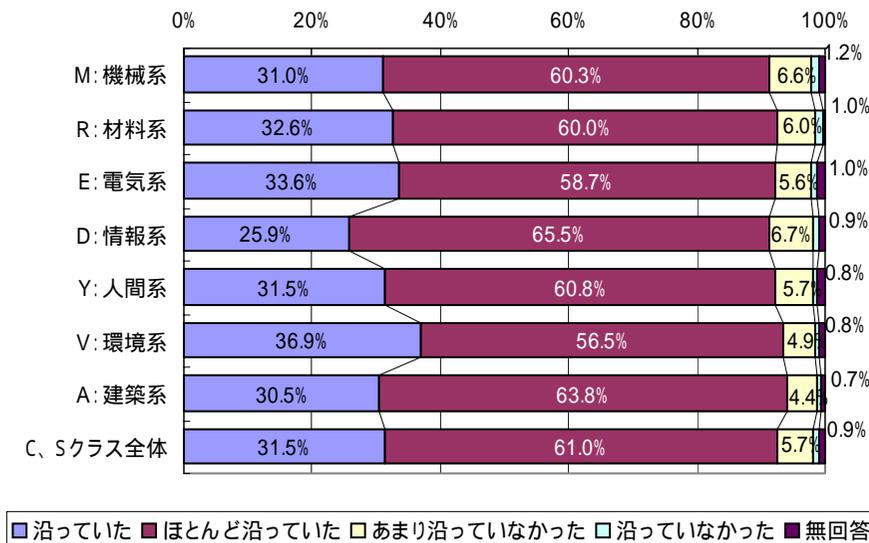


- 「G:学習支援計画書との一致」では「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」の合計がどの学系でも9割程度であり、差が見られなかった。「沿っていた」だけで比較すると、「V:環境系」の評価が高く、「D:情報系」の評価がやや厳しいものであった。
- 「H:授業の進度」で「適切だった」と「どちらかといえば適切だった」の合計で比較すると、「V:環境系」「R:材料系」の満足度が高く、「M:機械系」「D:情報系」「Y:人間系」の満足度がやや低めであった。
- ただし、「進度は遅かった」は学系によって変わらず、進度の不満は「進度が速かった」という点に集中していた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、「R:材料系」の利用率が最も低く、次いで「D:情報系」「E:電気系」という順であり、逆に最も利用率が高かったのは「A:建築系」で、「V:環境系」「M:機械系」の利用率も高かった。

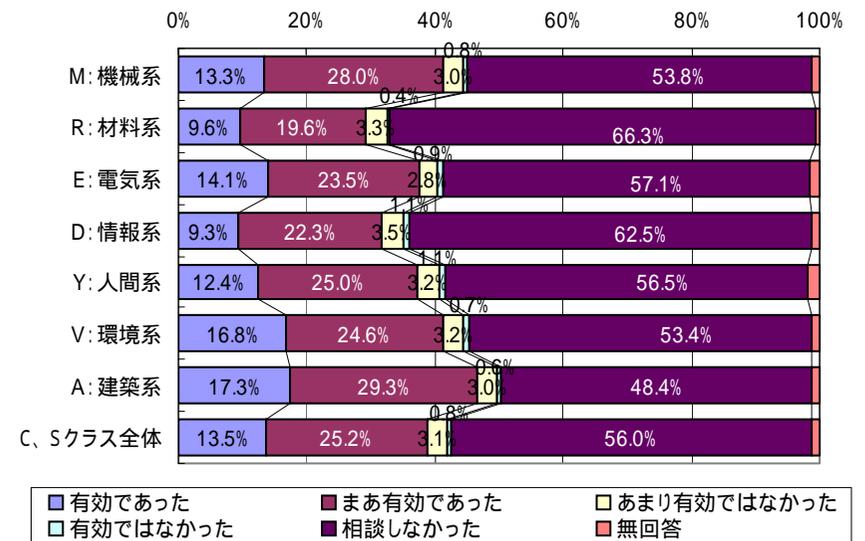
H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか

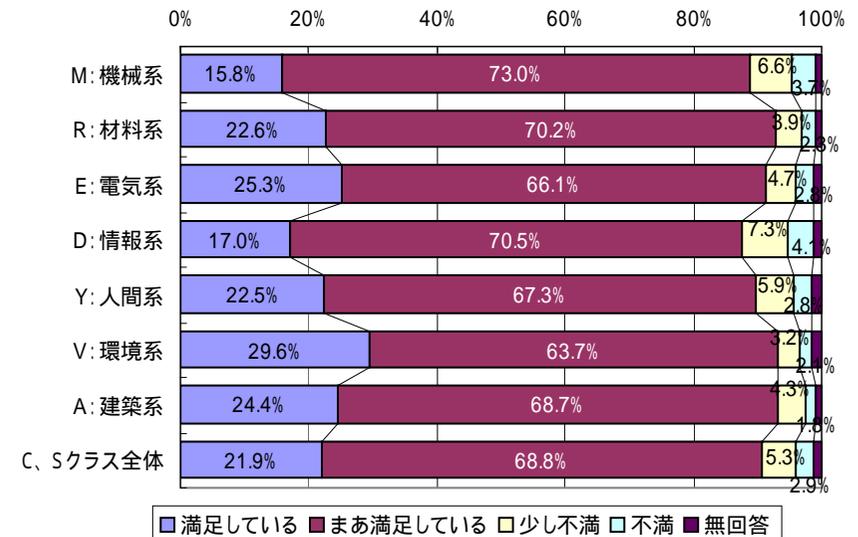


I:授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

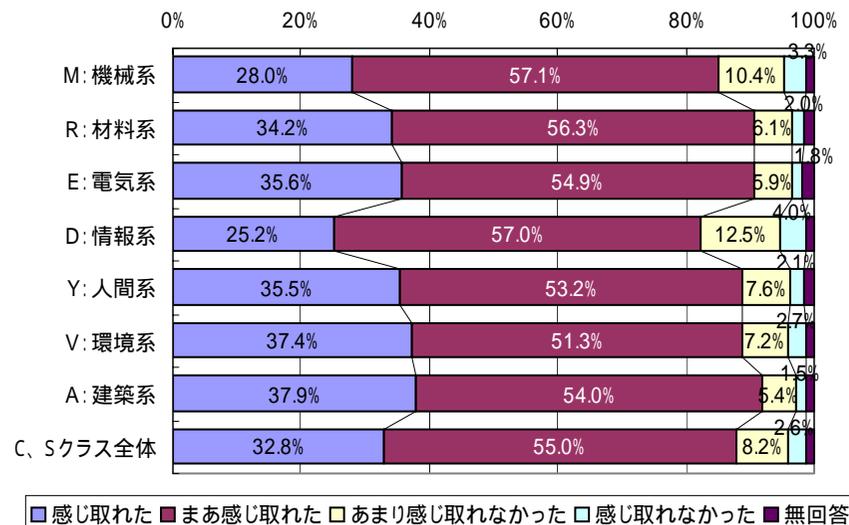


- 「J:教員の熱意」で「感じ取れた」「まあ感じ取れた」の合計で比較すると、「A:建築系」がやや高かったが、「D:情報系」と「M:機械系」が非常に低い点が目立っていた。
- 「D:情報系」と「M:機械系」の2学系は他の設問でも低いものが見られたが、教員にも厳しい見方をしていることが分かった。
- 「K:この科目の満足度」は全体的に高いため「満足している」で比較すると、「V:環境系」が最も高く、次いで「E:電気系」「A:建築系」「R:材料系」「Y:人間系」の順であった。そして、最も満足度が低いのが「M:機械系」であり、「D:情報系」がそれに次いでいた。
- C、Sクラスの学系では「M:機械系」と「D:情報系」が何らかの課題を持っているものと思われる。

K:授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか



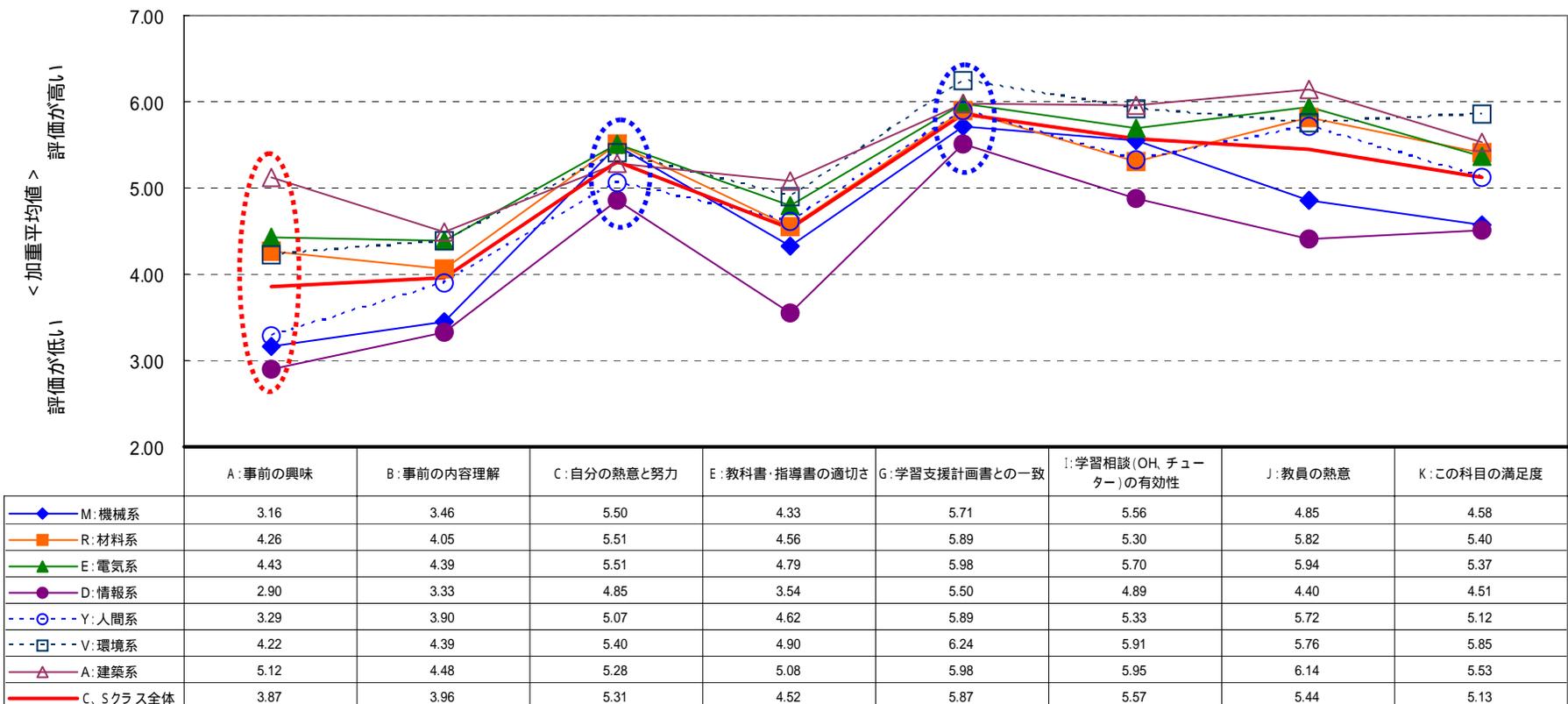
J:授業や学習相談を通して、
教員の熱意を感じることができましたか



<3-6> Cクラス、Sクラス 学系別の加重平均比較

- まず全体を見ると、一部の設問で「A:建築系」「V:環境系」のスコアが高いものの、学系による差が小さく固まっている。一方、スコアの低いものとしては「D:情報系」が全般的に低く、「M:機械系」がそれに次ぐという傾向が見られた。
- 再度、スコアの高いものを見ると、「A:建築系」は「A:事前の興味」で突出しており、他にも「E:教科書・指導書の適切さ」「J:教員の熱意」の評価が高かった。そして、「V:環境系」は「G:学習支援計画書との一致」と「K:この科目の満足度」のスコアが高かった。他の項目を見てもこの2学系のスコアは高めであり、学系として良い状態にあるものと思われる。
- 一方、「D:情報系」は全ての項目で最もスコアが低く、「E:教科書・指導書の適切さ」は特に目立っていた。また、「M:機械系」は「C:自分の熱意と努力」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」などはやや高めであったが、その他は「D:情報系」に次ぐ低さであった。
- 学系毎の差を見ると、「A:事前の興味」は学系による差が大きめで「C:自分の熱意と努力」「G:学習支援計画書との一致」は差が小さめであった。

授業の評価 C、Sクラス 学系別比較 (加重平均が可能な項目のみ)

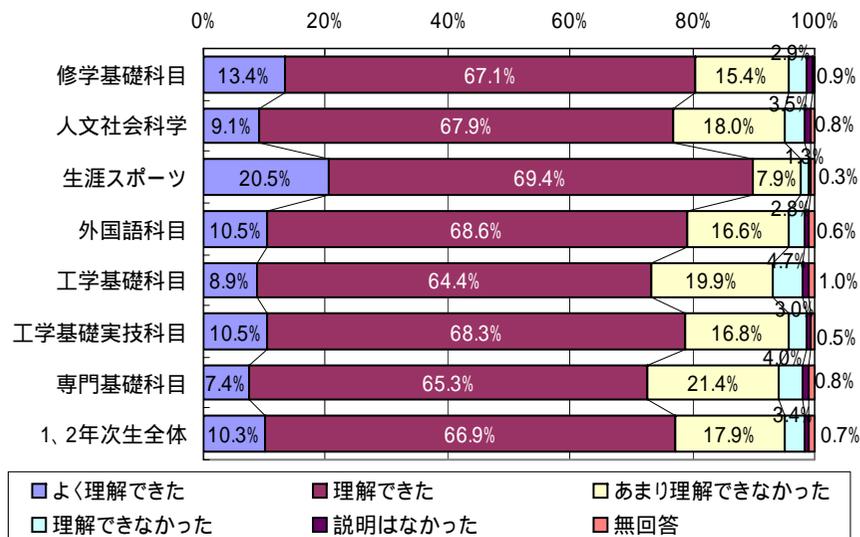


< 4 > 科目区分別のクロス集計

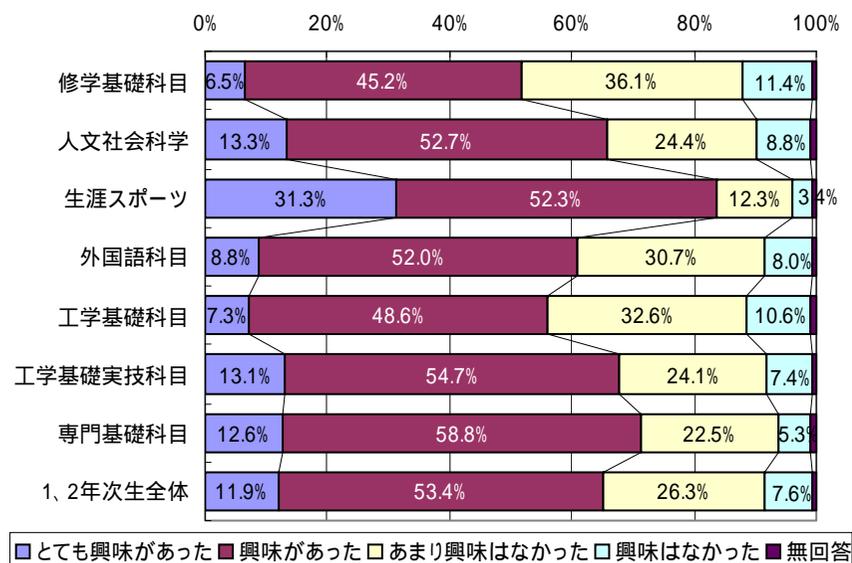
< 4-1 > 1、2年次生の科目区分別の比較

- 1、2年次生の授業を科目区分で分類し、区分別にクロス集計した。
- まず「A：事前の興味」に関しては、「生涯スポーツ」に対する興味が非常に強い点が目立っていた。
- そして「とても興味があった」と「興味があった」の合計で比較すると、やはり「生涯スポーツ」が突出しており、「専門基礎科目」「工学基礎実技科目」「人文社会科学」への興味が強めで、「修学基礎科目」「工学基礎科目」など、基礎的な科目への興味が弱いようであった。
- 「B：事前の内容理解」でも「生涯スポーツ」は事前によく理解されており、次いで「修学基礎科目」「外国語科目」といった基礎的な科目が見られた。逆に事前に内容が理解しにくかったのは「専門基礎科目」「工学基礎科目」などであり、やや専門性があるものであった。
- 「C：自分の熱意と努力」でも「生涯スポーツ」に熱意を持って取り組んでおり、更に「工学基礎実技科目」にも熱意を持っていたようであった。逆に熱意を持っていなかったのは「人文社会科学」「工学基礎科目」などであった。「工学基礎科目」は興味も熱意も低かったが、「人文社会科学」は興味は高めであるにもかかわらず熱意を持てなかったようであった。

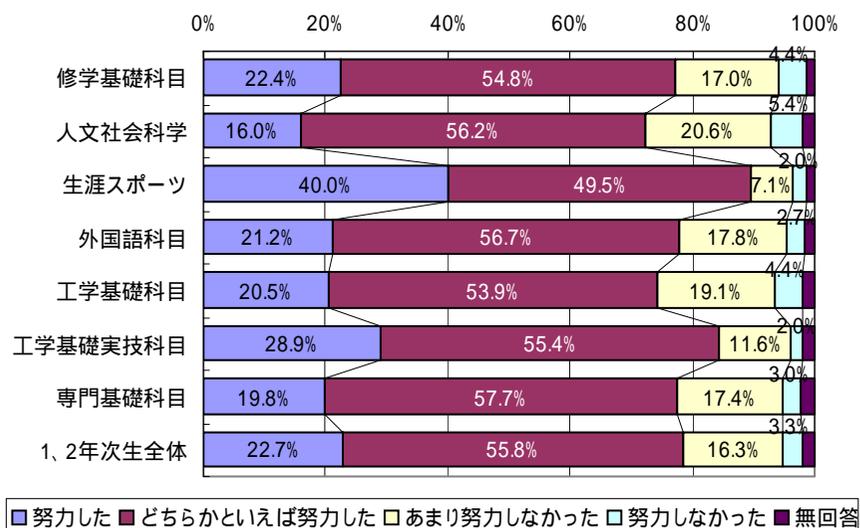
B：最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか



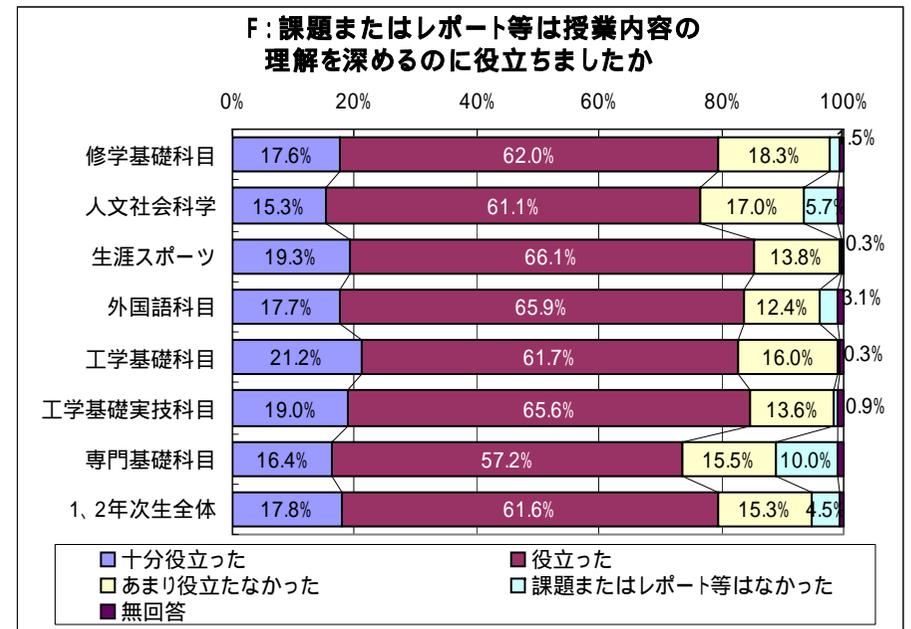
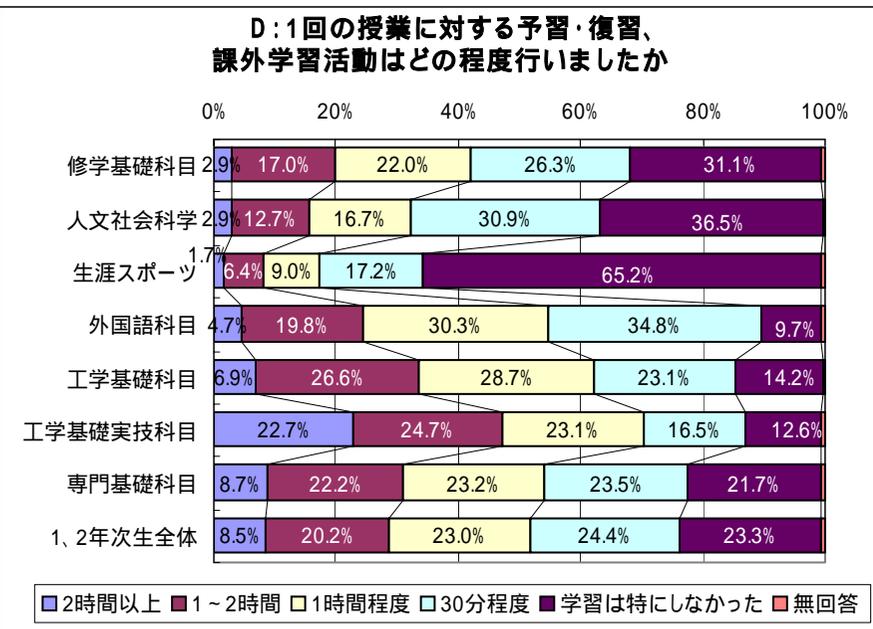
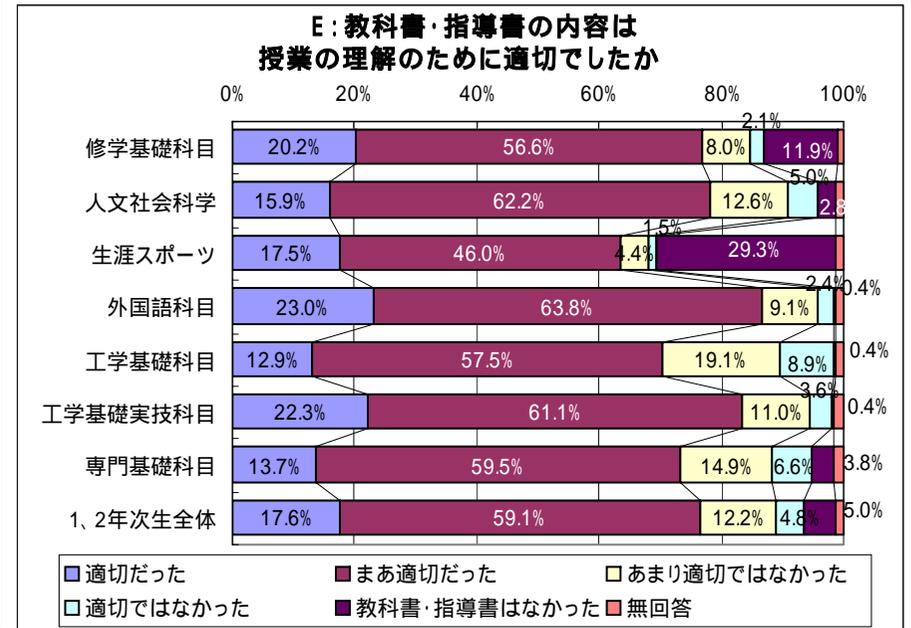
A：受講前、この科目に興味はありましたか



C：授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか

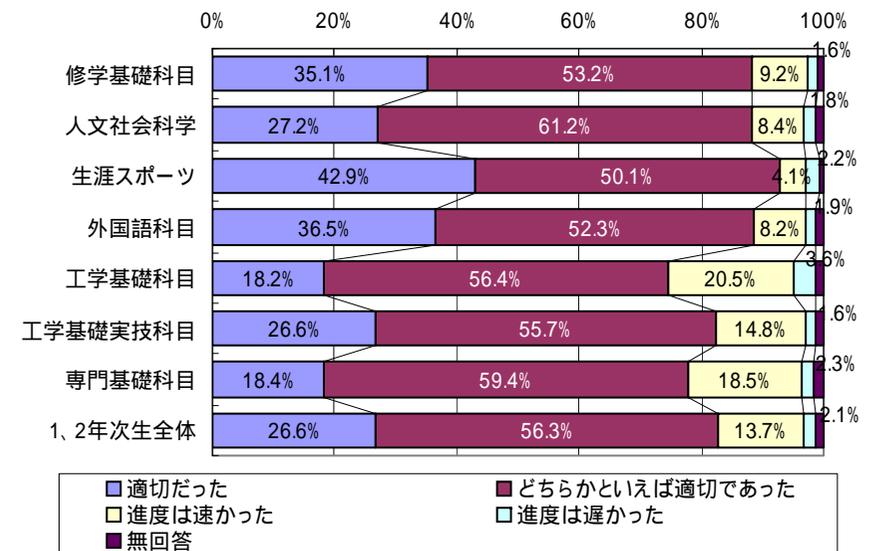


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」を「2時間以上」と「1～2時間」の合計で比較すると、科目区分による差が非常に大きく、最も時間を充てられていたのは「工学基礎実技科目」であり、次いで「工学基礎科目」「専門基礎科目」「外国語科目」という順であり、専門性の高い科目に関して時間が割かれており、工学系・理数系でない科目ではそれほどでもないようであった。
- 「E: 教科書・指導書の適切さ」では、「生涯スポーツ」で「教科書・指導書はなかった」が3割を占めている点が目立った。そして、適切だったと感じられていたのは「外国語科目」「工学基礎実技科目」であり、「工学基礎科目」「専門基礎科目」では、適切ではないという意見がやや多く見られた。
- 「F: 課題、レポート等の評価」は科目区分による差が少なかったが、「専門基礎科目」で「課題またはレポート等がなかった」という意見が多く、また、「人文社会科学」「外国語科目」でもやや多めであった。これらを除くと「修学基礎科目」で役立つという意見がやや少なめであったが、大きな差ではなく、科目区分による差はほとんどないと言える。

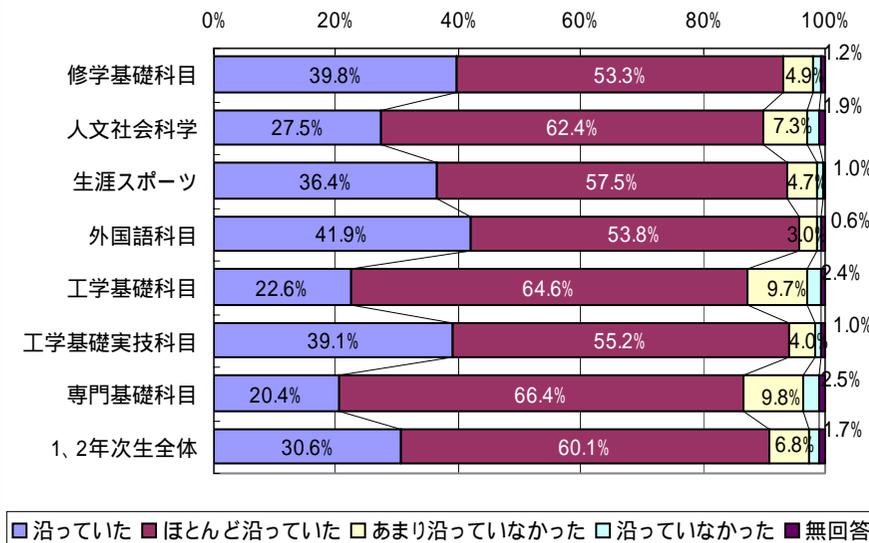


- ほとんどの科目区分で「G:学習支援計画書との一致」は高いレベルで達成されているため差が見にくい、「沿っていた」だけを見ると「外国語科目」「修学基礎科目」「工学基礎実技科目」の3つの評価が高く、「専門基礎科目」「工学基礎科目」「人文社会科学」の3つの評価が低かった。
- 「H:授業の進度」は大きく2つのグループに分けられ、「修学基礎科目」「人文社会科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」の一般教養的な4科目は進度は適切だという意見が多かったが、「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」は速かったという意見が多く、専門的な科目には少しついていけない学生もいるようであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関しては「相談しなかった」の差が見られたが、最も学習相談が利用されているのは「工学基礎実技科目」で、約半数は学習相談を利用しており、満足度も高かった。次いで同じく専門系である「工学基礎科目」が続いていたが、「修学基礎科目」でも学習相談が利用されている割合が高いことが分かった。

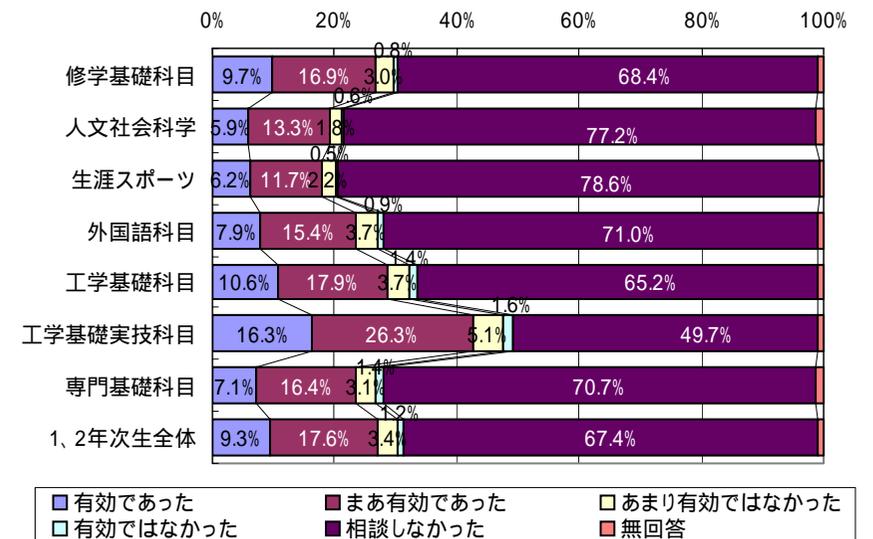
H: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



G: 授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか

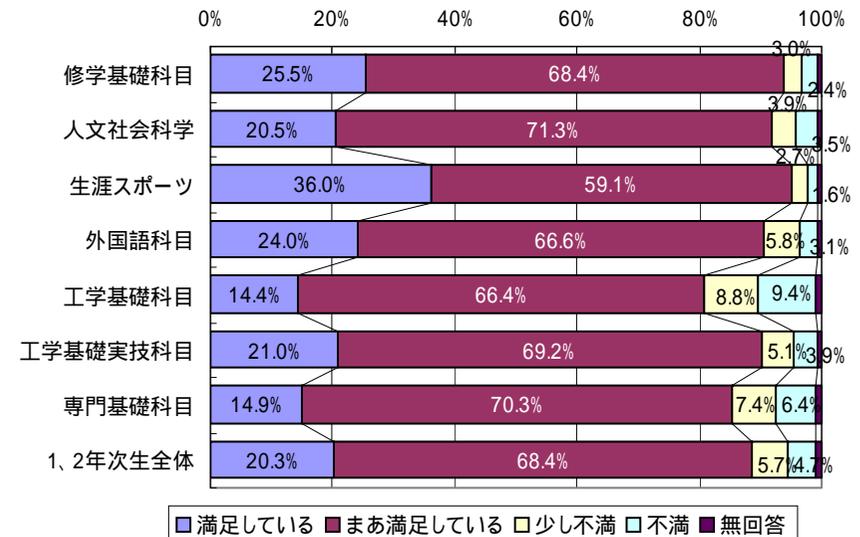


I: 授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

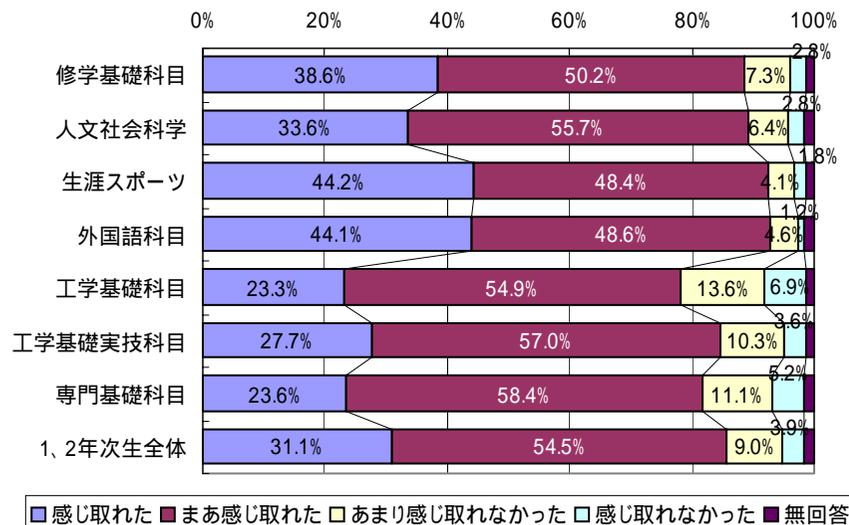


- 「J:教員の熱意」は大きく3つのグループに分かれた。まず、最も熱意が感じられたのは「生涯スポーツ」と「外国語科目」の2科目であり、次いで「修学基礎科目」「人文社会科学」の2つが似通った傾向にあり、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「工学基礎実技科目」の3つがやや低いところに固まっていた。
- これらを見ると専門系の科目で熱意が感じられないという意見が多かったようであった。
- 「K:この科目の満足度」に関しては、まず「生涯スポーツ」の高さが目立っており、次いで「修学基礎科目」の満足度が高かった。
- 「外国語科目」は「満足している」が24.0%と多かったものの、「少し不満」「不満」の合計もやや多く、満足している層と不満を感じている層に分かれている傾向が見られた。
- そして、満足度が低かったのは「工学基礎科目」「専門基礎科目」などであり、専門科目で実技が伴わない科目の満足度が低いという傾向が確認された。

K:授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか



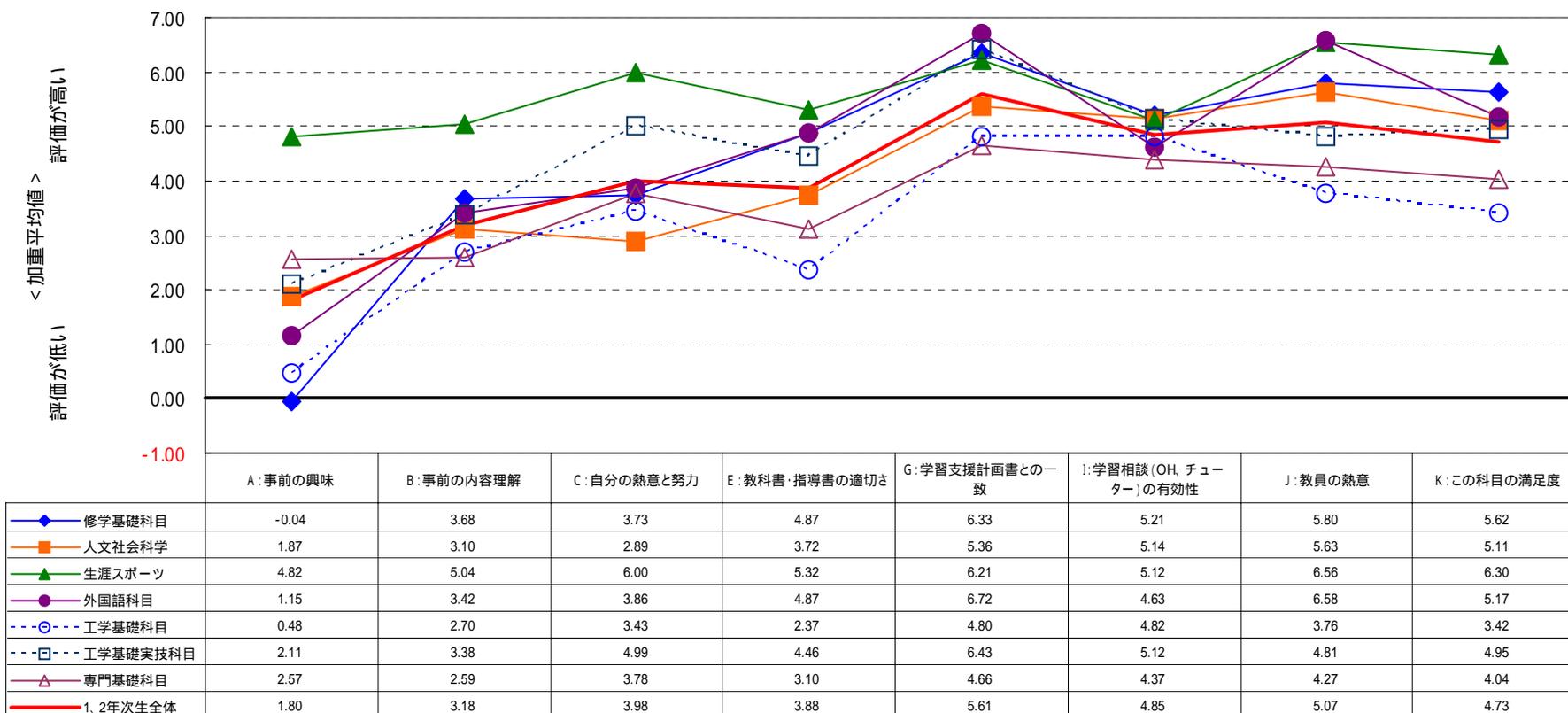
J:授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか



< 4-2 > 1、2年次生 科目区分の加重平均比較

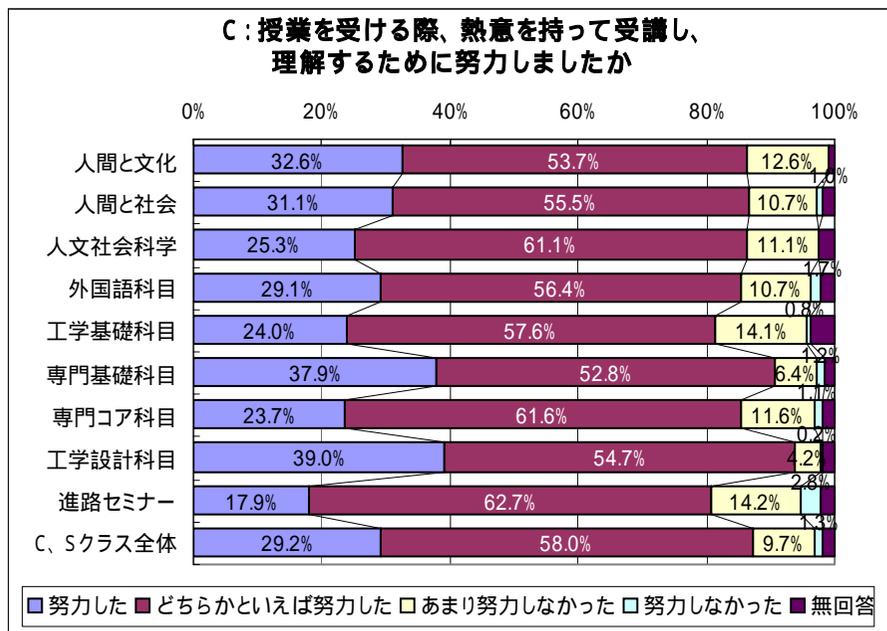
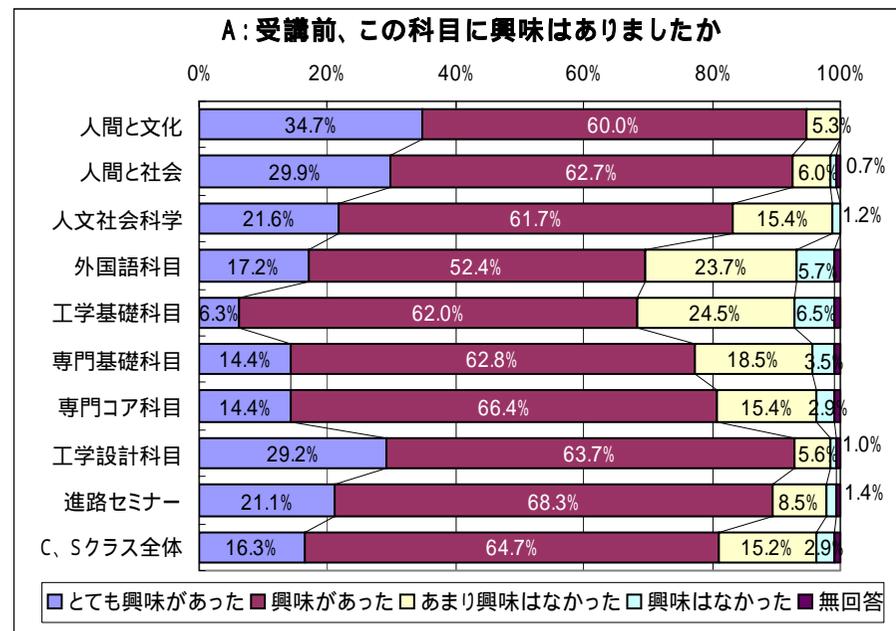
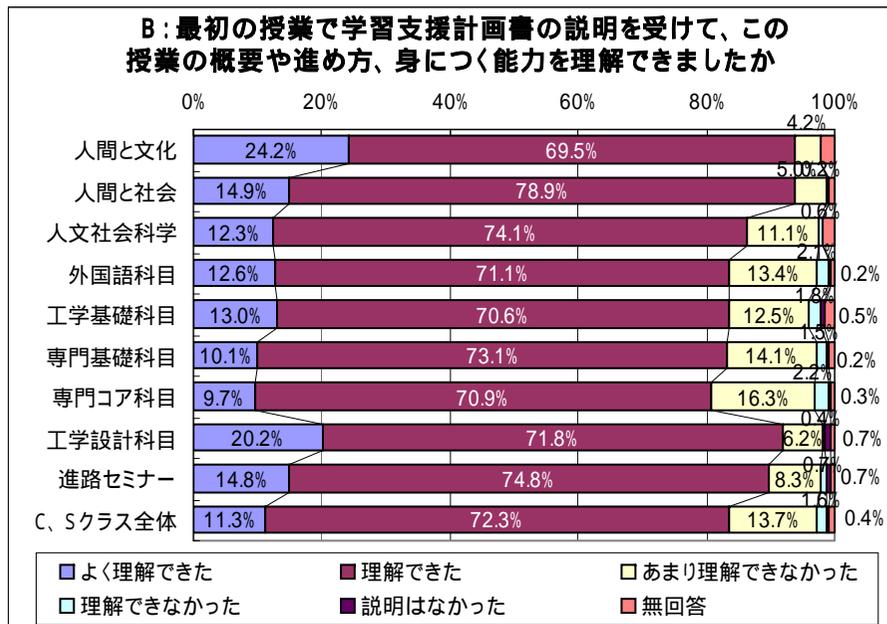
- まず全体を見て目立っていたのは「生涯スポーツ」のスコアの高さであり、「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」の3つを除くと全て最も高いスコアであり、特に「A:事前の興味」が高く、「生涯スポーツ」に対する期待が感じられた。
- また「修学基礎科目」は「A:事前の興味」がマイナスで非常に低いものの、「B:事前の内容理解」「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」などが高く、満足度も「生涯スポーツ」に次ぐ高さであり、事前の興味の低さからは想像できない結果であった。
- 「外国語科目」も「A:事前の興味」はそれほど高くないが「G:学習支援計画書との一致」が高く、「J:教員の熱意」も感じられるなど、進め方の評価が高く、結果として満足度はやや高めであり、これも事前の興味のなさをひっくり返した例と言える。
- 一方、「工学基礎科目」は「修学基礎科目」と同様に「A:事前の興味」が低かったが、「E:教科書・指導書の適切さ」「J:教員の熱意」も低く、結果として満足度も全体の中で最も低く、事前の期待の低さのままの結果となっていた。
- 「専門基礎科目」は「A:事前の興味」は高かったものの「B:事前の内容理解」「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」といった授業の支援の部分に不満を感じており、満足度は非常に低かった。学生の期待に添えなかったケースと言える。

授業の評価 1、2年次生 科目区分別比較 (加重平均が可能な項目のみ)

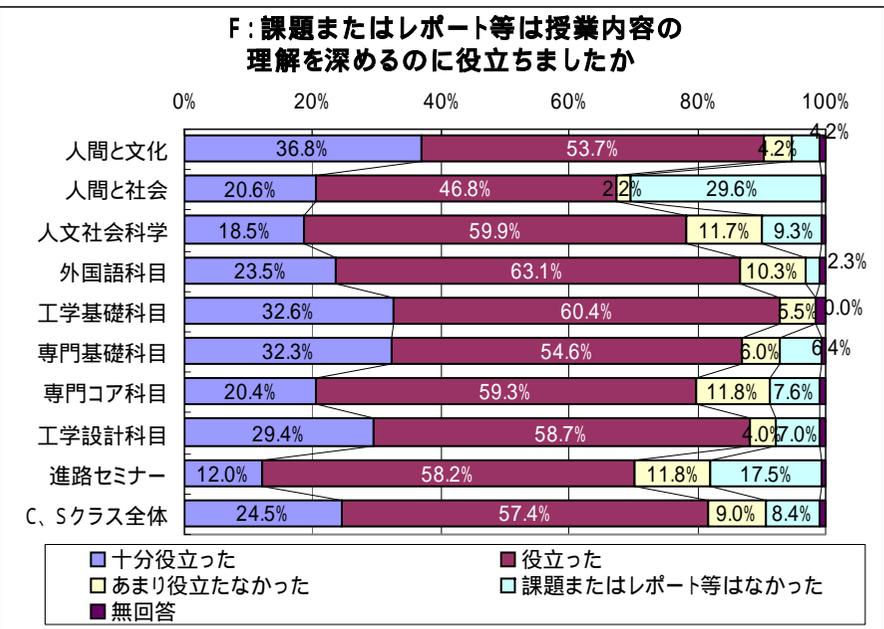
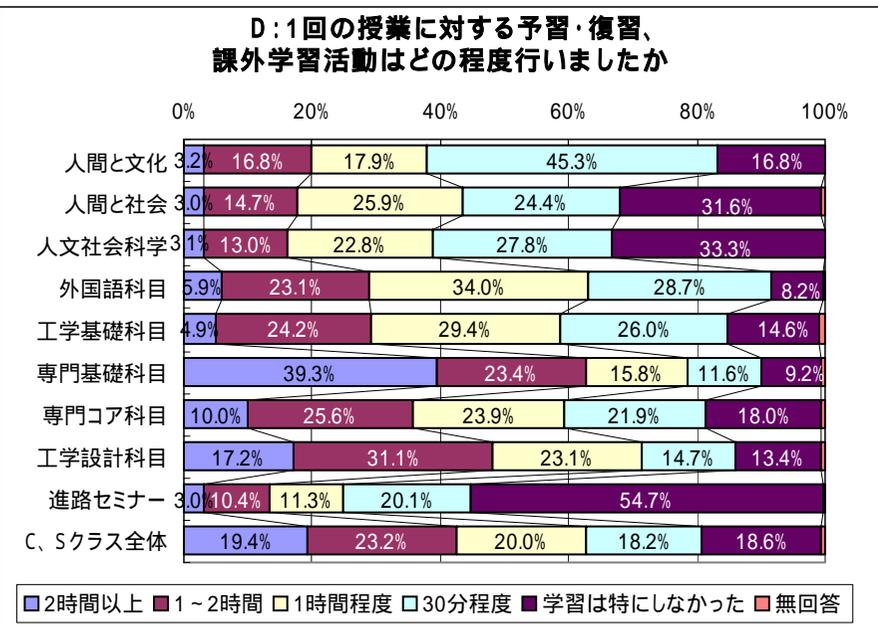
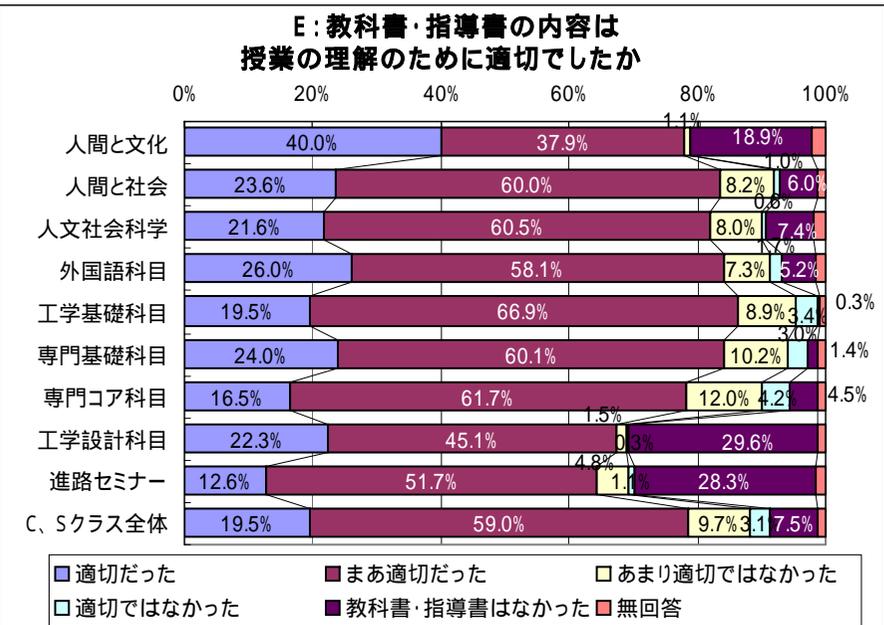


< 4-3 > C、Sクラスの科目区分別の比較

- 「C、Sクラス」でも科目区分別の比較を行ったが、「修学基礎科目」は回答者が6名、同様に「人間と科学」は6名、「生涯スポーツ」は23名、「工学基礎実技科目」は7名と少なかったため、クロス集計には適さないと判断してグラフには加えていない。
- まず「A:事前の興味」を見ると、「人間と文化」「人間と社会」「工学設計科目」「人文社会科学」に興味を持っており、「工学基礎科目」「外国語科目」に対する興味が弱かった。
- 「B:事前の内容理解」では「人間と文化」「工学設計科目」「人間と社会」「進路セミナー」で理解度が高く、上記の事前の興味と同じ科目区分であった。残りの5科目区分は理解度が低かったが、際だって低いものはなかった。
- 「C:自分の熱意と努力」では「工学設計科目」と「専門基礎科目」の高さが目立っていた。一方、際だって低いものはなかったが、「進路セミナー」「工学基礎科目」の2科目区分はやや熱意と努力のスコアが低い傾向が見られた。

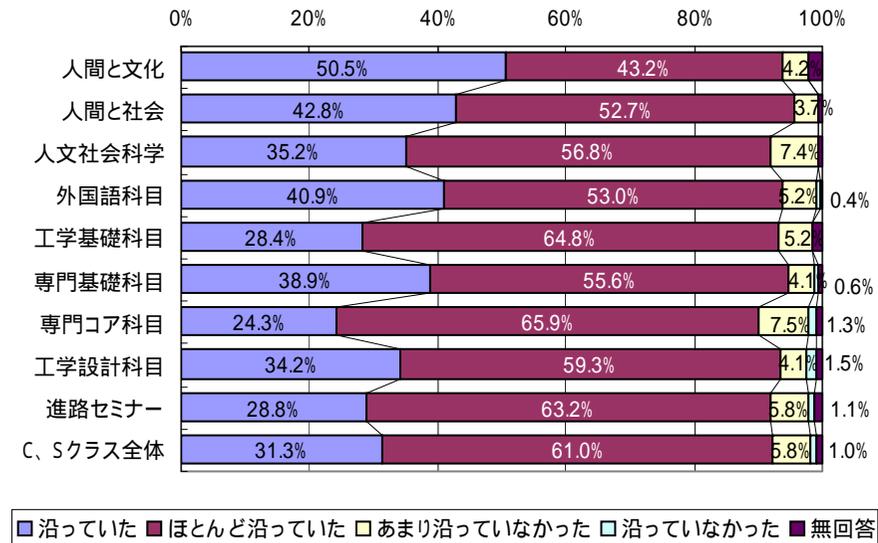


- 「D:予習・復習、課外学習活動」の時間も科目区分で大きな差が出た。まず、飛び抜けて長い時間が充てられていたのは「専門基礎科目」であり、「2時間以上」が4割を占めていた。次いで「工学設計科目」「専門コア科目」など、専門系で長い傾向が見られた。
- そして、「人間と文化」「人間と社会」「人文社会科学」がかなり短く、「外国語科目」「工学基礎科目」がやや短かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「工学設計科目」「進路セミナー」で「教科書・指導書はなかった」が多かった。また、「人間と文化」でも教科書や指導書がないケースもやや多めであったが、「適切だった」も非常に多く、評価は高いようであった。
- 「F:課題、レポート等の評価」では「課題またはレポート等はなかった」が「人間と社会」「進路セミナー」でやや多めであった。そして内容に関しては、「人間と文化」で十分役立ったという意見が多く見られ、次いで「工学基礎科目」「専門基礎科目」「工学設計科目」で課題やレポートが役立っているようであった。

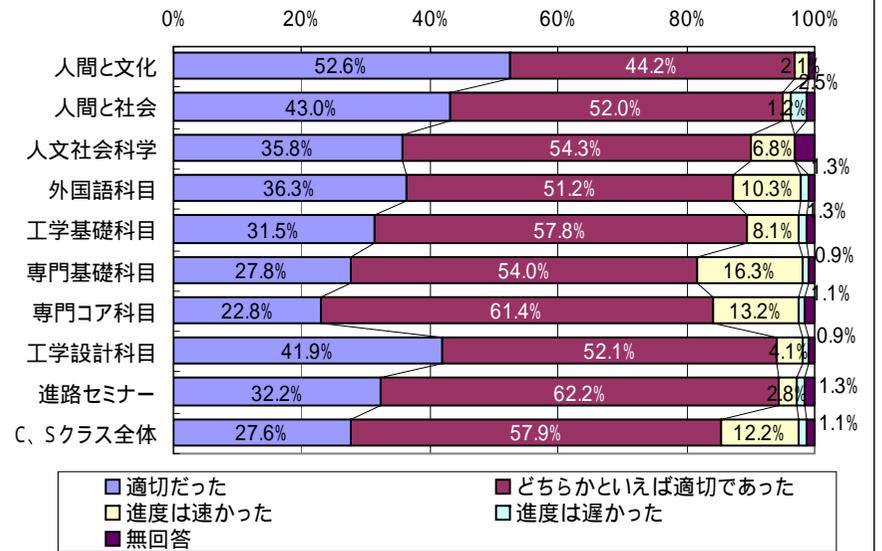


- 「G:学習支援計画書との一致」は「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」の合計ではそれほど差がなかったが、「沿っていた」だけを見ると「人間と文化」の評価が最も高く、次いで「人間と社会」「外国語科目」「専門基礎科目」の評価が高かった。
- 「H:授業の進度」で最も適切だったと評価されていたのは「人間と文化」であり、次いで「人間と社会」「工学設計科目」の評価が高かった。そして、進度が速かったと感じられていたのは「専門基礎科目」「専門コア科目」であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合から見ると、「工学設計科目」では6割以上が学習相談をしているようであり、「外国語科目」「専門基礎科目」「工学基礎科目」においても約半数の学生は相談をしているようであった。
- そして、あまり学習相談が利用されていないのは「人間と社会」「進路セミナー」「専門コア科目」であり、6割以上が利用していないようであった。

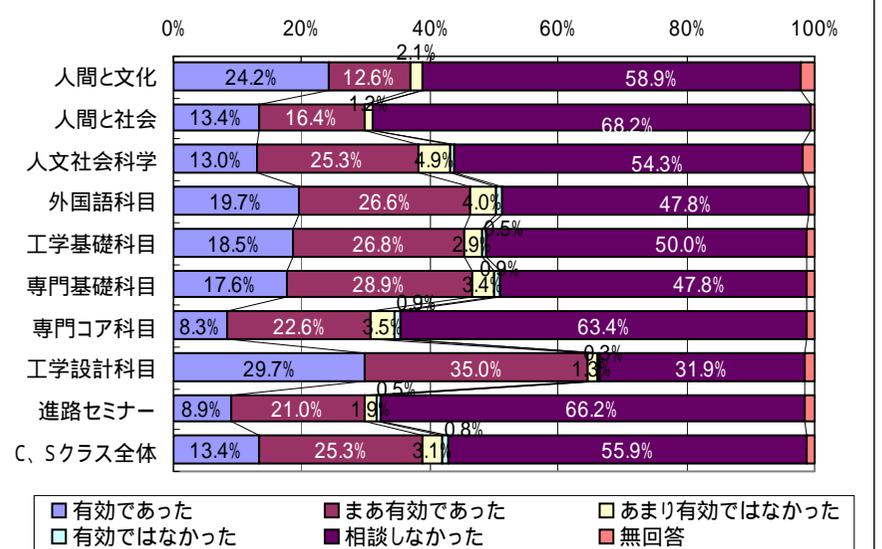
G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか

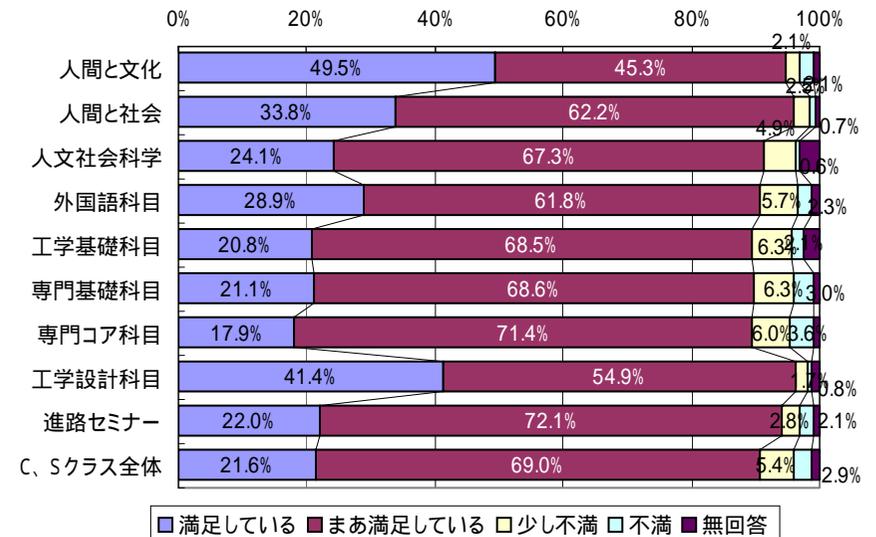


I:授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

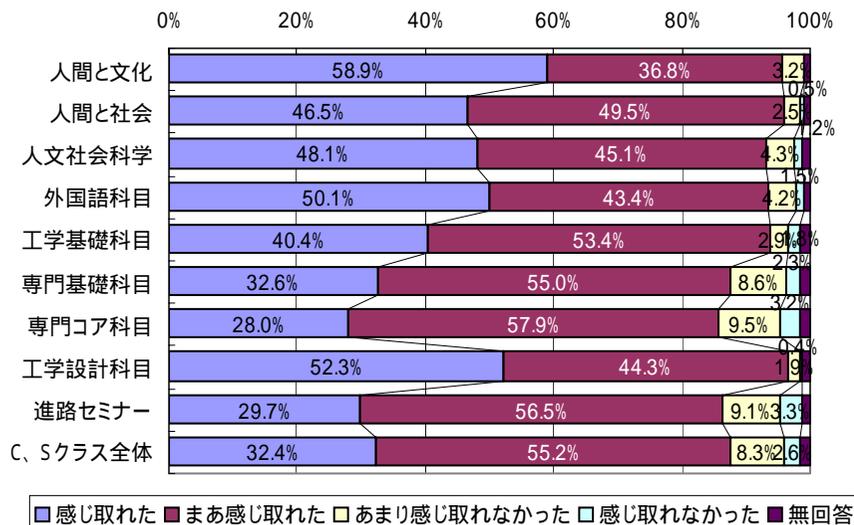


- 「J:教員の熱意」を見ると、「人間と文化」「工学設計科目」で教員の熱意を感じているという回答が多く見られた。一方、「専門コア科目」で熱意が感じられたという回答は最も少なく、「進路セミナー」「専門基礎科目」もやや少なかった。
- 「K:この科目の満足度」で、「満足している」と「まあ満足している」の合計で見るとそれほど差は見られなかったが、「満足している」だけで比較すると、「人間と文化」の満足度が最も高く、次いで「工学設計科目」「人間と社会」と続いており、この3つの満足度が高かったと言える。
- そして、「外国語科目」は「満足している」と「まあ満足している」を合わせると他の科目と変わらなかったが、「満足している」だけを見るとやや多く、他の科目区分とは異なり「外国語科目」では満足の度合いが非常に高い学生が存在するようであった。

K:授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか



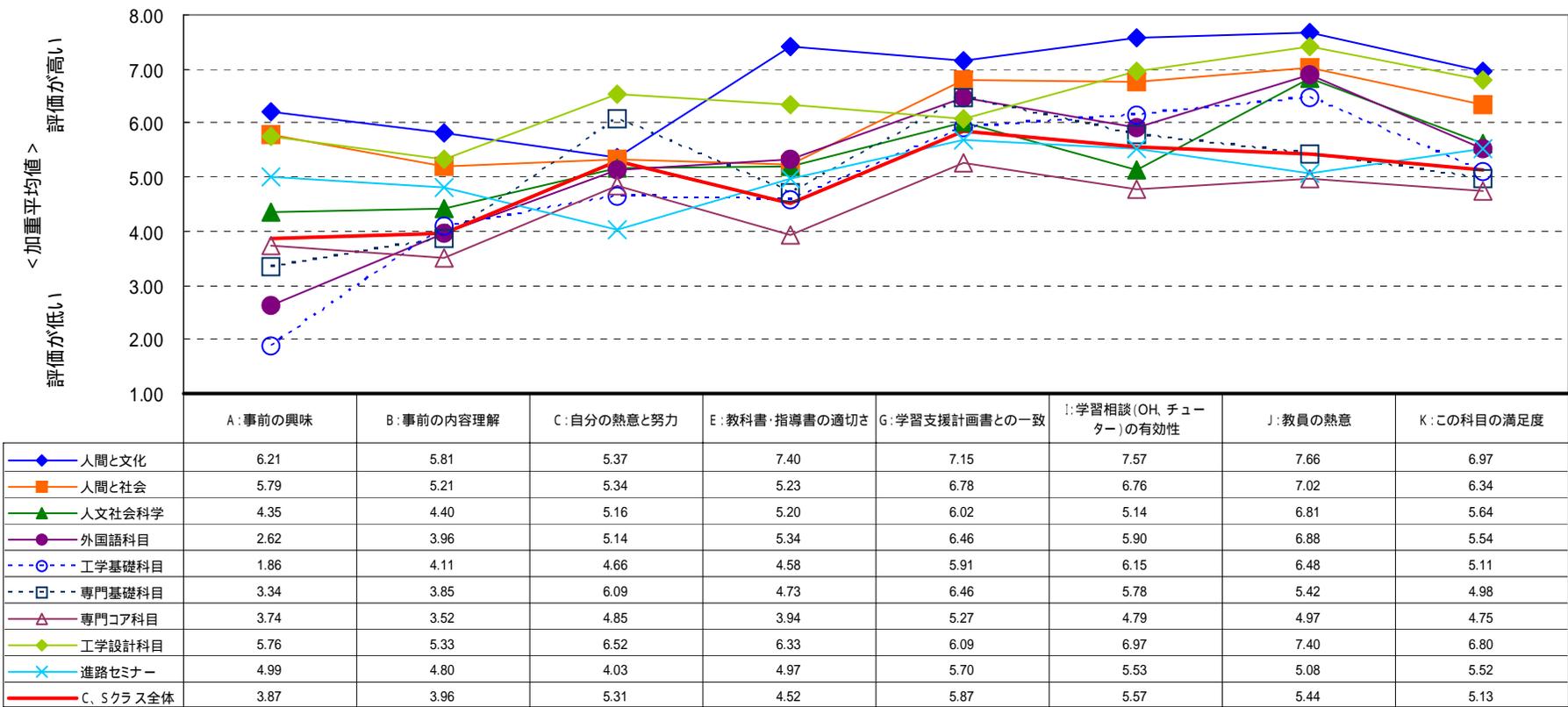
J:授業や学習相談を通して、
教員の熱意を感じることができましたか



<4-4> C、Sクラス 科目区分の加重平均比較

- まず全体の傾向を見ると「人間と文化」が全般的に高かった。「C:自分の熱意と努力」だけは平均的なスコアであったが、「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談の有効性」や「J:教員の熱意」のスコアが高く、満足度も最も高かった。自分の熱意と努力が低い点は気になったが、全体的にスコアが高く、この高さの要因を探ることで何らかのヒントが見えるのではないかとと思われる。
- また、「工学設計科目」「人間と社会」も全般的にスコアが高かった。特に「工学設計科目」は「C:自分の熱意と努力」が最も高く、事前に興味と熱意を持って授業に取り組んでおり、満足度も高く、学生が良い状態にあるものと思われる。
- 一方、「専門基礎科目」では「C:自分の熱意と努力」は高いものの、他の項目のスコアは全般的に低かった。当初から興味はそれほど強くないが、学生は努力をしている。しかし授業の進め方や内容の評価は低く、教員の熱意も感じられず、満足度も低いということであり、何らかの悪循環に陥っているのではないかとされた。
- そして、全般的にスコアが低かったのは「専門コア科目」であった。「A:事前の興味」は平均的であったが、ほとんどの項目で最も低いスコアであり、満足度も最低で、学生は何らかの不满を持っているものと思われる。

授業の評価 C、Sクラス 科目区分別比較 (加重平均が可能な項目のみ)

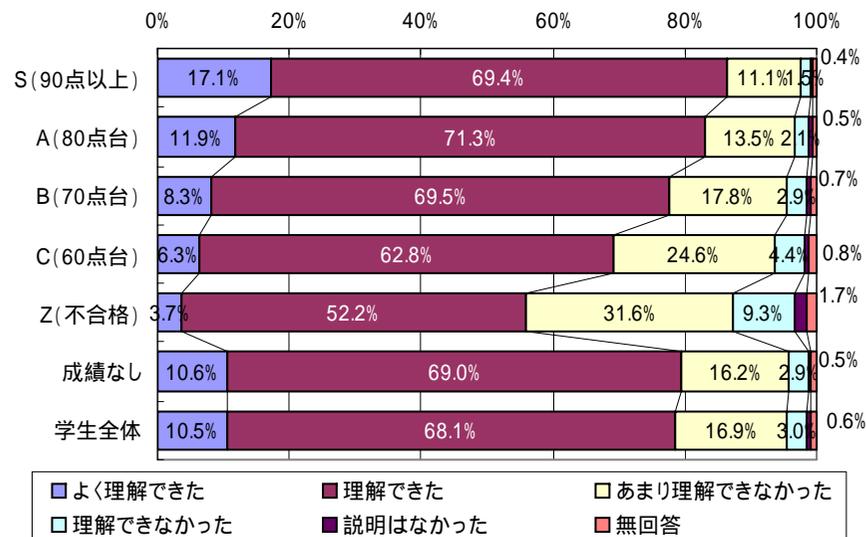


< 5 > 成績、満足度別のクロス集計

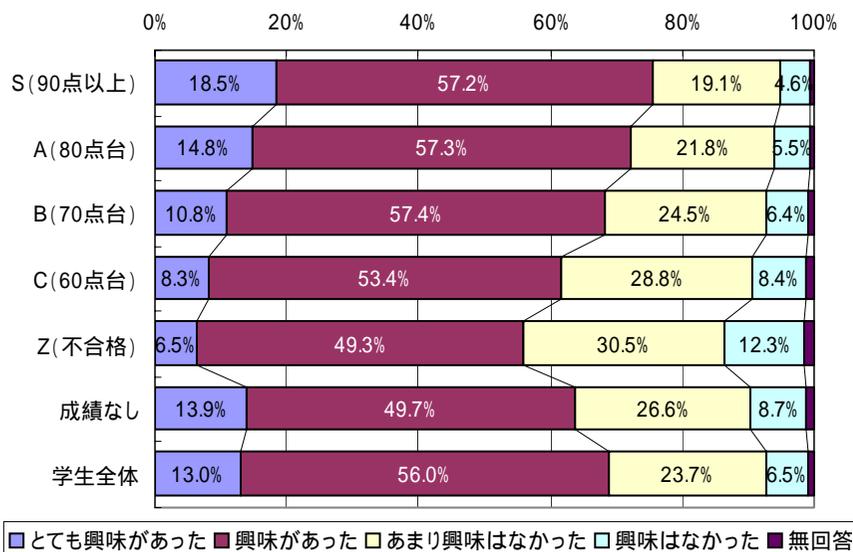
< 5-1 > 成績別の比較

- 成績別に「A:事前の興味」を見ると、明らかに成績の良い層は事前に強い興味を持っていたことが分かる。成績が「S」の層では「とても興味があった」と「興味があった」の合計は75.7%であったが、成績が下がると共に興味も低下し、「Z」では55.8%と、19.9ポイントの差が見られた。
- 「B:事前の内容理解」も成績との相関関係が明確であり、「S」では86.5%が事前に内容を理解していたが、「Z」では理解していたのは55.9%にとどまり、非常に大きな差となっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も成績と相関関係にあり、成績が良い層ほど努力していると答えていた。

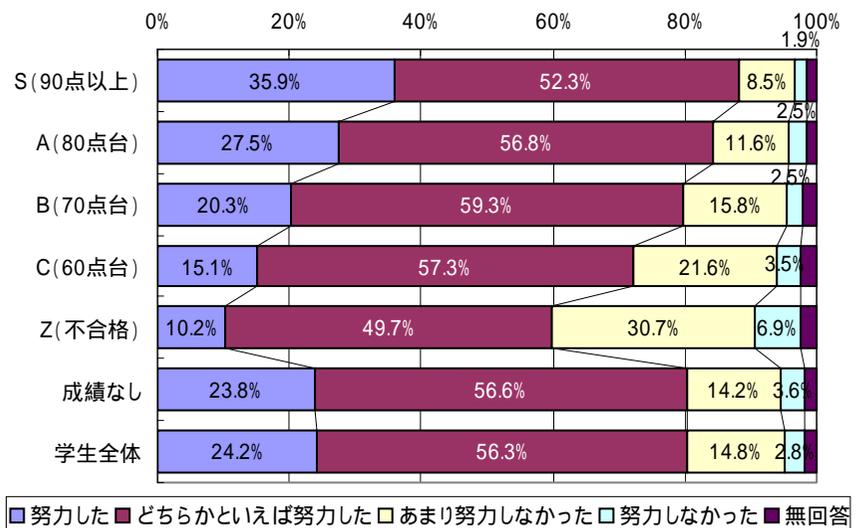
B:最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか



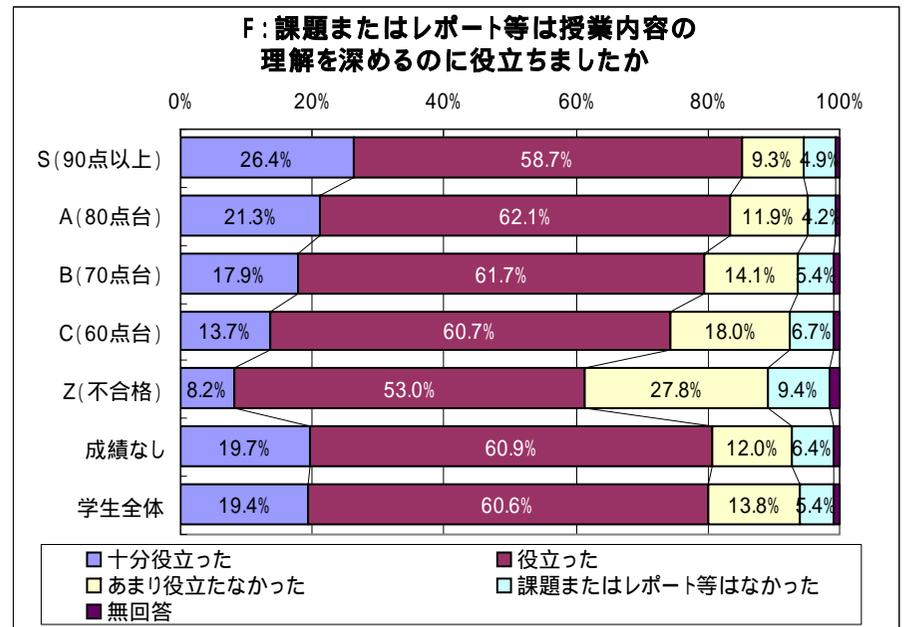
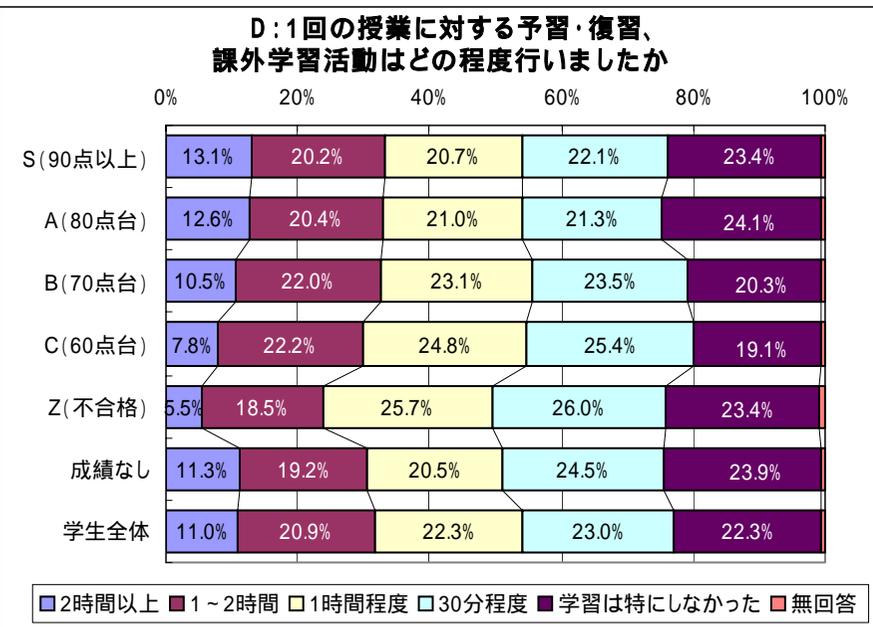
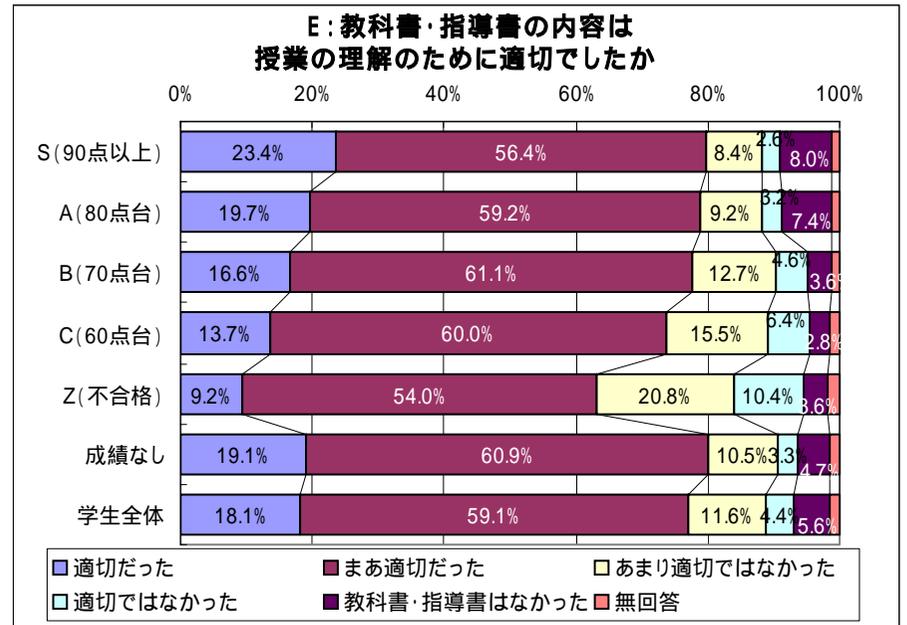
A:受講前、この科目に興味はありましたか



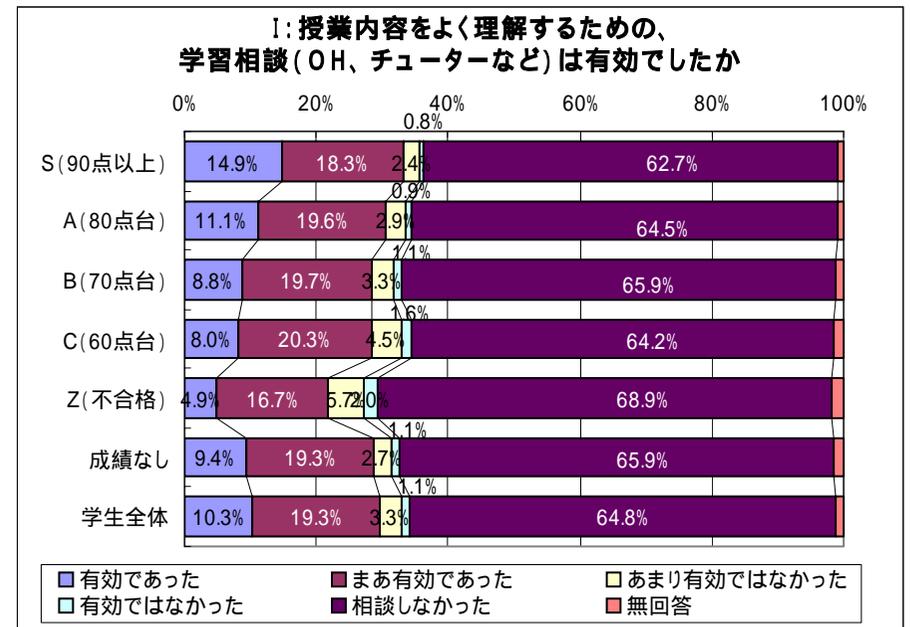
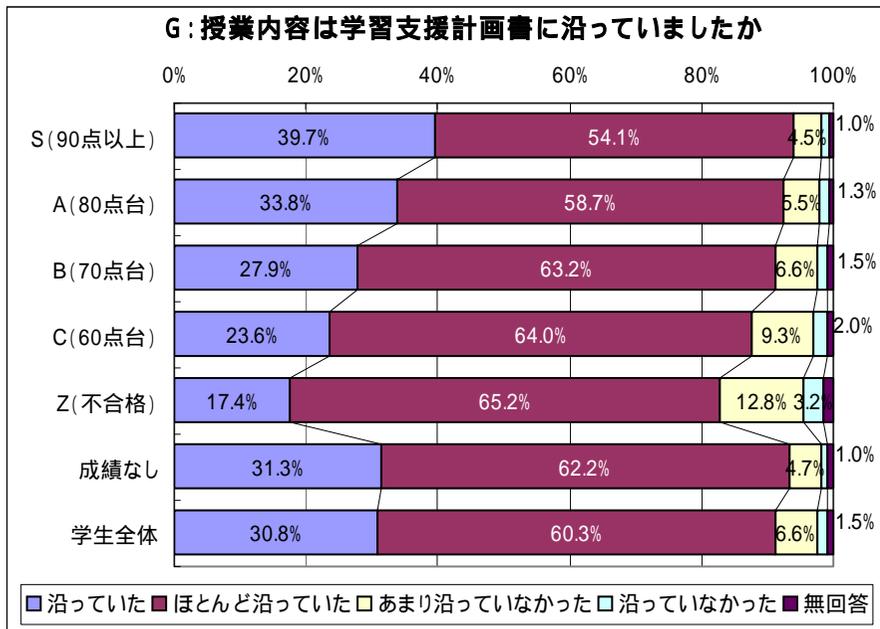
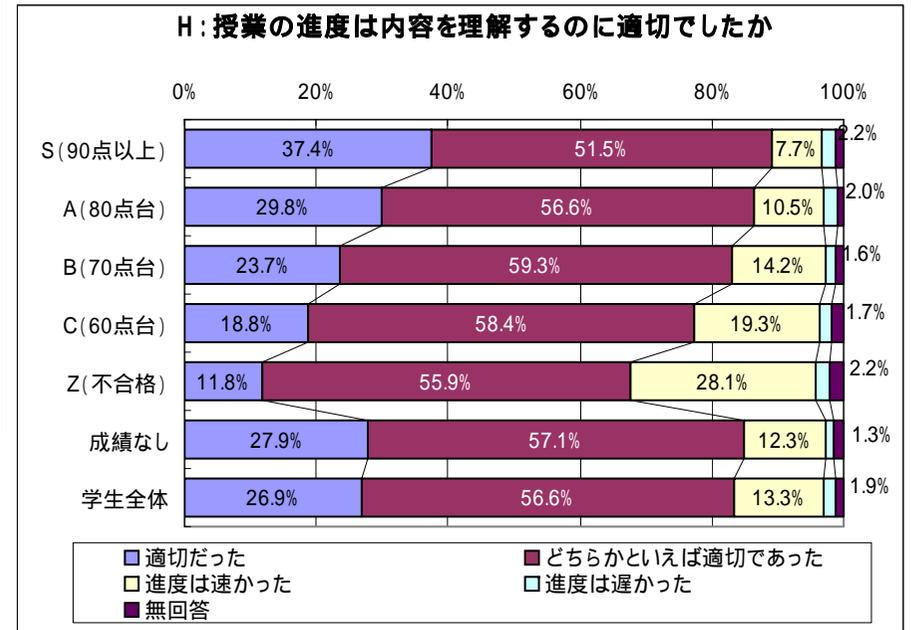
C:授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか



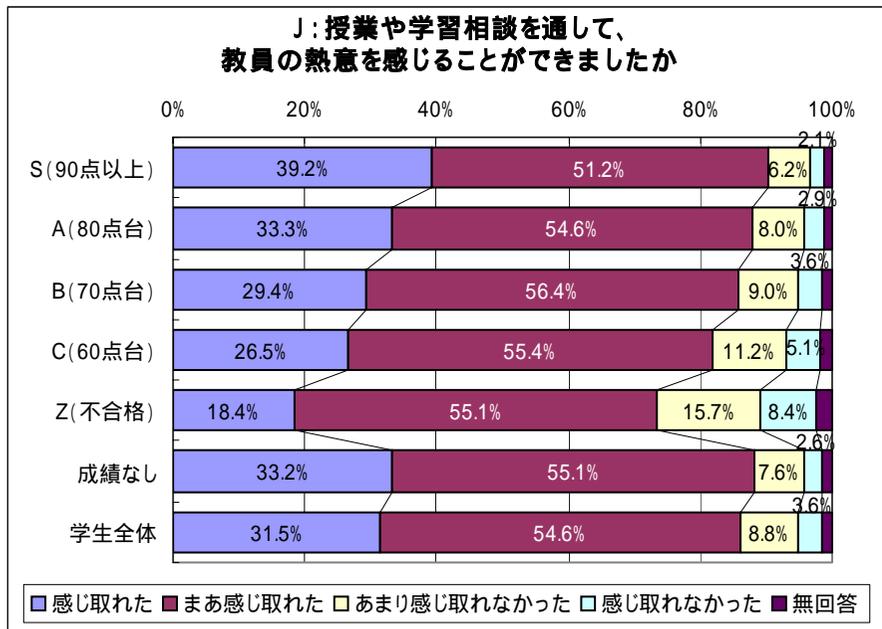
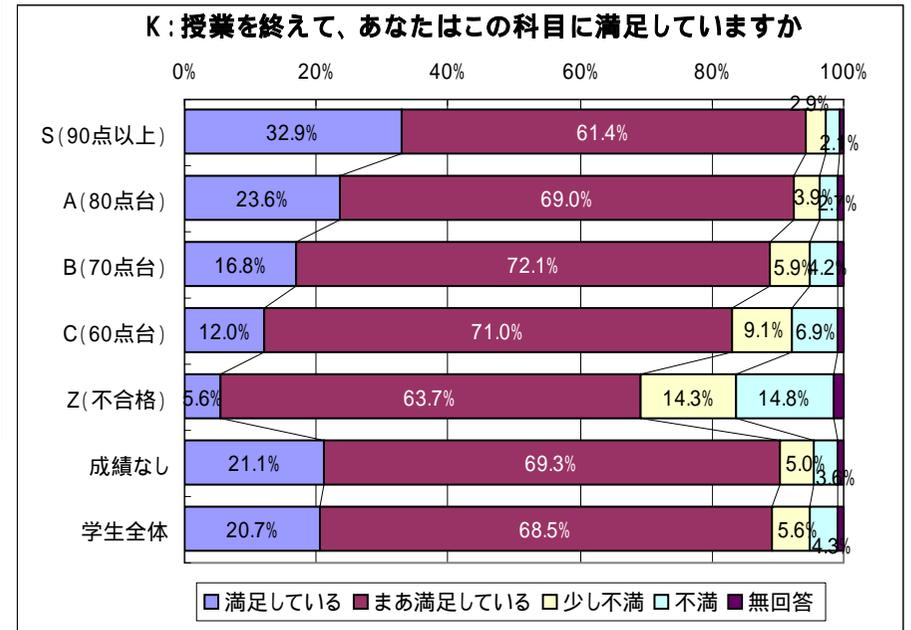
- 成績との関係では多くの項目で相関関係が見られたが、「D:予習・復習、課外学習活動」ではあまりそのような傾向が見られなかった。
- 「2時間以上」を見ると、長時間の予習・復習、課外学習活動をしているのは成績の良い層だと言えそうであるが、「1~2時間」は成績によってあまり変わらず、「1時間程度」は成績の良い層ほど少ないという傾向が見られた。これらを見ると一概に長い時間を予習・復習、課外学習活動に充てるほど成績が良いとは言えないようであった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は成績の良い層ほど適切であったと感じていた。特に成績が「S」から「C」までと「Z」では差が大きく、不合格であった「Z」の層は成績の悪さを教科書・指導書の内容の悪さに転嫁しているのではないかとと思われる。
- 「F:課題、レポート等の評価」も上記と同様の傾向であり、成績が良いほど課題やレポートが役立ったと感じていた。そして、「Z」の層は成績の悪さを課題やレポートに転嫁しているのではないかとと思われる。



- 「G: 学習支援計画書との一致」も成績と相関関係にあり、成績が良い層ほど授業が学習支援計画書に沿っていたと感じているようであった。ただし、成績が「Z」の層でも8割以上が沿っていたと評価しており、成績が良くない層からも評価が悪いわけではなかった。
- 「H: 授業の進度」も成績が良い層ほど適切だと感じていた。「S」では約9割が進度は適切だと感じていたが、「Z」では適切だと感じているのは7割程度で、28.1%は「進度は速かった」と感じており、授業について行けていないという状況があるようであった。
- 「I: 学習相談の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、例外はあるものの成績が良くない層ほど学習相談を利用していない傾向がうかがえた。そして、成績が良い層ほど有効性を認めているようであった。

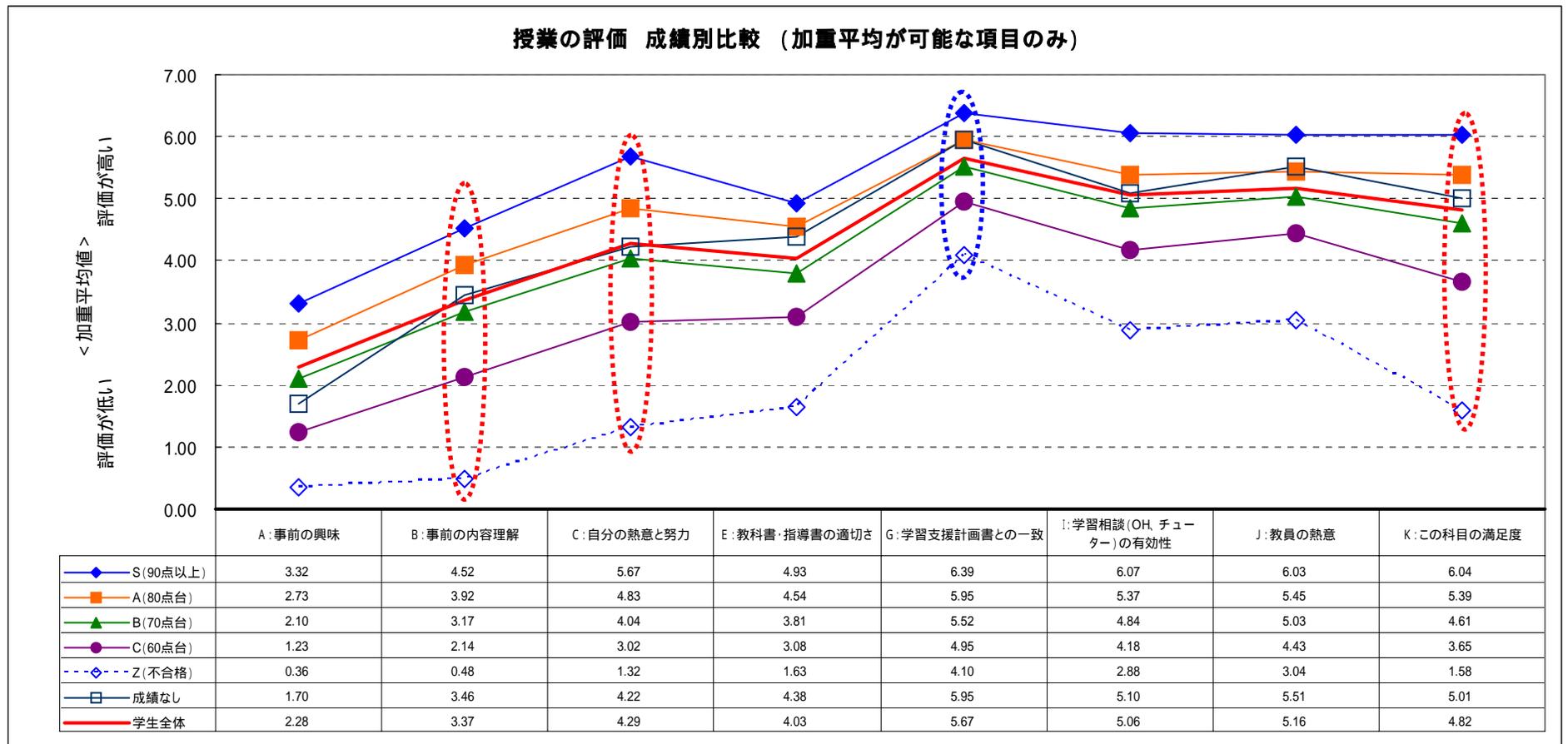


- 「J」:教員の熱意も成績と相関しており、成績が良い層ほど教員の熱意を感じていた。成績が「S」では約9割が教員の熱意を感じていたが、「C」では8割程度、「Z」では7割程度しか熱意を感じておらず、大きな差が見られた。
- 「K」:この科目の満足度も成績と相関しており、成績が良い層ほど満足度が高い傾向が確認できた。成績が「S」の層では94.3%とほとんどの学生が満足していたが、「A」で92.6%、「B」で88.9%、「C」で83.0%と満足している学生の割合は低下しており、不合格の「Z」では一段と低下して69.3%が満足しているという回答であった。
- 成績が低下すると満足度が低下するのは分かるが、不合格の学生でも7割が授業に満足しているというのはどのような意識の構造があるのか、今後の課題として挙げるべきと言える。



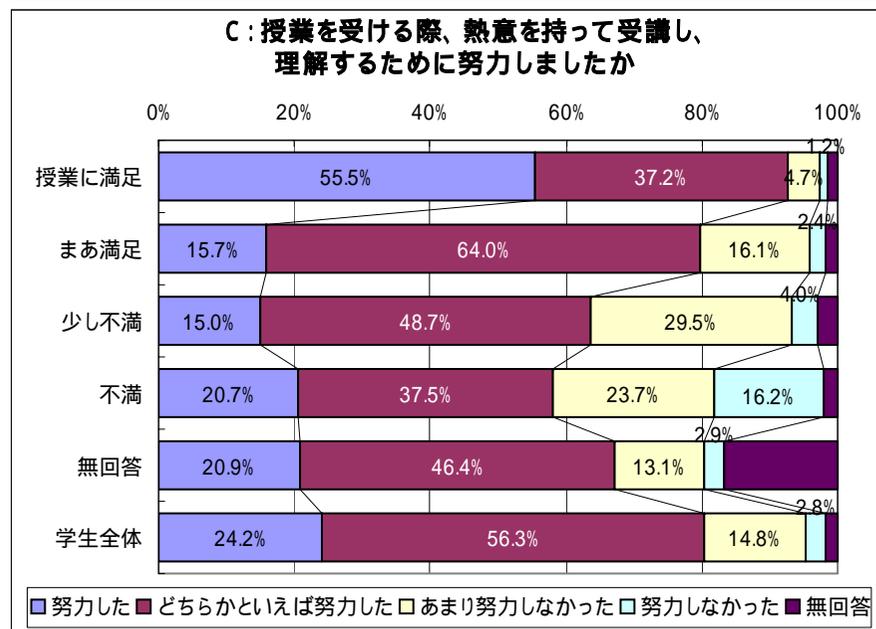
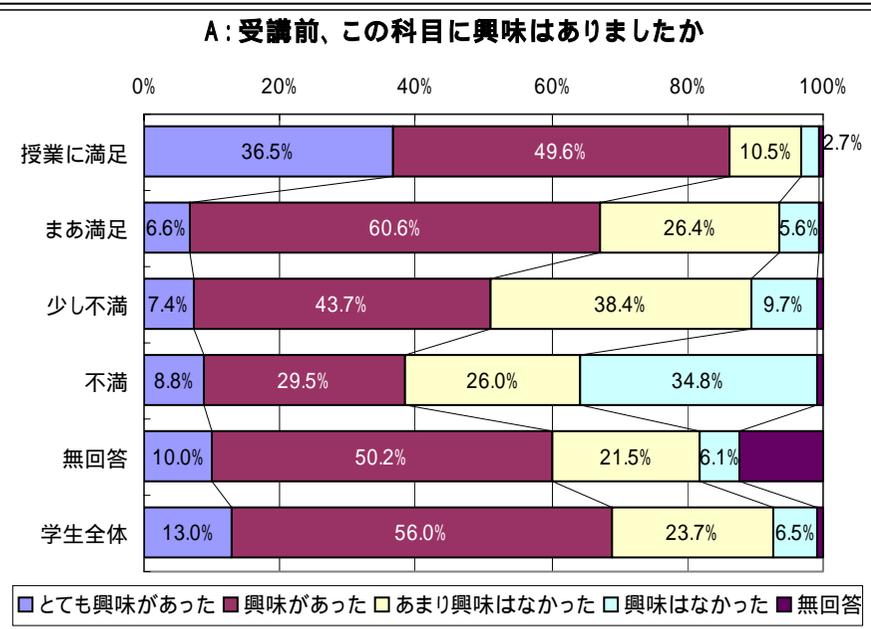
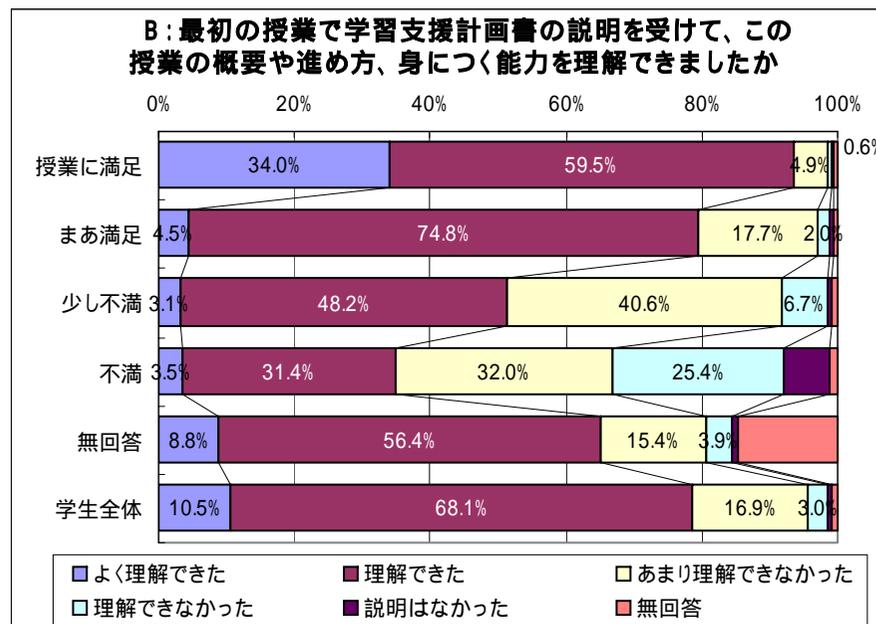
< 5-2 > 成績別の加重平均比較

- 帯グラフでここまでに見てきたように、加重平均で比較しても全ての項目で成績との相関関係が確認できた。
- 成績によるスコアの順はどの項目でも変わらないため、スコアの広がりを確認したところ、まず目についたのが「G:学習支援計画書との一致」であった。他の項目と比べて「G:学習支援計画書との一致」は成績によるスコアの差の幅が狭かった。これを見ると成績の良い悪いにあまり関係なく、多くの学生が授業内容は学習支援計画書とよく一致していると感じているとすることができる。
- 逆に成績によって開きが多いケースであるが、グラフ中では赤い点線で囲まれており、3つの項目ともに「Z」のスコアの低さが際だっているという特徴が見られた。その3つとは「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」「K:この科目の満足度」であり、これらの項目に関しては成績によって意識に大きな差が出てくると言うことができる。

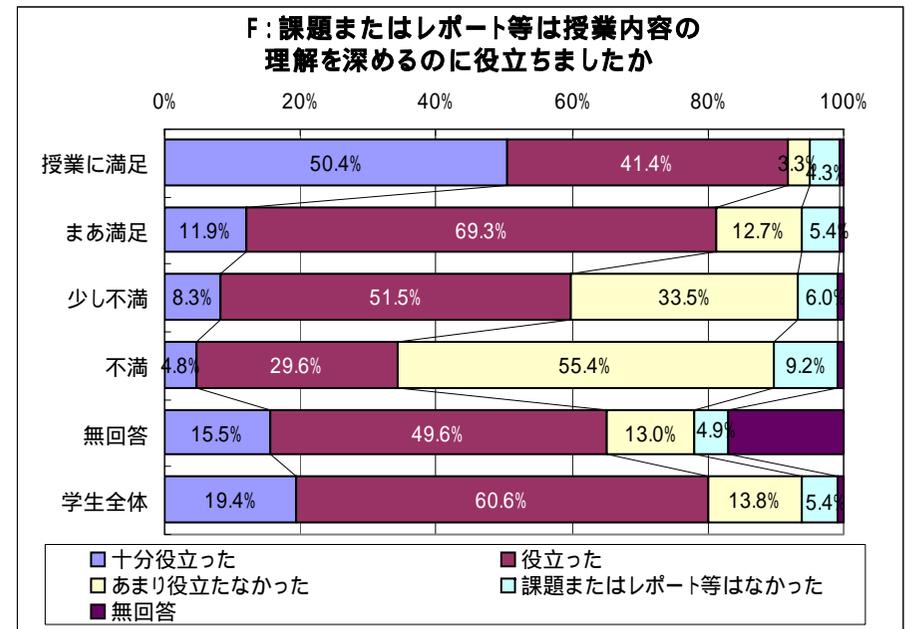
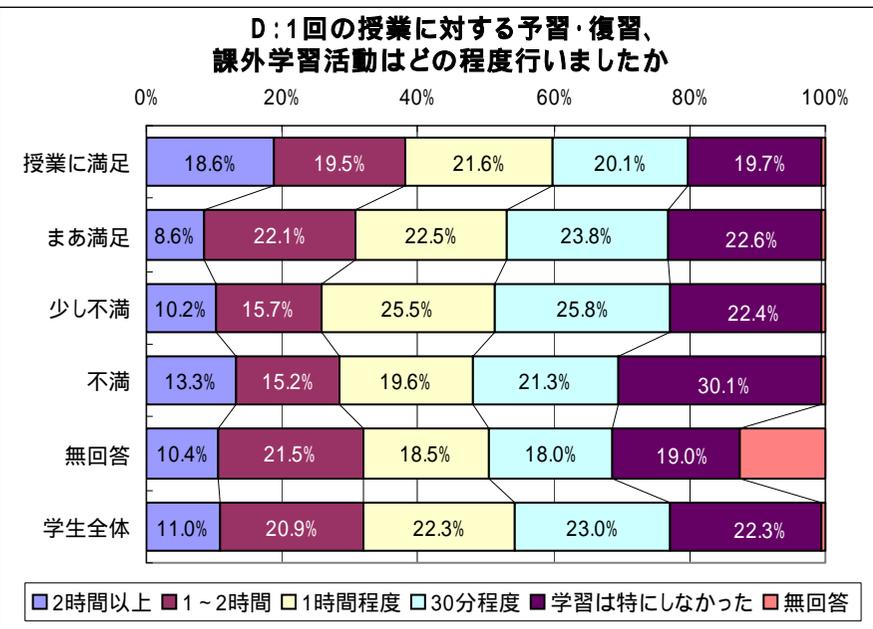
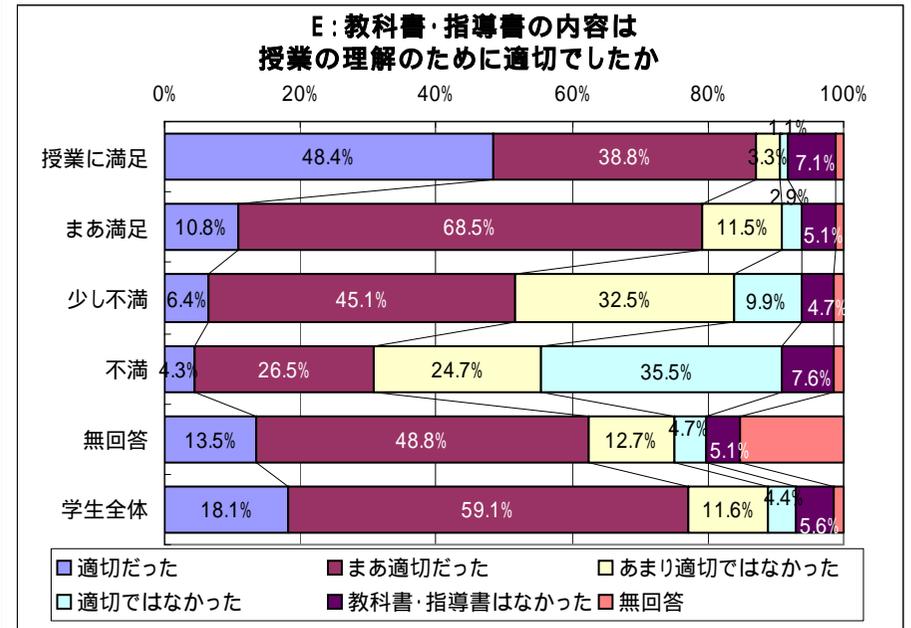


< 5-3 > 満足度別の比較

- 「K:この科目の満足度」の回答別に各設問のクロス集計を行った。
- 「A:事前の興味」では「授業に満足」の層が非常に強い興味を示している点が目立っており、「とても興味があった」層が大きな満足を感じていることが分かった。
- そして、「とても興味があった」と「興味があった」を合わせると満足度が下がるほど興味が低下する傾向が確認できたが、「まあ満足」の層以降で「とても興味があった」だけを見ると、不満を持っている層ほどわずかに増加する傾向があり、一部に「興味があったが最終的には不満であった」と、期待外れを感じている学生がいそうであった。
- 「B:事前の内容理解」も授業に満足している層ほど理解度が高い傾向が見られた。ここでも「授業に満足」の層では34.0%が「よく理解できた」と回答していた点が目立っていた。
- 「C:自分の熱意と努力」でも授業に満足している層は非常に熱心に努力をしており、55.5%が「努力した」、37.2%が「どちらかといえば努力した」と回答していた。そして、授業に不満を感じている層では「努力した」がやや多く、努力したが最終的には不満を感じている層がいるようであった。

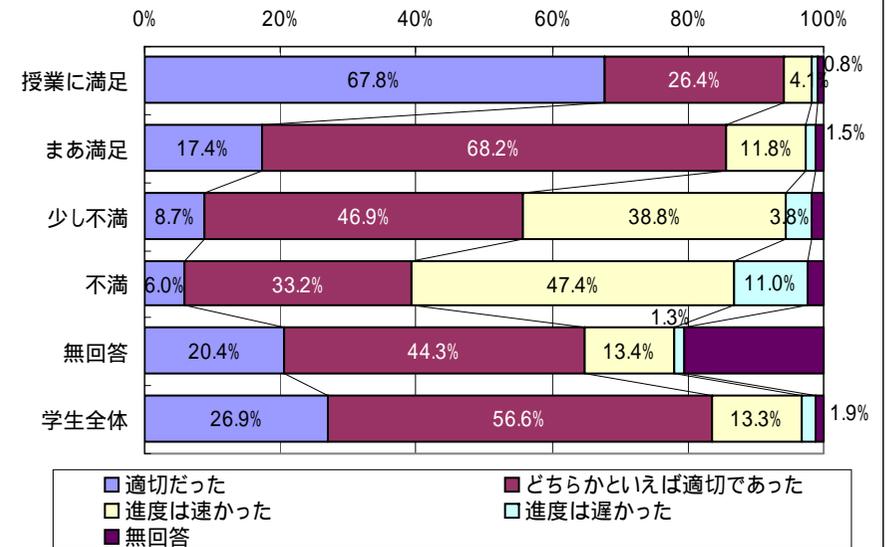


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」では満足度との強い相関関係は見られなかったが、授業に満足している層は「2時間以上」は最多で、「学習は特にしなかった」は最少と、やはり満足している学生は予習・復習、課外学習活動に充てる時間がやや長い傾向が見られた。
- そして、「不満」の層では「2時間以上」が13.3%と、「まあ満足」「少し不満」よりもやや多く、勉強をしっかりとっているが不満を感じている学生がいることも確認できた。
- 「E: 教科書・指導書の適切さ」では明確な相関関係があり、授業に満足している層は約9割が教科書・指導書が適切だったと感じていたが、授業に不満な層では3割ほどしか適切だと感じていなかった。
- 「F: 課題、レポート等の評価」も上記と同様の傾向が見られ、授業に満足している層は約9割が課題やレポートが役立ったと感じていたが、授業に不満な層では3割ほどしか適切だと感じていなかった。
- 「教科書・指導書」や「課題・レポート」の評価は満足度によって非常に大きな差があったが、今回の調査で「授業に不満」と答えたのはわずかに4.3%であり、これらの学生は特に「教科書・指導書」や「課題・レポート」を非常に厳しく評価していることが分かった。

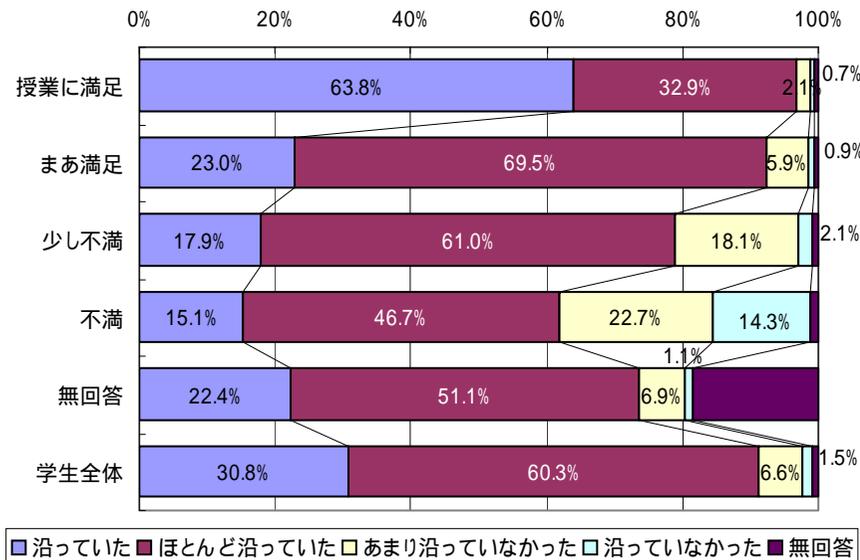


- 「G:学習支援計画書との一致」も満足度と相関関係にあり、授業に満足していた層では63.8%が「沿っていた」、32.9%が「ほとんど沿っていた」と非常に高く評価していた。そして、「まあ満足」の層でも9割以上が沿っていたと評価していた。
- 「H:授業の進度」でも、授業に満足している層は進度が適切だと感じており、67.8%は「適切だった」と答えていた。そして、満足度が低下するほど「速かった」と感じる意見が増加しており、授業に「不満」と答えている層では47.4%と半数が「進度は速かった」と答えていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合から比較すると、「授業に満足」では4割程度が学習相談を利用していたが、満足度が下がるほど利用率も低下しており、「不満」では2割程度しか学習相談を利用していなかった。

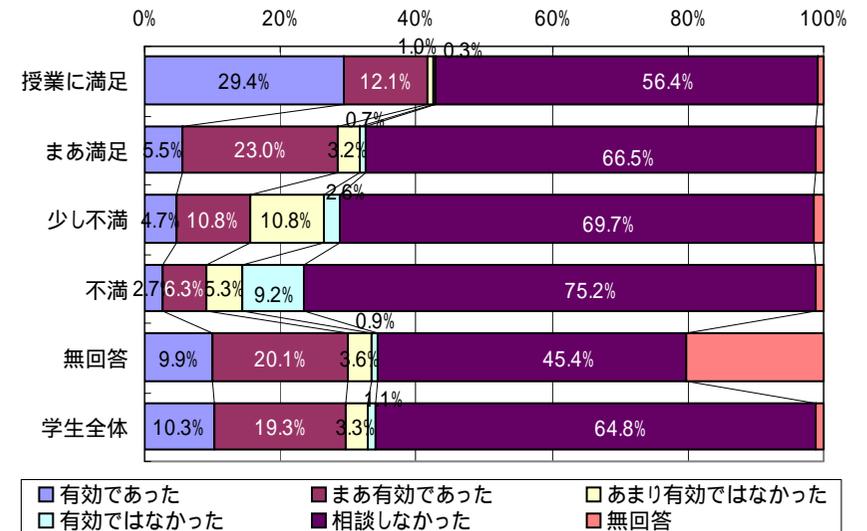
H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



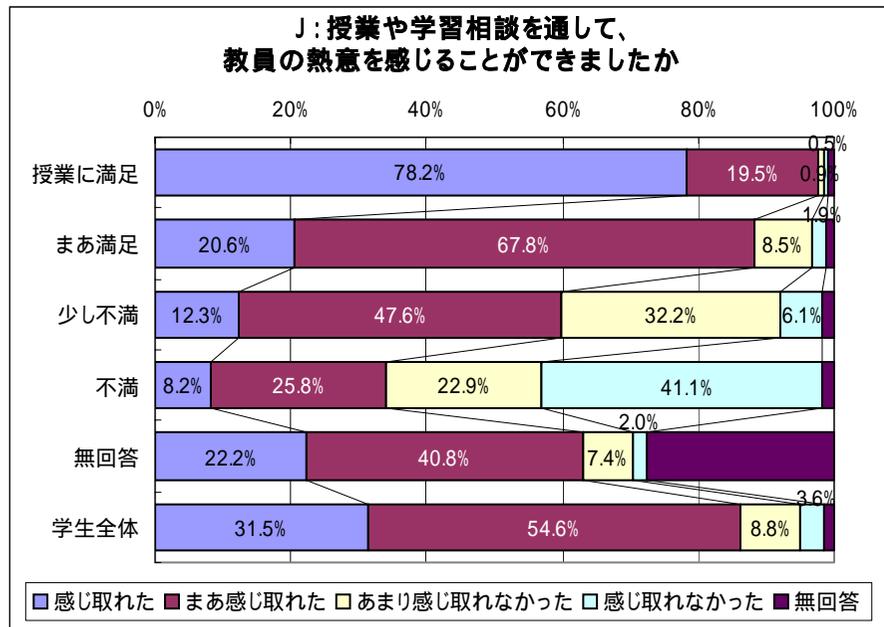
G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



I:授業内容をよく理解するための、学習相談(OH、チューターなど)は有効でしたか

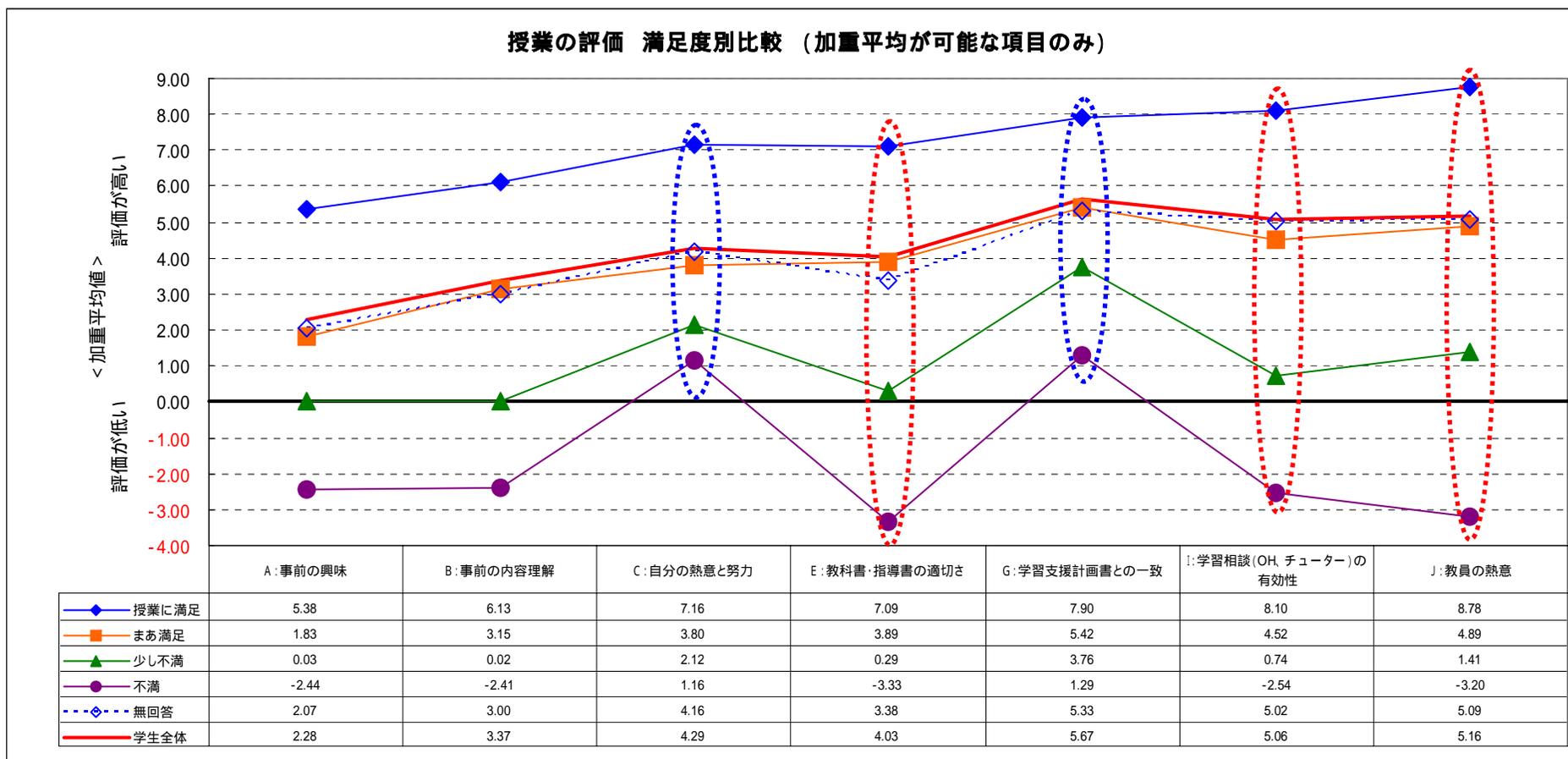


- 「J:教員の熱意」では「授業に満足」とそれ以外の差が非常に大きく、「授業に満足」では78.2%が教員の熱意を「感じ取れた」と答えており、「まあ感じ取れた」の19.5%を加えると、ほぼ100%となった。
- それが、「まあ満足」になると「感じ取れた」は20.6%と57.6ポイントも低下していた。「まあ感じ取れた」と合わせると88.4%が教員の熱意を感じていることになるが、「授業に満足」とは感じ方の強さが違うと言える。
- そして、「不満」では「感じ取れた」が8.2%、「まあ感じ取れた」が25.8%であり、合わせても34.0%しか教員の熱意を感じ取れたと答えていなかった。



< 5-4 > 満足度別の加重平均比較

- 帯グラフで見たように、加重平均で比較をしても授業に満足している層ほど各項目のスコアは高く、それが逆転するものは見られなかった。
- 「不満」の層を見ると「C:自分の熱意と努力」と「G:学習支援計画書との一致」以外はマイナスとなっていた。これは「不満」の層は「自分自身はしっかりと努力しているが、授業の進め方や内容、教員の熱意が非常に悪いと感じている」という解釈もでき、教員や授業内容、進め方に不満の要因を責任転嫁しているとも言える。
- 満足度によってスコアのばらつきに差が見られた。「C:自分の熱意と努力」「G:学習支援計画書との一致」の2点のばらつきは比較的少なく、満足度がどうあれ自分自身は熱意を持って取り組んでおり、授業の内容は学習支援計画書と一致していると感じていると言える。
- 逆に開きが大きかったのは「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」などであるが、これは帯グラフでも確認したように不満の大きな学生は教科書や指導書の理解が進んでいないこともあって評価が低く、学習相談の評価も低い利用率自体も低い。そして、教員に責任転嫁をしているためか教員の熱意を感じることはなく、厳しい評価をしているという構造があるものと思われる。



< 6 > 重回帰分析、その他の集計による分析

- 今回の調査では、新たな切り口として重回帰分析によって試験的に授業評価の分析を行った。
- なお、ここで行った集計はテスト的におこなったものであり、今後、その妥当性を確認していく必要があると言える。
- 重回帰分析の考え方は「従属変数(ここでは、K:この科目の満足度)」に対して、「説明変数(ここでは、事前の興味や事前の内容理解、教員の熱意などの設問)」がどのように影響しているのかを見るものである。
- 説明変数としては、選択肢の設定によって下記の7つを使っている。
- 「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」
- まず、一般的に「有意確率」が0.05より大きいものは、影響はあまり大きくないと見ることができるが、ここでは全て0.05以下であり、影響があると考えることができる。
- そして、「標準化係数」の大きいものは従属変数に対する影響が大きいと見ることができるが、最も影響が強いものは標準化係数が0.359の「J:教員の熱意」であった。次いで「B:事前の内容理解」の影響が強いようであった。
- これらより、学生全体としては「事前に内容や進め方、身につく能力が理解できており、教員の熱意を感じる授業」の満足度が高いという傾向があるようであった。

「K:この科目の満足度」に影響の強いもの

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.387	.008		48.559	.000
A:事前の興味	8.386E-02	.003	.096	31.786	.000
B:事前の内容理解	.149	.003	.148	46.202	.000
C:自分の熱意と努力	5.478E-02	.003	.060	19.902	.000
E:教科書・指導書の適切さ	4.623E-02	.002	.068	23.844	.000
G:学習支援計画書との一致	9.561E-02	.003	.090	30.155	.000
I:学習相談の有効性	1.577E-02	.001	.037	13.851	.000
J:教員の熱意	.326	.003	.359	116.052	.000

従属変数: K:この科目の満足度
関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでいる。

有意確率が0.05より大きいものは影響が小さい

標準化係数の値が大きいほど影響が大きい

- 学年毎に重回帰分析を行ったところ、前項の通り全ての学年で「J:教員の熱意」が授業満足度に最も影響が強く、次いで「B:事前の内容理解」の影響が強いということが確認でき、基本的な関係性に差はなかった。
- 学年によって各項目の重さづけや位置づけが異なるため、単純に比較するためには更なる検討が必要であるが、参考のために比較を行うと、学生によってわずかながら差が見られた。
- どの学年も「J:教員の熱意」の影響が最も大きかったが、学年毎のスコアを比較すると1年次生が最も大きく、高学年になるほど下がっていく傾向が見られた。
- また、「B:事前の内容理解」は1年次生が最も小さく、高学年になるほど大きくなる傾向が見られた。また同様に、高学年になるほど「A:事前の興味」の影響が大きくなる傾向が見られた。
- 以上より、どの学年でも「J:教員の熱意」と「B:事前の内容理解」が授業の満足度に大きな影響を与えているが、低学年ほど「J:教員の熱意」の影響が大きく、教員に導かれている部分が多いようであった。一方、高学年ほど「B:事前の内容理解」が大きく、「A:事前の興味」の影響も見られ、高学年は自分自身の興味に従って、事前に内容をしっかりと把握して授業を受けているものと思われる。そのため、高学年には「期待はずれ」が少なく、前で見たとように満足度も低学年より高いという結果になっていると思われる。

1年次生

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.351	.012		28.923	.000
A:事前の興味	7.825E-02	.004	.093	21.281	.000
B:事前の内容理解	.137	.005	.139	29.904	.000
C:自分の熱意と努力	6.762E-02	.004	.074	16.901	.000
E:教科書・指導書の適切さ	4.641E-02	.003	.069	16.565	.000
G:学習支援計画書との一致	9.292E-02	.005	.088	20.169	.000
I:学習相談の有効性	1.606E-02	.002	.036	9.149	.000
J:教員の熱意	.346	.004	.383	84.263	.000

Cクラス

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.382	.016		23.337	.000
A:事前の興味	.117	.006	.124	18.211	.000
B:事前の内容理解	.173	.007	.165	23.530	.000
C:自分の熱意と努力	6.288E-02	.006	.066	10.171	.000
E:教科書・指導書の適切さ	2.358E-02	.004	.040	6.493	.000
G:学習支援計画書との一致	9.721E-02	.007	.094	14.229	.000
I:学習相談の有効性	1.719E-02	.002	.046	7.716	.000
J:教員の熱意	.283	.006	.319	47.202	.000

2年次生

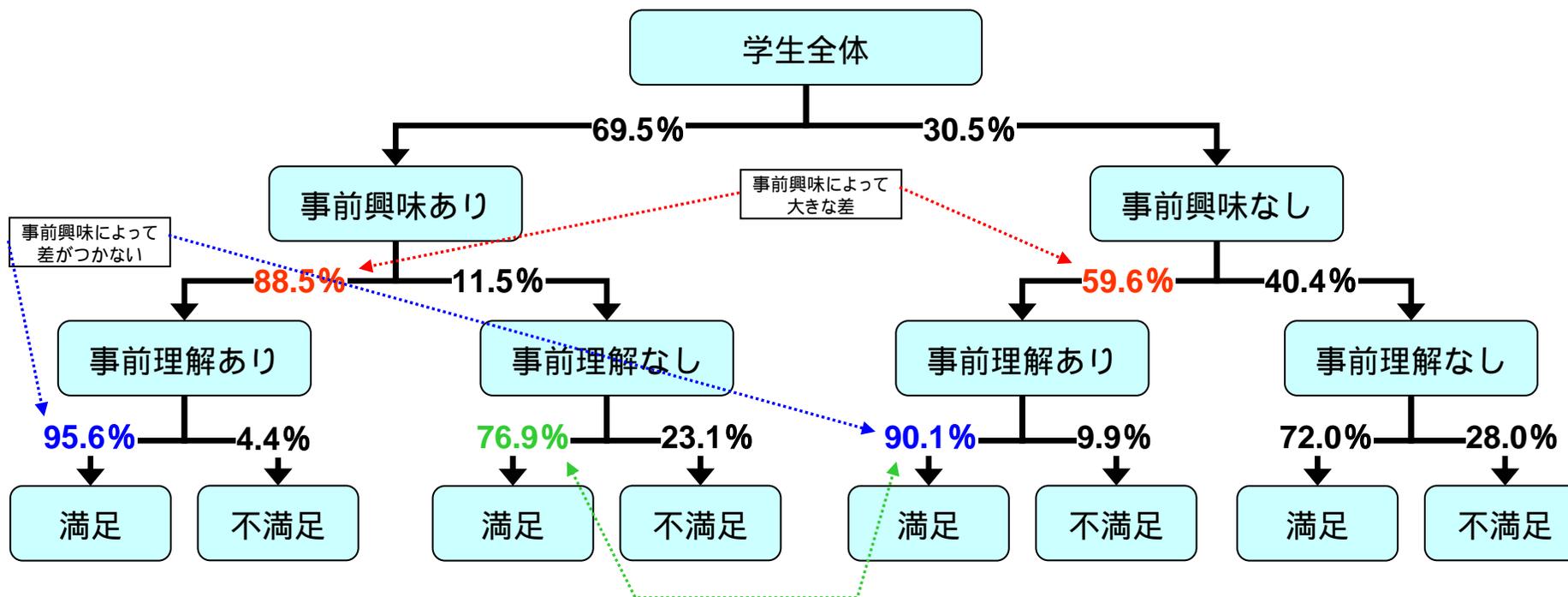
	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.453	.015		30.178	.000
A:事前の興味	7.365E-02	.005	.082	14.515	.000
B:事前の内容理解	.152	.006	.152	25.204	.000
C:自分の熱意と努力	2.175E-02	.005	.024	4.281	.000
E:教科書・指導書の適切さ	7.517E-02	.004	.101	18.107	.000
G:学習支援計画書との一致	8.814E-02	.006	.082	14.517	.000
I:学習相談の有効性	1.776E-02	.002	.041	8.322	.000
J:教員の熱意	.311	.005	.338	58.698	.000

Sクラス

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.305	.058		5.236	.000
A:事前の興味	.122	.019	.138	6.516	.000
B:事前の内容理解	.185	.024	.172	7.734	.000
C:自分の熱意と努力	8.982E-02	.020	.095	4.526	.000
E:教科書・指導書の適切さ	5.180E-02	.014	.076	3.731	.000
G:学習支援計画書との一致	8.765E-02	.022	.085	4.074	.000
I:学習相談の有効性	1.583E-02	.007	.042	2.143	.032
J:教員の熱意	.262	.020	.288	13.295	.000

< 6-2 > 事前情報提供の重要性の確認

- 重回帰分析では「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」といった事前の学生の状態が最終的な満足度に大きく影響しているという傾向が見られた。それを確認するため、それらの関係性を確認した。なお、ここでは「不明」を除いて集計しているため、他の集計と結果が異なっている部分もある。
- 下図は全学生を「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「K:この科目の満足度」の3項目の割合で並べて、各々の流れにどの程度の学生が属するかを確認したものであり、図中割合は、各々の2択の合計が100%となっている。
- まず、「事前興味あり」という学生が69.5%、「事前興味なし」が30.5%であるが、2階層目(赤文字)を見ると「事前興味あり」の88.5%が「事前理解あり」であり、「事前興味なし」&「事前理解あり」の59.6%を大幅に上回っており、事前に興味を持っている学生は、その学科で行われる内容をしっかりと理解しており、自分の身につくこともイメージして授業に入っていることが分かる。
- 次に3階層目(青文字)を見ると、95.6%と90.1%と差はあるもののそれほど大きな差ではなく、「事前に興味がなくとも、事前の内容説明によって内容をしっかりとイメージできていれば、最終満足度は高くなる」という状況があるようであった。
- そして、「事前興味あり」&「事前理解なし」(緑文字)を見ると76.9%であり、「事前興味なし」&「事前理解あり」の90.1%よりも小さかった。これを見ると「事前に興味を持たせることも重要であるが、最終的な満足度を上げるためには内容説明をしっかりと、事前に授業の内容がイメージできる方が重要である」ということができそうである。



<7> 全体のまとめ

<7-1> 基本的集計で分かったこと

全体の単純集計を場面と内容のマトリックスで整理すると下記のようにまとめることができる。

場面	学生自身の状況	教員の状況	授業の内容・支援
受講前～ 受講当初	◆ 7割の学生は受講前の段階から科目に興味を持っていたが、残りの3割は興味を持てないまま授業に入っていた。		◆ ほとんどの科目で学習支援計画書などによる事前説明は行われていた。 ◆ 8割の学生は事前に授業の概要や進め方、身につく能力を理解していた。
受講中	◆ 8割の学生は自分自身は熱意を持って受講し、理解するため努力していたと答えていた。 ◆ 予習・復習などに2時間以上の時間をかけている学生が1割おり、1～2時間が2割で、学習時間は年々長くなる傾向にあった。	◆ 86.1%の学生が授業や学習支援を通して教員の熱意を感じることができたと回答していた。	◆ 「教科書・指導書」では8割弱が適切だったと答えており、「課題・レポート」でも8割が役立ったと答えていた。 ◆ 9割は授業内容が学習支援計画書に沿っていたと感じており、有効に活用されているようであった。 ◆ 授業の進度は13.3%が速かったと感じていたが、8割以上は適切であったと答えていた。 ◆ 「学習相談」は64.8%が利用していなかったが、利用者の84.2%は有効であったと感じていた。
受講後	◆ 9割の学生が授業に満足していると回答しており、満足度としては非常に高いと言える。 ◆ H15からの変化を見ると、わずかずつではあるが、満足度は向上している。		



全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 受講前には3割の学生が授業内容に興味を持っておらず、この数値を引き下げることが1つの目標にできると思われる。 □ ただし、8割の学生は熱心に受講して、結果として9割の学生が授業に満足しており、全体としては非常に良い状態にあると言える。 □ わずかずつではあるが、満足度も年々向上しており、全体の授業取組状況としては良い状態にあると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 9割近くの学生が教員の熱意を感じると答えており、熱意は伝わっていると、言っても良いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習支援計画書による事前説明では8割が授業内容を理解していたが、この事前説明を工夫することで事前興味を引き上げることも可能になると思われる。 □ ただし、授業の内容自体は学習支援計画書にしっかりと沿っており、問題はないものと思われる。 □ また、教科書や課題などにも大きな問題はなさそうであった。 □ 学習相談の利用率がそれほど高いとは言えないため、利用促進活動の必要がないか、検討の余地があると思われる。
------	---	---	--

<7-2> 学年別集計で分かったこと

学年別のクロス集計を場面とで整理すると下記のようにまとめることができる。

場面	1年次生の状況	2年次生の状況	Cクラスの状況	Sクラスの状況
受講前～ 受講当初	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事前の興味は1年次生が最も弱い。ただし、一部の層は強い興味を持っている。 ◆ 2年次生に次いで事前の授業内容の理解は弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事前の興味はそれほど強くない。 ◆ 事前の授業内容の理解が最も弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事前の興味はCクラスが一番強い。 	
受講中	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2年次生よりも熱意は持っているが、それほど高くはない。 ◆ 学習支援計画書には最も沿っていたと評価していた。 ◆ 授業の進度が適切だと考える意見は多かった。 ◆ 学習相談の利用度は最も低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業に対する熱意は最も低い。 ◆ 予習・復習時間は1年次生と同等で短いわけではない。 ◆ 教科書の評価、課題などの有効性を認める意見は最も少ない。 ◆ 学習支援計画書に沿っていたという意見は少なかった。 ◆ 学習の進度は速いというわけではないが、適切だと考える意見は少なかった。 ◆ 学習相談の利用率は1年次生と同様に低かった。 ◆ 教員の熱意は最も感じていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全学年の中で最も熱意を持って努力している。 ◆ 予習・復習時間はとても長く、他の学年と大きな差が見られる。 ◆ 授業の進度が適切だと考える意見は多かった。 ◆ 学習相談を最も活用していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教科書・指導書を最も高く評価している。 ◆ Cクラスに次ぐものであるが、学習相談の利用度は高かった。 ◆ 最も強く教員の熱意を感じていた。
受講後	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業満足度はそれほど低くはないが、C、Sクラスに次ぐものであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業全体の満足度は最も低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業満足度はSクラスと同様に高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業満足度はCクラスと同様に高かった。



まとめ	<ul style="list-style-type: none"> □ 一部の学生は興味を持って授業に望んでいるが、多くは流されるままに履修届を出し、興味がないまま受講しているのではないかとと思われる。 □ 大きな不満は持っていないが、興味のある授業に熱意を持って取り組ませる仕組みがあれば良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前の興味から受講中の熱意、最終的な満足度とどれも最も低く、全学年の中で最も問題を持っているものと思われる。 □ 大学に慣れて、学習の仕方や時間配分は上手になっているものと思われるが、授業内容のレベルが上がったり、実技が増えるなどして、時間的な余裕がなくなっているのではないかとと思われる。 □ もしくは勉強以外の活動が忙しくなっているという状況も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 授業がより専門化したためか、事前の興味が非常に強くなってきている。 □ 自分自身も努力しており、授業内容や支援の満足度も高く、学生全体の中で最も好循環に入っていると見える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 実質的には卒業研究が大半を占めているものと思われ、回答数は少ない。 □ 満足度は高く、教員の熱意も感じている。 □ 研究室に属するなどして、教員との距離感が変わっているのではないかとと思われる。
-----	--	--	---	---

学部別集計

□ 1、2年次生では学部別に大きな差は見られないが、「環境・建築学部」がやや良い状態にあるようであった。

- ◆ 1、2年次生を学部別に比較したところ、授業内容の専門性も低く共通する部分も多いためだと思われるが、学部間の意識にそれほど大きな差は見られなかった。
- ◆ ただし、細かい差ではあるが「環境・建築学部」のスコアが全体的に高く、次いで「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。
- ◆ 事前の興味は学部による差が大きく、「環境、建築学部」の興味の強さが目立っていた。

成績別集計

□ 不合格であった層は、事前の理解が足りず授業に熱意を持たず、結果として授業に満足できていないという悪循環に陥っている。

- ◆ 成績別に比較すると、全ての設問で成績が良い層のスコアが高く、成績の良くない層のスコアが低いという相関関係が見られた。
- ◆ 不合格であった層は事前の内容理解が足りず、授業に熱意を注ぐことができておらず、結果として満足度も低いという悪循環に陥っていることが考えられる。
- ◆ ただし、どの層も「授業内容は学習支援計画書とよく一致している」と感じており、しっかりと授業が進められていることが分かった。

学系別集計

□ C、Sクラスの学系別では「建築系」「環境系」が良い状態で、「情報系」「機械系」があまり良くない状態であった。

- ◆ C、Sクラスの学系別では「建築系」「環境系」の状態が全体的に良いようであった。特に「建築系」は事前に大きな興味を持って授業を受けており、教員の熱意も強く感じていた。そして、「環境系」は授業の満足度が高い点が目立っていた。
- ◆ 逆に低かったものを見ると、「情報系」が全ての項目で最も低く、特に教科書に対する不満が大きかった。また、「機械系」も全体的に低めであり、この2学系は教員の熱意を感じていないという点も一致していた。

満足度別集計

□ 授業に不満を感じている層は、自分自身は熱心にやっているが、授業の進め方や教員が悪いと責任転嫁している状況も見られた。

- ◆ 全ての設問で満足度が高い層のスコアが高く、それが逆転するものは見られなかった。
- ◆ 他のクロス集計では見られなかったが、「不満」層の加重平均ではマイナススコアになっているものも多く見られた。そして、「自分自身はしっかりと努力しているが、授業の進め方や内容、教員の熱意が非常に悪いと感じている」という責任転嫁のような状況も確認できた。
- ◆ また、満足度が低い層は学習相談の利用率が低い傾向も見られた。

科目区分別集計(1、2年次生で特徴的であった科目区分)

科目区分	特徴
生涯スポーツ	◆ 事前の期待と事前の内容理解が非常に高く、自分自身も非常に積極的に取り組んでおり、当初の期待通り満足度も最も高かった。
修学基礎科目	◆ 事前の興味は非常に低く、加重平均では唯一マイナススコアであった。しかし、事前の内容理解は高く、教員の熱意も強く感じており、結果として満足度も高めであった。 ◆ 科目名から受ける印象のためか事前の興味は非常に低かったが、内容が分かりやすいためか取組姿勢は積極的で最終満足度も高いというような構造があるようであった。
外国語科目	◆ 事前の興味はそれほど高くないが、教員の熱意を感じるなど進め方の評価が高い。 ◆ 「外国語科目」と聞くと内容が分かり切っているためか事前の興味は低いが、学習支援計画書との一致の評価が高く、教員の熱意も強く感じており、満足度が高かった。これも事前の興味のなさを覆した例と言える。
工学基礎科目	◆ 事前の興味が低く、教科書・指導書の評価、教員の熱意の評価も低く、結果として満足度は最も低かった。 ◆ 事前の期待の低さのままの結果となっている。
専門基礎科目	◆ 事前の興味は高かったが、事前の内容理解、学習支援計画書との一致、学習相談の有効性といった支援の評価が低かった。 ◆ 事前に興味は持たれていたが、最終結果として満足度は低く、学生の期待を裏切っているケースと言える。課題として学習支援の問題、難易度の問題、時間的余裕のなさなどがあると思われるが、優先的に対処すべきものと言える。

科目区分別集計(C、Sクラスで特徴的であった科目区分)

科目区分	特徴
人間と文化	◆ 自分の熱意と努力以外の設問は非常に高く、満足度も高かった。 ◆ 内容的にそれほど熱意を持って取り組むものと意識されていないのかもしれないが、事前に興味を持たれて、授業の進め方や教員の熱意も感じられており、結果的に満足度も高い科目であった。
工学設計科目	◆ 自分の熱意と努力が最も高く、C、Sクラスが最も積極的に取り組んでいる科目区分であると言える。 ◆ 学生が事前に興味を持ち、熱意を持って取り組んでおり、結果として満足度も高く、非常に良い状態にあると言える。
専門基礎科目	◆ 自分の熱意と努力は高かったが、その他の設問のスコアが全体的に低かった。 ◆ これらを見ると当初から興味もそれほど強くないが、学生は熱意を持って努力をしている。しかし、授業の進め方や内容の評価は低く教員の熱意も感じられず、満足度も低かった。1、2年生でも専門基礎科目で課題が感じられたが、より詳細な情報を収集し、実態をしっかりと把握する必要があると言える。
専門コア科目	◆ 事前の興味は平均的であったが、その他の設問は全般的に低いスコアであり、満足度も低かった。 ◆ これに関しても内容の難易度や進め方の問題なども考えられるため、詳細な情報を収集して実態を把握する必要があると言える。

授業には熱意を持って取り組んでおり、満足度も非常に高い。

また、H15より継続的に満足度は向上しており、授業の全体状況としては良いと言える。

- ❖ 8割の学生は熱心に受講し、結果として9割の学生が授業に満足している。また、わずかずつではあるがH15より継続的に満足度は向上しており、全体としては非常に良い状態にあると言える。
- ❖ 教員の評価も高く、9割の学生は「教員は熱意を持って授業に取り組んでいる」と回答していた。
- ❖ 教科書や課題、学習支援計画書といったツール類や授業の進度などにも大きな課題は見られなかったが、学習相談の利用率はやや低めであり、低学年や成績が良くない層ほど利用率が低い傾向が見られた。

1年次生は大きな不満はないものの興味を持たないまま流されて授業を受けている傾向が強い。

その流れかもしれないが、2年次生は事前の興味が小さく満足度も低く、あまり良くない状況にあると言える。

- ❖ 1年次生でも一部の学生は興味を持って授業に望んでいるが、多くは流されるままに履修届を出して興味がなく全体概要も分からず、自分にどのような力がつくか分からないまま受講しているのではないと思われる。
- ❖ 2年次生は事前の興味から受講中の熱意、授業の内容、最終的満足度とどれも最も低く、全学年の中で最も課題が多い学年と言える。
- ❖ 2年次生の意識の低さは、学校への慣れや授業内容のレベルアップ、実技が増えたり学習以外の活動への参加が増えることによる時間不足なども考えられるが、1年次生の時点での自主性のなさが残っている可能性も考えられる。
- ❖ Cクラス、Sクラスは自分自身の興味に従って、事前に内容をしっかりと把握して授業を受けているものと思われる。そのため、高学年には「期待はずれ」が少なく、前で見たと同じように満足度も低学年より高いという結果になっていると思われる。

学部・学系では「建築系」「環境系」の授業が良い状態にあるようであった。

また、専門系の授業で期待はずれ、頑張ったが満足できなかったというものが見られた。

- ❖ 1、2年次生では「環境・建築学部」、C、Sクラスでは「建築系」「環境系」の学部の学生がやや充実して授業を受けているようであった。学年によって学部構成が変わるが、これらの学部・学系には何らかのポイントがあると思われる。
- ❖ 科目区分で全体をざっと比較すると、専門の科目区分で「事前の期待が低く満足度も低かった」「興味は高かったが満足度が低かった」「興味はなかったが、熱心に頑張った。しかし満足感は得られなかった」という科目が見られた。
- ❖ 専門科目の課題は全てに共通するものではない。また、授業内容が専門化してレベルアップしたり、課題などで時間を取られるといった点に対する過剰反応があるとも考えられるが、機会があれば詳細を確認しておくべきだと言える。

今回の調査を通して緊急に取り組むべき課題が発見されたわけではないが、将来に向けての課題の整理と対応策をまとめた。

興味、期待を持って履修届を提出できるための情報提供、環境づくりと、最初の授業でしっかりとした全体概要が把握できる仕組みの構築を行う。

履修決定までの情報提供の見直しを行う

- ◆ 履修決定までに詳細な情報を提供することで、事前に興味を持って期待感が高まると共に、ある程度の内容を把握しているため期待はずれを減らすことができるようになると思われる。
- ◆ 主要な情報提供手段である学習支援計画書は、通常の授業実施段階では授業と計画書がよく一致しており、学生の評価は非常に高かったが、授業に入る前段階の情報提供において改善できる点があるのではないかとと思われる。
- ◆ また、学習支援計画書で分からない点に関しては気軽に担当教員や先輩などに聞くことができる仕組みを作ることなども有効ではないかと思われる。

学習支援計画書の事前説明部分の見直しを行う

- ◆ 学習支援計画書の事前説明の内容に関しては下記のような見直しポイントが考えられる。
 1. 現在でも記載されていると思われるが、「目的」をしっかりと把握させるようにする。
 2. カリキュラム全体の中での当該授業がどの位置にあるのか、他の授業とどのような関係にあるのかを明示し、現在、置かれた位置を把握させる。
 3. 当該授業の先にどのような技術、資格、分野、業界への広がりがあるのかを意識させることで、モラルが維持できる環境を演出する。
 4. 当該授業を受けることでどのような能力がつくのかを、できるだけ分かりやすく解説し、よりイメージしやすいものとする。

最初の授業での全体概要説明の見直しを行う

- ◆ 現在もほぼ全ての授業で最初の説明が行われているが、上記の学習支援計画書の見直しと連動して、学生により具体的なイメージを持たせることができるような事前説明を実施する。
- ◆ 具体的には「目的をしっかりと把握させる」「興味と期待を持たせる」「過剰な期待は持たせない」「この授業で自分がどう変わるのかを意識させる」「この授業の先の世界に期待を持たせる」といった説明が有効なのではないかと思われる。

1年次生の指導方法を工夫し、現在の基礎的な授業が自分の将来設計につながっているという意識を持たせ、各授業に興味を持って自主的に取り組むという姿勢にさせることで、2年次生以降の落ち込みを予防する。

**修学基礎 ・ ・ ・ などで大学での勉強の
進め方を指導する**

- ◆ 1年次生はまわりに流されるままに履修届を出し、授業の目的や内容、その先にあるものを意識することなく授業を受けている状況が考えられる。
- ◆ 現在でも同様の指導が実施されていると思われるが、1年次生向けの指導をさらに強化することを検討しても良いのではないかとと思われる。
- ◆ 内容的には「自主性の重要性」「各授業が将来につながっていることの再認識」「学問の全体体系の把握」といったものがテーマになるとと思われる。

**低学年はあえて教員の熱意で引っぱる
指導を行う**

- ◆ 上記とやや矛盾する内容であるが、修学基礎 ・ ・ ・ などで指導しても低学年(特に1年次生)は教員の熱意に引っぱられようとする意識が残るとと思われるため、教員が意識して熱意を持って引っぱる指導をする必要もあると言える。
- ◆ 熱意を持って指導をする中で、機会がある毎に「授業の目的」「学問全体の中での位置づけ」「将来に向けての重要性」「授業の先にある世界」を意識させることで、その授業と先に対する興味と期待を持たせるようにすることができるのではないかとと思われる。特に自己点検授業での次に続く授業の説明は効果的であると思われる。
- ◆ 内容的に考えると「熱意を持った指導」というよりも「学生を引っぱる指導」といういい方が合っているとも言える。

**各授業単体ではなく、各授業がつながって
いることを意識させる指導を行う**

- ◆ 学習支援計画書、修学基礎 ・ ・ ・ や各学科での入門・概論科目などで各授業のつながりは説明されていると思われるが、学生は各授業を単体として捉え、対処している傾向が強いと思われる。今後、全てが一本の線につながっていることを意識させることをさらに推し進める必要があると言える。
- ◆ 上記にあるように修学基礎 ・ ・ ・ や各学科での入門・概論科目では各授業の位置づけを図示したカリキュラムガイドブックを使用して、関係性を把握させる指導をいっそう推し進める必要があると考えられる。
- ◆ また、各授業では1回目の授業の際に「その授業の下敷きになっている授業」を確認し、必要に応じてそれらを自主的に復習できるように意識させる。また、機会がある毎に「その授業の先にある技術、資格、分野、業界」などを意識させることで、各学生の目的意識と一致しやすいようにするといった指導が考えられる。

**現在の課題の更なる明確化と施策検討のため、
インタビューなどによって情報収集を行い、分析を進める。**

<p>学習支援計画書の評価を聞き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習支援計画書は通常の授業実施段階では授業と計画書がよく一致しており、学生の評価は非常に高かったが、少し踏み込んだ評価を聞き、今後の改善につながりそうな情報を収集する。 ◆ まず、学習支援計画書がどのような場面で、どのような頻度で利用されており、どのような評価を受けているのかを聞き、不備があれば改善案として取りまとめる。 ◆ そして、履修前に更なる情報を提供する手段として考えた場合、利用意向はどの程度あるのか、どのような情報ニーズがあるのかを聞き出し、内容の検討に活用する。
<p>学年による意識変化を聞き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在、1年次生の自主性のなさが2年次生の満足度の低さにつながっているといった仮説を立てているが、学年によってどのように意識が変わっているのかを聞き出し、仮説の検証を行う。 ◆ 上記の仮説の検証に従って、現在考えている課題と対処方法の見直しを行い、より有益なものとして実施につなげていく。
<p>学部、学科による意識の違いを聞き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「建築系」「環境系」が良い状態にあったようであるが、それらが他の学部、学系とどのように異なっているのか実態を把握する。
<p>科目区分による取組の違いを聞き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 専門の科目区分で「事前の期待が低く満足度も低かった」「興味は高かったが満足度が低かった」「興味はなかったが、熱心に頑張った。しかし満足感は得られなかった」という科目が見られたが、これらの実態を把握する。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習相談の利用率がそれほど高くなかったが、これは利用する必要性がないためなのか、利用するために何らかの障害があるのかを確認する。 ◆ 調査方法、質問方法も異なるため比較は難しいが、「総合アンケート」では授業に満足しているという回答は半数程度であり、この「授業アンケート」の満足度とは大きな差が見られた。これが聞き方等によるものなのか、記名・無記名の差によるものなのかなど、「差」に関しての分析を行っておくべきだと言える。